

南島原市文化財調査報告書 第27集

出口 遺跡

—県営水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帶扱い手育成型・諏訪地区）に伴う発掘調査—

2021

長崎県南島原市教育委員会

南島原市文化財調査報告書 第27集

出口 遺跡

—県営水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帶扱い手育成型・諏訪地区）に伴う発掘調査—

2021

長崎県南島原市教育委員会

発刊にあたって

本書は、長崎県による水利施設等保全高度化事業特別型（畠地帯担い手育成型・諒訪地区）に伴い実施した出口遺跡の発掘調査報告書です。

出口遺跡は、事業の計画段階で実施した試掘調査によってその存在が明らかとなり、今回の本発掘調査を実施することになりました。発掘調査では、縄文時代後・晩期の遺物を多数検出し、また、中世期の方形区画の可能性のある溝や掘立柱建物群などを確認いたしました。南島原市には中・近世を代表する遺跡として国史跡原城跡や国史跡日野江城跡が知られていますが、これまでの発掘調査で中世期における城跡以外の遺跡の様相が明らかになったことはまれであり、今回の成果は非常に貴重なものといえます。

今後は、これらの成果を学術や教育の場面において有効に活用するとともに、引き続き埋蔵文化財の保護に努めていく所存です。

末尾にはなりましたが、発掘調査の実施にご協力くださいました土地の所有者と耕作者の皆様、近隣にお住まいの皆様、工事関係の方々、発掘作業と整理作業に従事くださいました方々に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月31日

南島原市教育委員会

教育長 永田 良二

例　　言

- 1 本書は、出口遺跡（長崎県南島原市深江町出口所在）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、長崎県が事業主体である水利施設等保全高度化事業特別型（畠地帯担い手育成型・調査地区）に伴って実施した。
- 3 調査は、長崎県南島原市教育委員会が主体となって以下の期間・面積で実施した。

試掘調査	平成22年7月5日～平成23年3月23日	調査坑30箇所120m ²
	平成26年8月25日～平成26年11月26日	追加工区・調査坑5箇所20m ²
本調査	平成28年8月1日～平成28年11月30日	1,334m ²
	平成29年10月24日～平成30年3月23日	1,460m ²
	平成30年8月20日～平成31年3月13日	1,788m ²
	令和元年8月21日～令和元年10月11日	50m ²
- 4 現地調査及び本書作成にかかる整理調査の体制と担当は、以下のとおりである。
調査体制

南島原市教育委員会	教育長	定方 郁夫（～平成26年7月）
	同 上	永田 良二（平成26年8月～）
	教育次長	井口 敬次（～平成22年度）
	同 上	水島 文昌（平成23年度～平成25年度）
	同 上	渡部 博（平成26年度～平成28年度）
	同 上	深松 良蔵（平成29年度～平成31年度）
	同 上	栗田 一政（令和2年度）
	理事事務室	宮崎 誠（平成31年度）
文化財課	課長	松本 慎二（平成22年度～平成31年度）
	課長	岡野 博明（令和2年度）
文化財課文化財班	班長	林田 順助（～平成25年度）
	同 上	木村 岳士（平成26年度～平成29年度）
	同 上	末永 透（平成30年度）
	同 上	鬼塚 俊範（平成31年度）
	同 上	梶原 知治（令和2年度）
- 5 調査担当
試掘調査
南島原市教育委員会 文化財課文化財班 学芸員 本多 和典
- 6 本調査
南島原市教育委員会 文化財課文化財班 学芸員 本多 和典（平成28・29年度）
南島原市教育委員会 文化財課文化財班 学芸員 竹村 南洋（平成30・31年度）
㈱埋蔵文化財サポートシステム長崎支店 立石 和也（平成28年度）
同 上 松崎 卓郎（平成29年度）
- 7 試掘調査における写真撮影、調査坑配置図及び土層実測図の作成は、本多が行った。
- 8 本調査における写真撮影及び個別遺構実測図の作成は、本多・竹村が行った。また、遺構配置図及び土層実測図の作成、航空写真撮影は、㈱埋蔵文化財サポートシステム長崎支店、㈱プロレリックに委託した。
- 9 遺物の実測は、壹岐美由紀、松原加歩が行い、一部は、㈱島田組長崎営業所に委託した。拓本は、関口正吏、横田香織、石江真衣が行った。製図は、遺構配置図と石器については、㈱島田組長崎営業所に委託し、その他は、竹村、松原、細波泉が行った。遺物の写真撮影は、三宅圭子、飛永弘恵の協力のもと本多が行った。
- 10 本調査の執筆・編集は、本多による。

目 次

第Ⅰ章 はじめに	1
1 出口遺跡の位置と周辺地理	1
2 周辺遺跡	1
第Ⅱ章 試掘調査	4
1 調査に至る経緯	4
2 調査の方法	4
3 調査の成果	4
第Ⅲ章 本調査	9
1 調査の方法	9
2 基本土層	9
3 遺構	17
(1) 概要	17
(2) 土坑	17
(3) 大溝	17
(4) 掘立柱建物	22
(5) 柱穴列	22
4 出土遺物	40
(1) 土器・陶磁器ほか	40
(2) 石器	58
(3) 金属器	79
第Ⅳ章 自然科学分析	83
第Ⅴ章 まとめ	87

挿図目次

第1図 出口遺跡位置図 (S=1/100,000)	2
第2図 出口遺跡と周辺遺跡 (S=1/100,000)	3
第3図 調訪地区調査坑配置図 (S=1/6,000)	5
第4図 調訪地区調査坑土層実測図① (S=1/50)	6
第5図 調訪地区調査坑土層実測図② (S=1/50)	7
第6図 調訪地区調査坑土層実測図③ (S=1/50)	8
第7図 グリッド配置図 (S=1/2,000)	10
第8図 調査小区配置図 (S=1/2,000)	10
第9図 土層実測図① (S=1/80)	11・12
第10図 土層実測図② (S=1/80)	13・14
第11図 土層実測図③ (S=1/80)	15・16
第12図 遺構配置図 (全体) (S=1/800)	18
第13図 遺構配置図 (A～D区) (S=1/500)	19
第14図 遺構配置図 (E～G区) (S=1/500)	20
第15図 遺構配置図 (H・I区) (S=1/500)	21
第16図 土坑実測図 (S=1/20)	23
第17図 大溝1・大溝2実測図 (S=1/150)	23
第18図 大溝2土層実測図 (S=1/80)	23
第19図 土坑内出土遺物 (S=1/3)	24
第20図 大溝1・大溝2内出土遺物 (S=1/3)	25
第21図 掘立柱建物1実測図 (S=1/80)	26
第22図 掘立柱建物2実測図 (S=1/80)	26
第23図 掘立柱建物3実測図 (S=1/80)	27
第24図 掘立柱建物4実測図 (S=1/80)	27
第25図 掘立柱建物5実測図 (S=1/80)	28
第26図 掘立柱建物6実測図 (S=1/80)	28
第27図 掘立柱建物7実測図 (S=1/80)	29
第28図 掘立柱建物8実測図 (S=1/80)	29
第29図 掘立柱建物9実測図 (S=1/80)	30
第30図 掘立柱建物10実測図 (S=1/80)	30
第31図 掘立柱建物11実測図 (S=1/80)	31
第32図 掘立柱建物12実測図 (S=1/80)	31
第33図 掘立柱建物13実測図 (S=1/80)	32
第34図 掘立柱建物15実測図 (S=1/80)	32
第35図 掘立柱建物14実測図 (S=1/80)	33

第36図	掘立柱建物16実測図 (S=1/80)	34
第37図	掘立柱建物17実測図 (S=1/80)	34
第38図	掘立柱建物18実測図 (S=1/80)	35
第39図	掘立柱建物19実測図 (S=1/80)	35
第40図	掘立柱建物20実測図 (S=1/80)	36
第41図	掘立柱建物21実測図 (S=1/80)	36
第42図	掘立柱建物22実測図 (S=1/80)	37
第43図	掘立柱建物23実測図 (S=1/80)	37
第44図	掘立柱建物24実測図 (S=1/80)	38
第45図	掘立柱建物25実測図 (S=1/80)	38
第46図	柱穴列1 実測図 (S=1/80)	39
第47図	柱穴列2 実測図 (S=1/80)	39
第48図	土器・陶磁器ほか実測図① (S=1/3)	41
第49図	土器・陶磁器ほか実測図② (S=1/3)	42
第50図	土器・陶磁器ほか実測図③ (S=1/3)	43
第51図	土器・陶磁器ほか実測図④ (S=1/3)	44
第52図	土器・陶磁器ほか実測図⑤ (S=1/3)	45
第53図	土器・陶磁器ほか実測図⑥ (S=1/3)	47
第54図	土器・陶磁器ほか実測図⑦ (S=1/3)	48
第55図	土器・陶磁器ほか実測図⑧ (S=1/3)	49
第56図	土器・陶磁器ほか実測図⑨ (S=1/3)	50
第57図	石器実測図① (S=2/3)	59
第58図	石器実測図② (S=2/3)	60
第59図	石器実測図③ (S=1/2)	61
第60図	石器実測図④ (S=2/3)	63
第61図	石器実測図⑤ (S=2/3)	64
第62図	石器実測図⑥ (S=2/3)	65
第63図	石器実測図⑦ (S=2/3)	67
第64図	石器実測図⑧ (S=2/3)	68
第65図	石器実測図⑨ (S=1/3)	69
第66図	石器実測図⑩ (97~100, 102~108 : S=1/3, 101 : S= 1/2)	71
第67図	石器実測図⑪ (S=1/4)	72
第68図	石器実測図⑫ (112 : S=1/3, 113 : S= 1/4)	73
第69図	石器実測図⑬ (S=1/3)	74
第70図	石器実測図⑭ (S=1/3)	75
第71図	石器実測図⑮ (S=1/3)	76
第72図	石器実測図⑯ (S=1/3)	77

第73図	石器実測図⑯ (S=2/3)	78
第74図	金属器実測図 (S=1/3)	79
第75図	曆年較正図	85
第76図	試料採取土器実測図 (S=1/3)	86
第77図	遺物分布図① [遺物全体] (S=1/800)	90
第78図	遺物分布図② [土器全体 (土師質土器含む)] (S=1/800)	91
第79図	遺物分布図③ [2群全体] (S=1/800)	92
第80図	遺物分布図④ [2群 (層位別) III層, IV層] (S=1/800)	93
第81図	遺物分布図⑤ [2群 (層位別) V層] (S=1/800)	94
第82図	遺物分布図⑥ [3群 (層位別) III層, IV層, V層] (S=1/800)	95
第83図	遺物分布図⑦ [4群 (層位別) III層, IV層, V層] (S=1/800)	96
第84図	遺物分布図⑧ [4群 (種別) 土師質土器] (S=1/800)	97
第85図	遺物分布図⑨ [4群 (種別) 瓦質土器, 須恵質土器, 陶器] (S=1/800)	98
第86図	遺物分布図⑩ [4群 (種別) 白磁, 青磁, 青花] (S=1/800)	99
第87図	遺物分布図⑪ [石器全体] (S=1/800)	100
第88図	遺物分布図⑫ [石器 (層位別) III層] (S=1/800)	101
第89図	遺物分布図⑬ [石器 (層位別) IV層] (S=1/800)	102
第90図	遺物分布図⑭ [石器 (層位別) V層] (S=1/800)	103
第91図	遺物分布図⑮	104
	〔石器 (黒曜石, V層・器種別) 石核, 刺片, 碎片〕 (S=1/800)	
第92図	遺物分布図⑯ [石器 (サヌカイト・V層・器種別) 刺片] (S=1/800)	105
第93図	遺物分布図⑰	106
	〔石器 (V層・器種別) スクレイパー, 石鏃, 石鏃未成品, 二次加工剥片・微細剥離剥片〕 (S=1/800)	
第94図	遺物分布図⑱ [石器 (V層・器種別) 打製石斧, 磨製石斧] (S=1/800)	107
第95図	遺物分布図⑲ [石器 (V層・器種別) 砥石, 石皿/台石, 台石/砥石] (S=1/800)	108
第96図	遺物分布図⑳ [石器 (V層・器種別) 磨石, 敲石] (S=1/800)	109
第97図	遺物分布図㉑ [石器 (器種別) 石鍋] (S=1/800)	110
第98図	遺物分布図㉒ [石器 (石材別) 黒曜石] (S=1/800)	111
第99図	遺物分布図㉓ [石器 (石材別) サヌカイト] (S=1/800)	112
第100図	遺物分布図㉔ [石器 (石材別) 安山岩] (S=1/800)	113
第101図	遺物分布図㉕ [石器 (石材別) 砂岩] (S=1/800)	114
第102図	遺物分布図㉖ [石器 (石材別) 結晶片岩] (S=1/800)	115
第103図	遺物分布図㉗ [石器 (石材別) 滑石] (S=1/800)	116
第104図	遺物分布図㉘ [鉄器 (層位別)] (S=1/800)	117
第105図	遺物分布図㉙ [鉄器 (器種別)] (S=1/800)	118
第106図	遺物分布図㉚ [鉄滓 (層位別)] (S=1/800)	119

表 目 次

第1表 土坑内出土遺物觀察表.....	25
第2表 大溝1・大溝2内出土遺物觀察表.....	25
第3表 掘立柱建物一覧.....	39
第4表 柱穴列一覧.....	39
第5表 土器・陶磁器ほか觀察表①.....	51
第6表 土器・陶磁器ほか觀察表②.....	52
第7表 土器・陶磁器ほか觀察表③.....	53
第8表 土器・陶磁器ほか觀察表④.....	54
第9表 土器・陶磁器ほか觀察表⑤.....	55
第10表 土器・陶磁器ほか觀察表⑥.....	56
第11表 土器・陶磁器ほか觀察表⑦.....	57
第12表 石器觀察表①.....	79
第13表 石器觀察表②.....	80
第14表 石器觀察表③.....	81
第15表 石器觀察表④.....	82
第16表 金属器觀察表.....	82
第17表 測定試料及び処理.....	83
第18表 測定結果.....	84
第19表 出土遺物（調査区分）内訳.....	89
第20表 出土遺物（種別）内訳.....	89
第21表 土器・陶磁器（種別）内訳.....	89
第22表 土器・陶磁器（時期別）内訳.....	89
第23表 石器（器種別）内訳.....	89
第24表 石器（石材別）内訳.....	89
第25表 金属器内訳.....	89

図版目次

図版1	出口遺跡航空写真①	123
図版2	出口遺跡航空写真②	124
図版3	出口遺跡航空写真③	125
図版4	調査地区（追加工区）試掘調査①	126
図版5	調査地区（追加工区）試掘調査②	127
図版6	E区調査前状況（北東から）、G区調査前状況（南東から）	128
図版7	表土剥ぎ状況①、表土剥ぎ状況②	129
図版8	作業状況	130
図版9	埋め戻し状況①、埋め戻し状況②	131
図版10	平成30年度本調査区（A～D区）	132
図版11	平成29年度本調査区（E～G区）	133
図版12	平成28年度本調査区（H・I区）	134
図版13	大溝検出状況	135
図版14	D区V層上面遺構検出状況	136
図版15	A・B区V層上面遺構検出状況	137
図版16	F・G区V層上面遺構検出状況	138
図版17	E・F区V層上面遺構検出状況	139
図版18	A区北西壁土層、D区南東壁土層	140
図版19	G区北西壁土層、G区北東壁土層	141
図版20	H区北西壁土層、I区北西壁土層①	142
図版21	I区北西壁土層②、大溝堆積状況	143
図版22	土坑検出状況①、土坑検出状況②	144
図版23	大溝1・2検出状況（北から）、大溝1・2検出状況（西から）	145
図版24	土坑内出土遺物	146
図版25	大溝1・大溝2内出土遺物	147
図版26	掘立柱建物1・2検出状況（北から）、掘立柱建物3・4検出状況（南東から）	148
図版27	掘立柱建物5・6・7検出状況（東から）、掘立柱建物10・柱穴列1検出状況（北から）	149
図版28	掘立柱建物11検出状況（南から）、掘立柱建物14・15検出状況（北から）	150
図版29	掘立柱建物16・17検出状況（南東から）、掘立柱建物18・19検出状況（北から）	151
図版30	掘立柱建物20検出状況（北東から）、掘立柱建物21・22検出状況（南東から）	152
図版31	掘立柱建物23検出状況（西から）、掘立柱建物24検出状況（北東から）	153
図版32	掘立柱建物24・25検出状況（北から）	154
図版33	A区Ⅲ層遺物検出状況（西から）、D区Ⅲ層遺物検出状況（東から）	155
図版34	E区Ⅲ層遺物検出状況（北東から）、E区Ⅳ層遺物検出状況（北東から）	156
図版35	F区Ⅲ層遺物検出状況（北から）、F区Ⅳ層遺物検出状況（南東から）	157

図版36	H区Ⅲ層遺物検出状況（北東から）、I区Ⅲ層遺物検出状況（北東から）	158
図版37	H区Ⅳ層遺物検出状況（北東から）、I区Ⅳ層遺物検出状況（北東から）	159
図版38	H区V層遺物検出状況（北東から）、I区V層遺物検出状況（東から）	160
図版39	遺物出土状況①	161
図版40	遺物出土状況②	162
図版41	土器・陶磁器ほか①	163
図版42	土器・陶磁器ほか②	164
図版43	土器・陶磁器ほか③	165
図版44	土器・陶磁器ほか④	166
図版45	土器・陶磁器ほか⑤	167
図版46	土器・陶磁器ほか⑥	168
図版47	土器・陶磁器ほか⑦	169
図版48	土器・陶磁器ほか⑧	170
図版49	土器・陶磁器ほか⑨	171
図版50	土器・陶磁器ほか⑩	172
図版51	土器・陶磁器ほか⑪	173
図版52	土器・陶磁器ほか⑫	174
図版53	石器①	175
図版54	石器②	176
図版55	石器③	177
図版56	石器④	178
図版57	石器⑤	179
図版58	石器⑥	180
図版59	石器⑦	181
図版60	石器⑧	182
図版61	石器⑨	183
図版62	石器⑩	184
図版63	石器⑪	185
図版64	金属器	186

第Ⅰ章 はじめに

1 出口遺跡の位置と周辺地理

南島原市は島原半島の南東部に位置し、そのなかで出口遺跡の所在する南島原市深江町は、市域の北部に位置し、市境となる水無川をまたいで島原市と隣接している。

島原半島は、長崎県の交通の要衝である諫早地域と幅約3キロメートルの愛野地峡によってつながっている。胃袋形をなす半島の中央には、雲仙火山の山々が裾野を広げている。雲仙火山の現在の主峰は、平成新山（標高1,483m）となっている。これは1990年に198年ぶりに当時の主峰であった普賢岳（標高1,359m）が噴火し、ほどなくして普賢岳山頂に溶岩ドームが出現して成長と崩落を繰り返したが、その後この平成噴火時の溶岩ドームが山頂にそのまま残り、平成新山と命名された。噴火当時は、火碎流や土石流が頻発し、ふもとの南島原市深江町や隣接する島原市では犠牲者・行方不明者がおり、多くの民家が焼失、流失したりするなど、甚大な被害に見舞われた。

出口遺跡は、雲仙火山から有明海へと広がる火山性の扇状地。「深江原（ふかえ原）」の標高35～40m付近に立地している。遺跡から見える海岸線は、深江・布津断層の隆起・沈降によって深く湾入しており、有明海を挟んだ対岸には熊本平野や宇土半島を望むことができる。

2 周辺遺跡

南島原市深江町域の大部分は、雲仙火山の噴出物が厚く堆積した火山性扇状地となっており、およそ1万年前に形成されたと考えられる。そうした地質的環境ゆえに扇央部は水資源に乏しく、遺跡の展開においても空白地帯となっている。町域における遺跡の分布は、湧水のみられる標高200m前後の地形変換地点、海岸に近い扇端部付近、それから町域南西側の深江断層に沿って有明海へと注ぐ深江川流域に点在している。

旧石器時代の遺跡については、扇状地を形成する火山性噴出物の堆積下に存在するものと思われ、現在までに確認はできていない。近年開発事業に伴う発掘調査の成果が蓄積されてきており、特に縄文時代の資料が充実している。

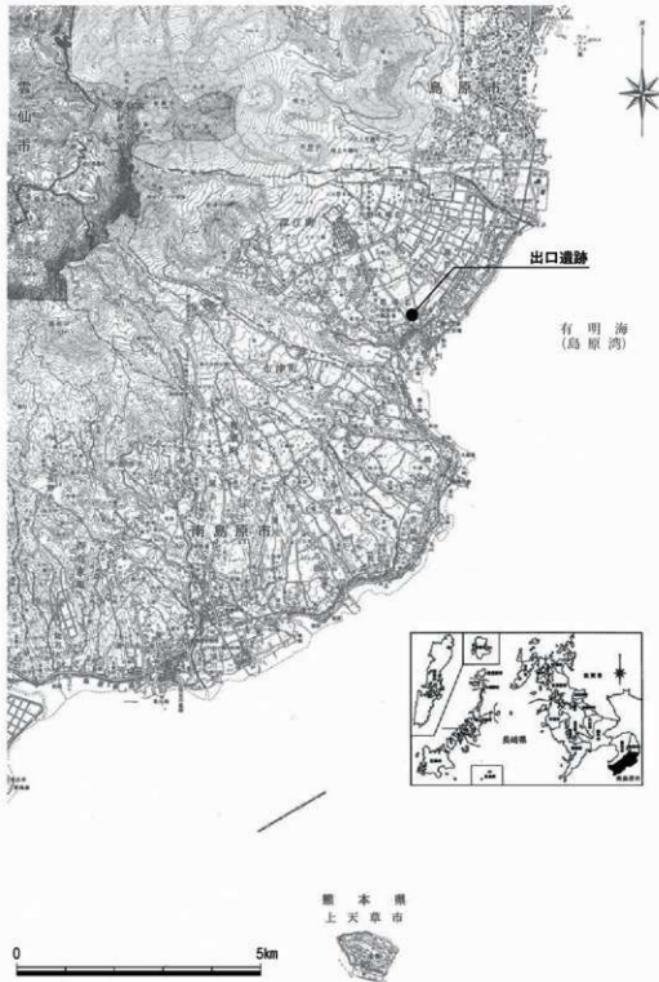
雲仙普賢岳の平成噴火の鎮静後には、ふもとの水無川流域で砂防工事が継続して行われてきたが、導流堤等の建設工事に伴って発掘調査の実施された権現脇遺跡では、縄文時代末から突帯文期にかけての資料が多数出土している。

山ノ寺櫛木遺跡は、突帯文期に位置づけられる「山ノ寺式土器」の標識ともなっている遺跡である。日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会や百人委員会による発掘調査が実施され、権現脇遺跡同様、縄文時代末から突帯文期の資料の出土がある。

古江・田中地区は場整備事業においては、下末宝遺跡、上畦津遺跡の発掘調査が実施されている。下末宝遺跡からは縄文時代早期の押型文土器が多数出土している。上畦津遺跡では、縄文時代早期の一野式土器や弥生時代の遺物などが検出されている。

出口遺跡と同じく、諫訪地区は場整備事業によって発掘調査を実施した諫訪ノ上遺跡では、多数の刻目突帯文土器や紡錘車、打製石斧などが出土している。

市道改良工事に伴う大坂遺跡の発掘調査では、縄文時代晩期の遺物の出土がある。同じく道路改良

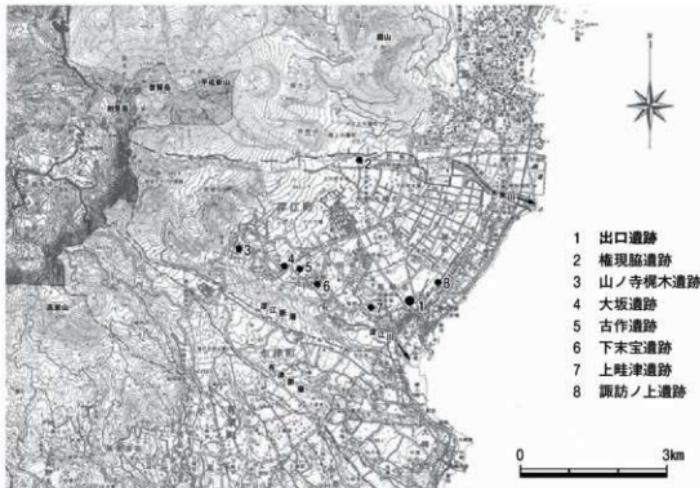


第1図 出口遺跡位置図 (S=1/100,000)

工事を原因とする古作遺跡の発掘調査では、縄文時代早・前期及び縄文時代後期の資料がまとまって出土している。

【参考文献】

- 深江町郷土誌編さん委員会 1971 「深江町郷土誌」 深江町
古田 正隆 1973 「山の寺桜木遺跡」 百人委員会埋蔵文化財報告書第1集 百人委員会
本多 和典編 2005 「下末宝遺跡・上畦津遺跡」 深江町文化財調査報告書第1集 深江町教育委員会
本多 和典編 2006 「椎現脇遺跡」 深江町文化財調査報告書第2集 深江町教育委員会
本多 和典 2007 「椎現脇遺跡」 南島原市文化財調査報告書第1集 南島原市教育委員会
本多 和典 2018 「古作遺跡」 南島原市文化財調査報告書第10集 南島原市教育委員会
小川 慶晴編 2018 「大坂遺跡」 南島原市文化財調査報告書第16集 南島原市教育委員会
本多 和典 2020 「諏訪ノ上遺跡」 南島原市文化財調査報告書第20集 南島原市教育委員会
本多 和典 2020 「椎現脇遺跡」 南島原市文化財調査報告書第21集 南島原市教育委員会



第2図 出口遺跡と周辺遺跡 (S=1/100,000)

第Ⅱ章 試掘調査

1 調査に至る経緯

長崎県島原振興局及び南島原市農林水産部農村整備課により南島原市深江町諏訪地区においては場整備事業が計画された。事業範囲は主に深江小・中学校裏手、旧島原鉄道跡地からグリーンロードにまたがる畠地一帯である。事業区域においてはその時点で周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかったものの、事業面積が広大であったこと、隣接地に二本椎遺跡や井手口キリシタン墓地が知られていたこと、事業区域内の現地踏査においても遺物の表面採集が可能であったことから、南島原市教育委員会は試掘調査が必要であると判断した。

2 調査の方法

調査は平面2m四方の調査坑を設定して人力による掘削を行った。掘削は、遺構・遺物の有無を確認しながら層位ごとに行い、およそ1万年前と考えられる土石流堆積物の検出をもって一応の掘削完了と定め、調査坑壁面の土層堆積状況の実測図作成と写真撮影を行った。また、必要に応じて作業状況、各面での遺構や遺物の検出状況の図面作成と写真撮影も行った。

試掘調査は、平成22年度にTP.1～TP.30の30カ所の調査坑を設定して実施したが、その後工区の追加が行われたことから、平成26年度にTP.31～TP.35の5カ所の調査坑を設定して補完の試掘調査を行った。

試掘調査の実施にあたっては、事業区域の作付の主体が葉タバコであることを考慮し、おもに8月から11月を調査の時期にあてた。

3 調査の成果

深江町域では近年開発事業によって基本土層が整理されつつあり、おおよそ以下のとおりとなっている。

I層 暗褐色土。耕作土。

II層 暗褐色土。近世以降の造成土。

III層 黒色～暗褐色土。縄文時代後期～中世の遺物を包含する場合が多い。

IV層 浅黄橙色火山灰。雲仙層山の火山活動に伴う火山噴出物。權現脇火砕サージ。

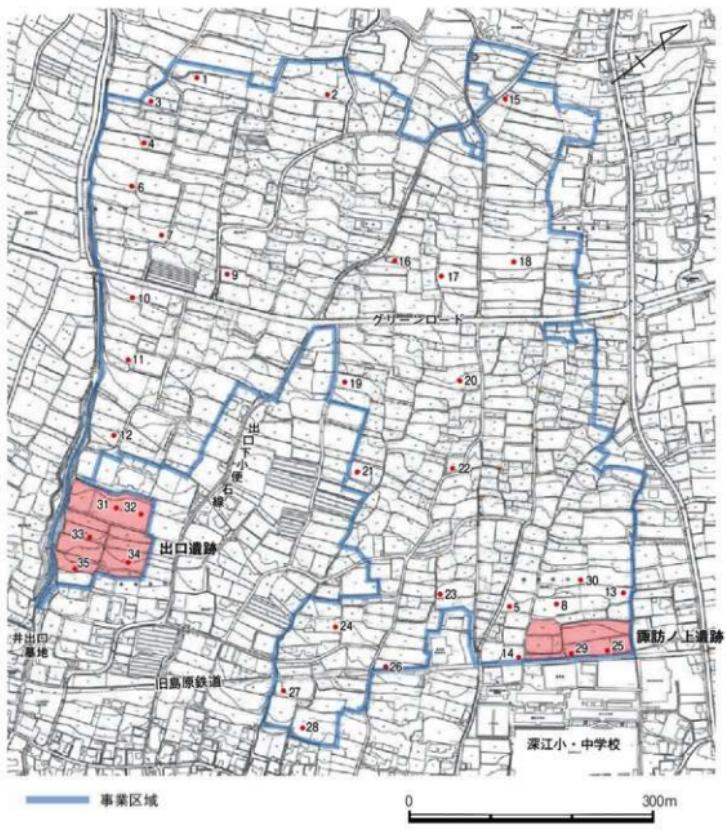
V層 明黄褐色～暗黄褐色土。縄文時代早期の遺物を包含する場合が多い。

VI層 黒色土。

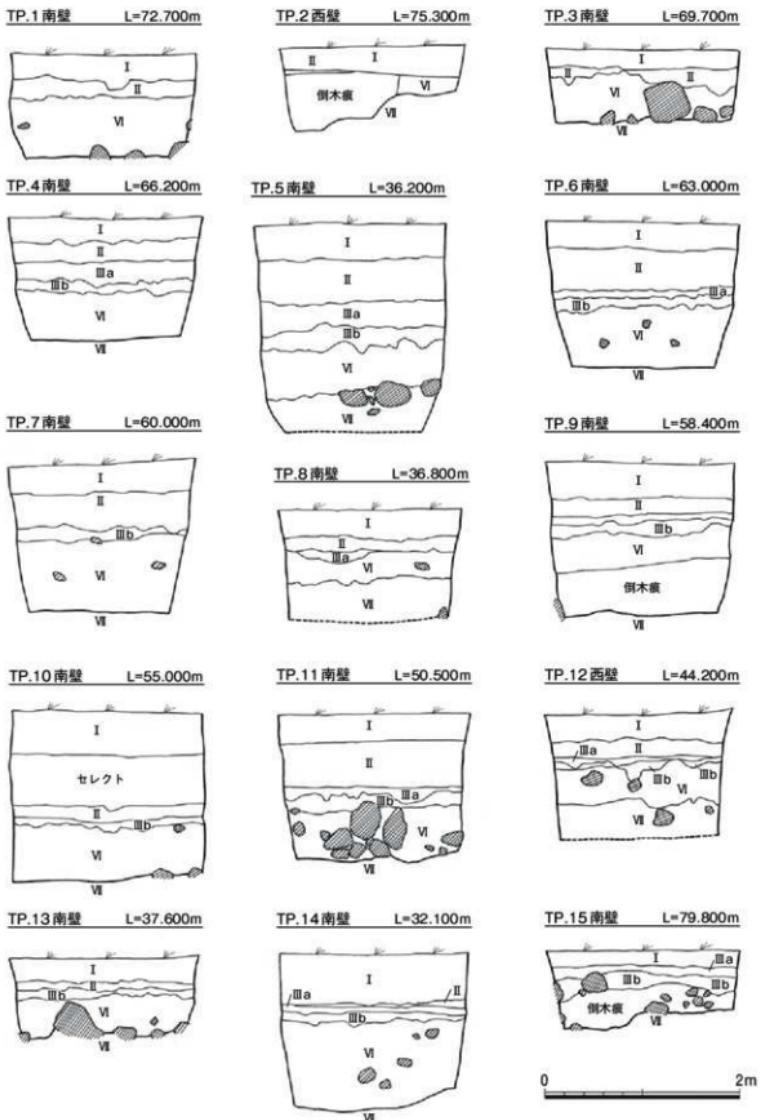
VII層 灰白色砂礫。およそ1万年前と考えられる雲仙の火山噴火に伴う厚い土石流堆積物。

試掘調査の結果、事業計画地においては深江町域の基本土層と同様の土層堆積が確認されたが、IV層及びV層については検出されなかった。また、III層については、IIIa層（黒色土）とIIIb層（暗褐色土）に分層が可能であった。

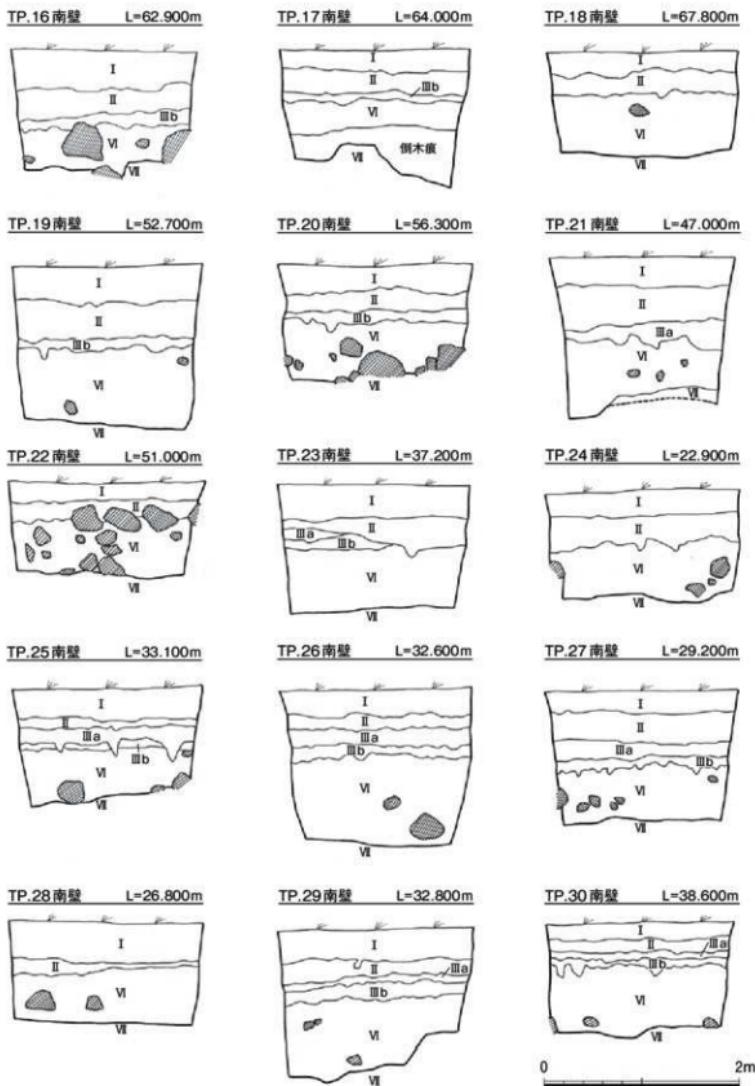
TP.25、TP.29においては縄文時代末から弥生時代初頭にかけての遺物の出土がみられ、約6,000m²「諏訪ノ上遺跡」を新規発見の遺跡として登録した。また、追加工区のTP.31～TP.35では、縄文時代後期の土器や中世の土師皿などを検出し、約11,000m²を「出口遺跡」として新規発見の遺跡として登録した。



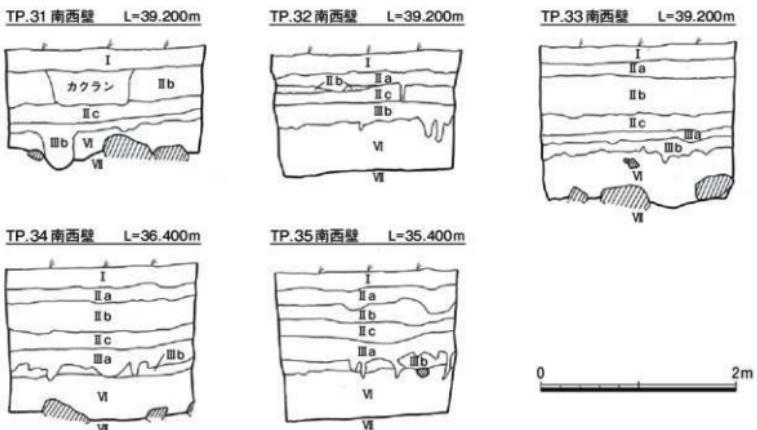
第3図 諏訪地区調査坑配置図 (S=1/6,000)



第4図 講訪地区調査坑土層実測図① (S=1/50)



第5図 諏訪地区調査坑土層実測図② (S=1/50)



第6図 講訪地区調査坑土層実測図③ (S=1/50)

第III章 本調査

1 調査の方法

本調査は、平成28年度から4か年にわたって海手より順に実施した。年度ごとに以下の手順で調査を進めた。

調査範囲の設定は開発事業者で行い、発掘調査担当者と開発事業者の現地打ち合わせのち、まず重機による表土剥ぎを行った。その後調査グリッドの設定を行ったが、調査グリッドは4m四方とし、世界測地系に則って、X=-30580、Y=79380の地点をA1として原点に定め、出口遺跡全体を覆うように設定した。グリッド名称については、北から南へアルファベットを、西から東へアラビア数字を割り当て、北西隅の地点名をもって各調査グリッドの名称とした。また、調査グリッドとは別に、調査区の部分名称としてA区～I区の調査小区を設定し、図面作成や写真撮影などの記録作業において用いた。

表土剥ぎ後の掘削作業は人力によって行った。掘削作業においては、主要な遺物包含層の掘削着手前に上層土の取り残しや石垣裏込め、攪乱部などの除去を丹念に行い、混入遺物の排除に努めた。調査区全体として、近世以降に果樹園や耕作地としての土地利用が長らく行われてきた地点であったため、ほ場造成による削平と造成、肥溜めのための甕埋設、農道敷設、排水溝の掘り込みなどが各所にみられた。また、A～G区では平面直径1m程度の円形掘り込みが多数検出され、床面直上では多くの場合炭化物が確認された。これらは果樹栽培用の肥料穴であると判断される。

主要な遺物包含層については、遺物の出土地点の座標観測を行い、ドットマップを作成した。遺構の検出作業は、層位ごとの遺物の検出・取り上げのうちに各段階で行い、遺構の掘削については、半裁して遺構の規模や性格、堆積状況などの確認に努め、その後完掘した。遺構内出土の遺物があった場合には、遺構番号をそれぞれに割り振って取り上げを行った。各面での遺構を完掘した段階で遺構配置図の作成を行うとともに、全般的な検出状況の写真撮影を行った。また、必要に応じて個別の遺構について、実測図を作成するとともに写真撮影を行った。

各調査小区の堆積状況については、掘削が完了した段階で壁面等の土層実測図を作成するとともに、写真撮影を行った。

2 基本土層

出口遺跡の本調査における基本土層は、以下のとおりである。

I層 灰黄褐色土。耕作土。

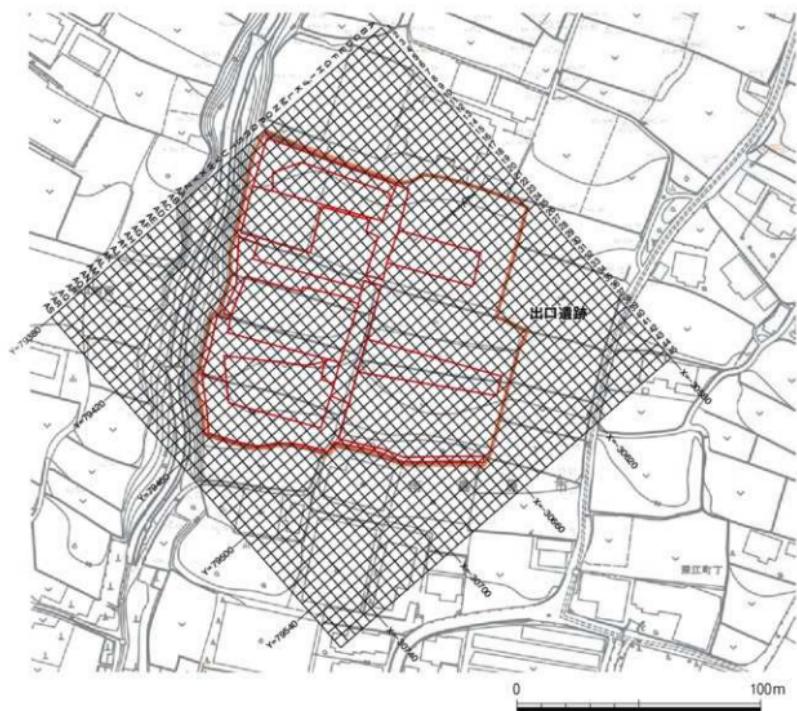
II層 褐灰色土。近世以降の造成土。

III層 黒褐色土。(中世の遺物包含層)

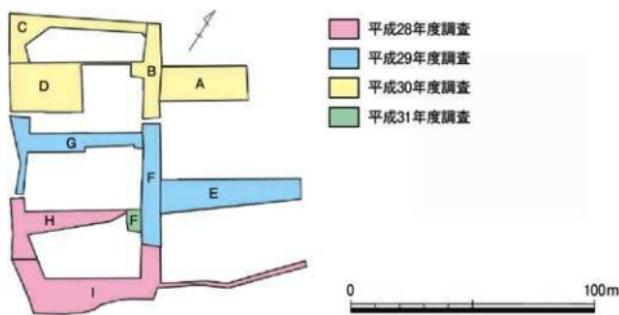
IV層 黒色土。(中世の遺物包含層。深江町域基本土層III層)

V層 黑褐色土。(縄文時代後・晩期の遺物包含層。深江町域基本土層III層)

III層については、中世の遺物がある程度まとまって出土するものの、土質・土色的にはIV層の二次堆積の可能性を考慮しておく必要がある。

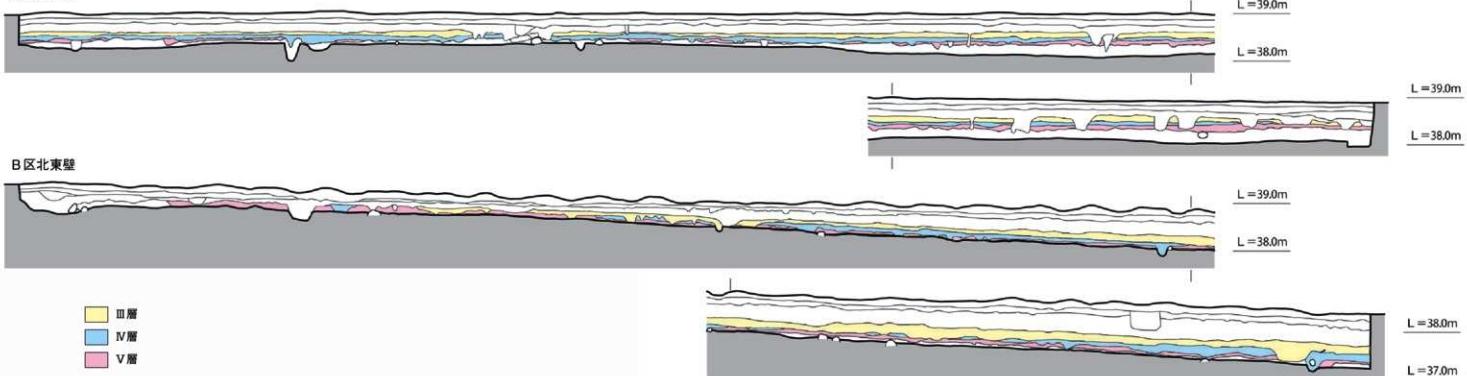


第7図 グリッド配置図 (S=1/2,000)

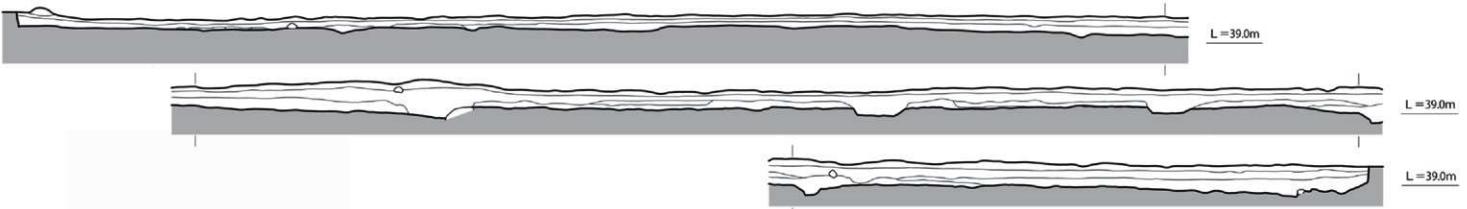


第8図 調査小区配置図 (S=1/2,000)

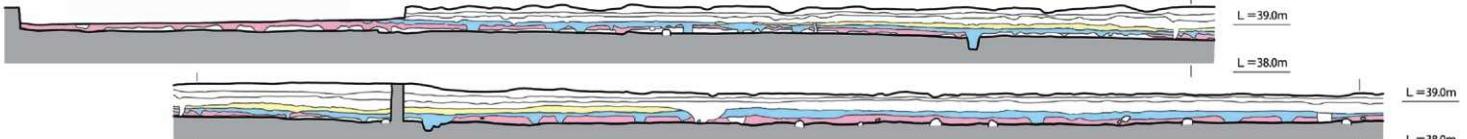
A区北西壁



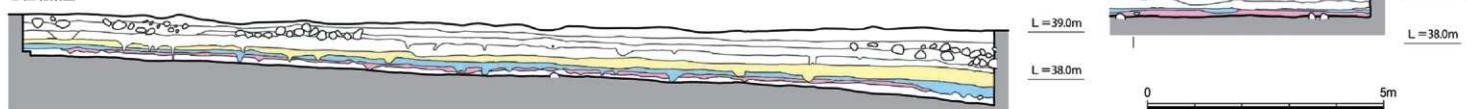
C区北西壁



D区北西壁

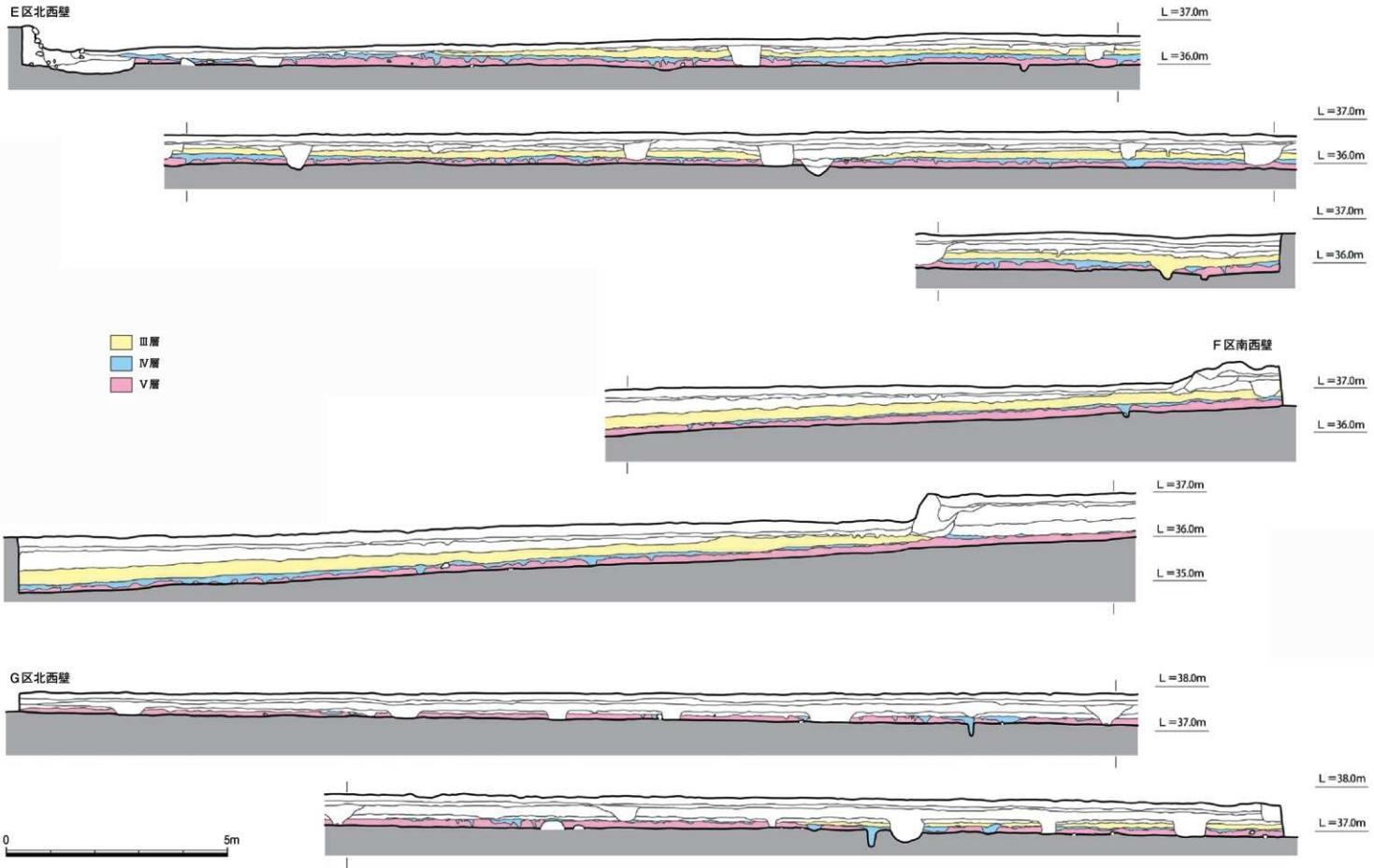


D区北東壁



第9図 土層実測図① (S=1/80)





第10図 土層実測図② (S=1/80)

H区北西壁



L = 36.0m

L = 35.0m

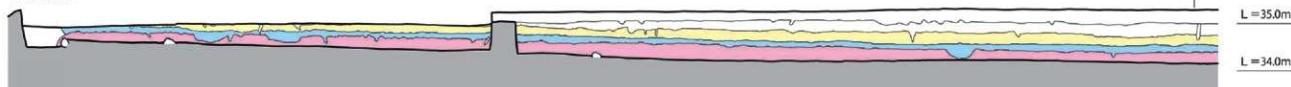
H区・I区北東壁



L = 36.0m

L = 35.0m

I区北西壁



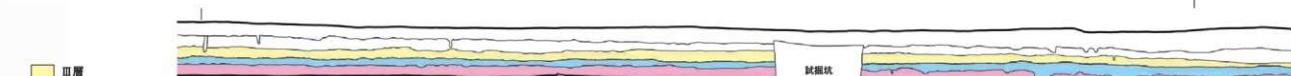
L = 35.0m

L = 34.0m

III層

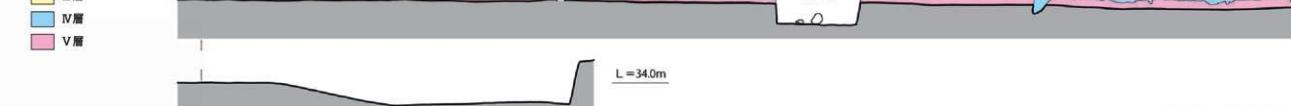
IV層

V層



L = 35.0m

L = 34.0m

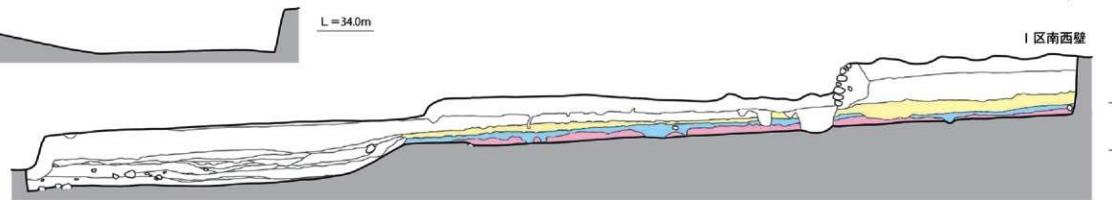


L = 35.0m

L = 34.0m

0

5m



L = 35.0m

L = 34.0m

第11図 土層実測図③ (S=1/80)

3 遺構

(1) 概要

今回の本調査における遺構は大きくふたつの時期に分かれる。

ひとつは绳文時代後・晚期に属するもので、調査区全体を通して遺構の検出自体は非常に少ないが、I区においては打製石斧を埋納したものと考えられる土坑がある。

もうひとつは、中世期に属するものである。その大部分は調査区全体のうち山手半分のA～D区、F・G区に集中する。掘立柱建物25棟や柱穴列2基をはじめ、多くのピット群がこの区域から検出されている。それから、E区、F区海手、H区の遺構空白域を隔てて、I区において大溝2条を検出している。

(2) 土坑（SK1）

I区グリッドAL18においてV層掘削途中での検出である。覆土は黒褐色土である。平面は長軸50cm、短軸35cmの不整形であり、深さは検出時で約10cmであった。土坑内に4本の打製石斧が重なった状態で出土した。打製石斧の刃先は北東側にそろえており、基部よりもやや下がっている。意図的な埋納と考えてよいであろう。

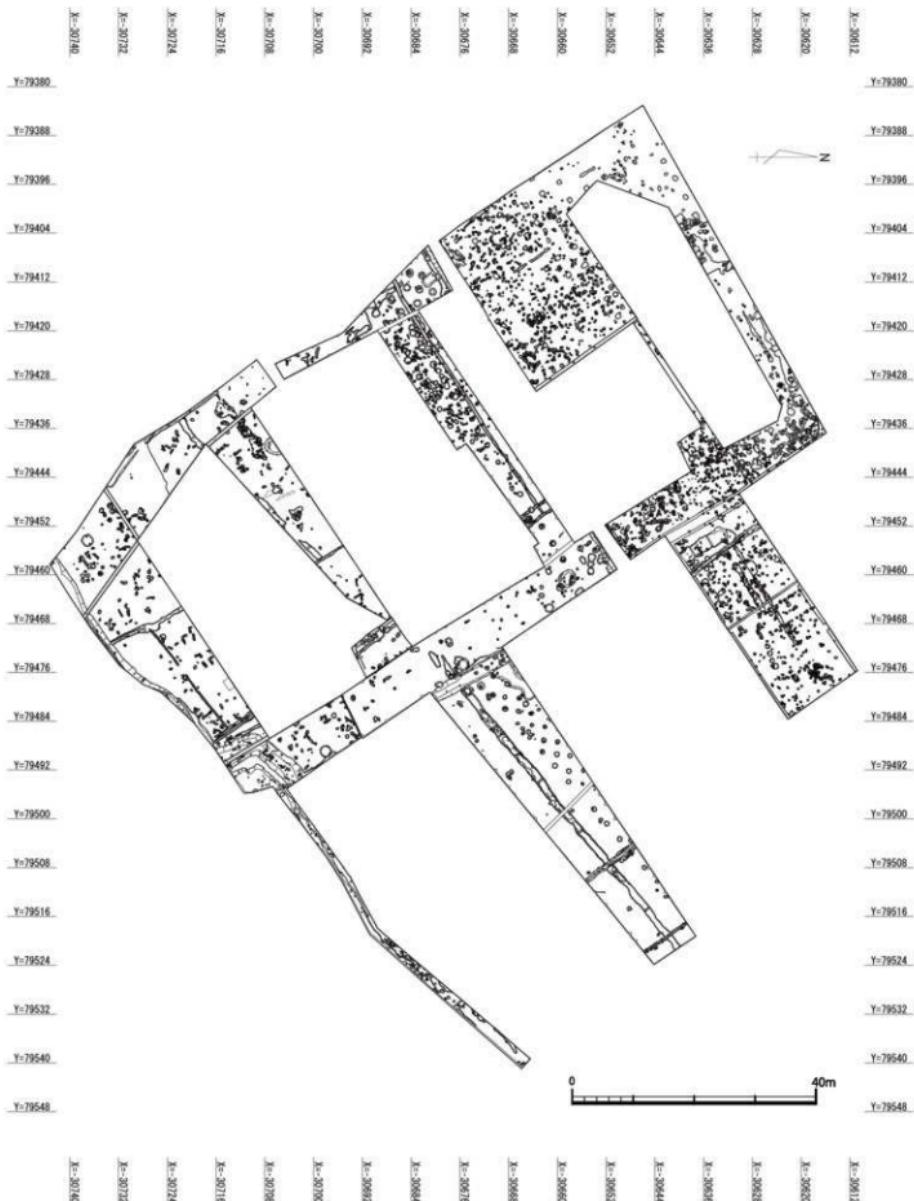
土坑内出土遺物

1～4は土坑内より出土した打製石斧である。いずれも安山岩製である。

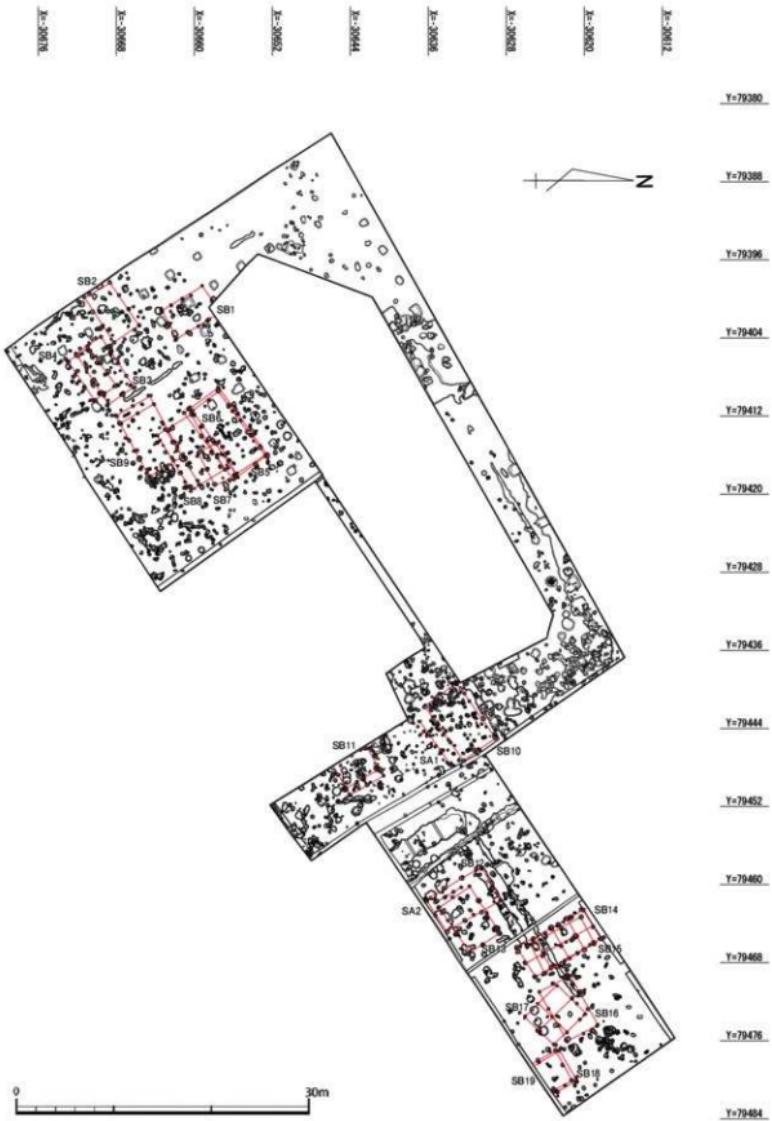
1は表裏面に自然面を残す短冊形のもので、両面から周縁全体に整形が行われる。2は片面に大きく自然面を残す横長の剥片を素材としている。基部に対してわずかに刃部の方が幅をもつ。3も2同様に片面に大きく自然面を残した横長の剥片を素材としている。基部に対して刃部の方が幅をもつ。刃部にあたる部分は素材剥片の薄い末端をそのまま残しており、整形が行われておらず、未成品ととらえてよいかもしれない。4は遺跡内から出土した打製石斧のなかで最大のもので、長さは27cmを超える。基部に対して刃部の方が幅の広い撮形を呈する。側辺及び刃部に整形が行われている。

(3) 大溝（SD1・SD2）

I区においてSD1（内側）とSD2（外側）の2条の溝を検出した。両者は0.8m～1.6mの間隔をもって平行している。方形区画のコーナー部分である可能性も考えられる。SD2のコーナー部分には土橋状の高まりがみられ、その周囲からは人頭大以下の自然礫がまとまって検出された。両溝の覆土はともにきめの細かい黒色粘質土を基本としている。検出面から判断されるSD2の最大深度は、1.0mである。SD1はSD2側の岸で0.5mほどの深度を確認したが、内側の立ち上がりについては後世の削平を受けており不明瞭であった。



第12図 遺構配置図（全体）(S=1/800)



第13図 遺構配置図（A～D区）(S=1/500)

X=2016

X=2018

X=2020

X=2022

X=2024

X=2026

X=2028

X=2030

X=2032

X=2034

X=2036

Y=79404

Y=79412

Y=79420

Y=79428

Y=79436

Y=79444

Y=79452

Y=79460

Y=79468

Y=79476

Y=79484

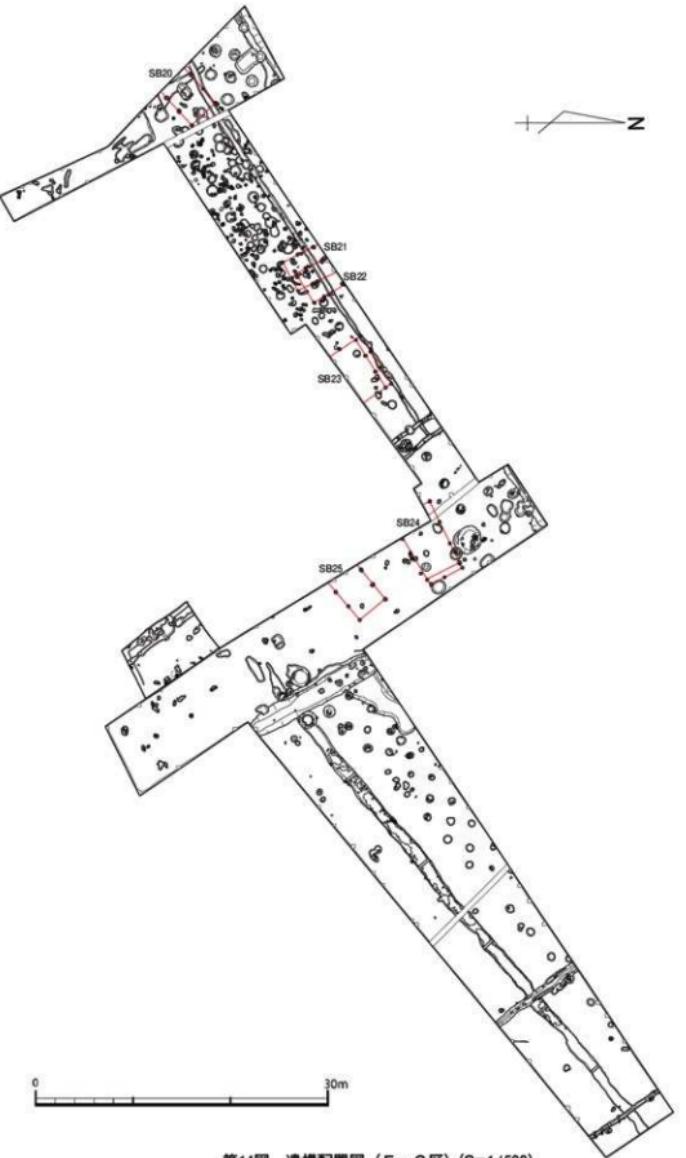
Y=79492

Y=79500

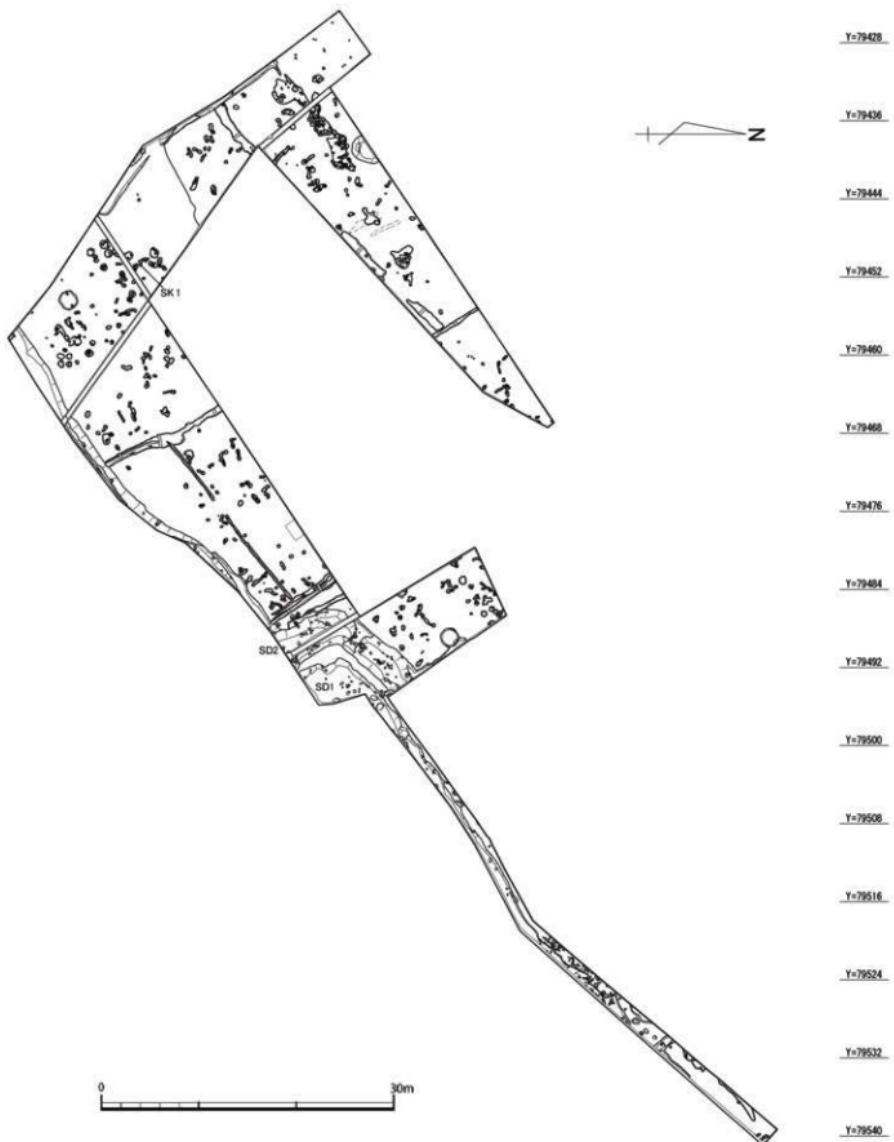
Y=79508

Y=79516

Y=79524



第14図 遺構配置図 (E～G区) (S=1/500)



第15図 遺構配置図（H・I区）(S=1/500)

大溝内出土遺物

既存のは塙石垣と農道が遺構の上面を覆っており、当初擾乱部であるとの認識のもとで掘削を進めため検出確認が遅れ、遺構ごとの遺物の取り上げができておらず、**SD 1・SD 2**両方からの遺物である。

1は須恵質土器の底部の資料である。外面に格子目のタタキがみられる。**2**は瓦質の擂鉢である。内外面ともに刷毛目状の調整が認められ、内面にはクシ目が入る。**3**は焼き締めの擂鉢である。内面にクシ目が施される。

4・5は白磁の皿である。どちらも口縁部は端反りとなる。

6・7は青磁である。**6**は碗で、外面に蓮弁文が施される。**7**は盤で、内面には凹面となるケズリを連続して施し、花弁状にしている。外面には大きく目跡が残る。

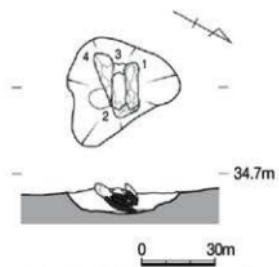
8・9は青花である。**8**は碗で、外面に唐草文が描かれる。**9**は碁笥底の皿である。

(4) 掘立柱建物 (SB 1～SB25)

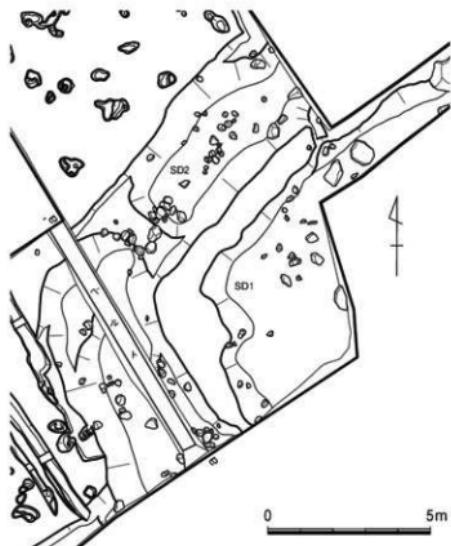
A 区において 8 棟 (SB12～SB19), B 区において 2 棟 (SB10・SB11), D 区において 9 棟 (SB 1～SB 9), F 区において 2 棟 (SB24・SB25), G 区において 4 棟 (SB20～SB23) の掘立柱建物を検出した。いずれも検出面は V 層上面で、柱穴内の覆土は黒色土である。柱穴内からの出土遺物に乏しいが、検出面及び周辺の遺物の出土遺物の状況からいずれの建物も中世期に属するものと考えられる。桁行を南西-北東方向にとるものが多いが、南東-北西方向（傾斜方向）にとるものも一部みられる。

(5) 柱穴列 (SA 1・SA 2)

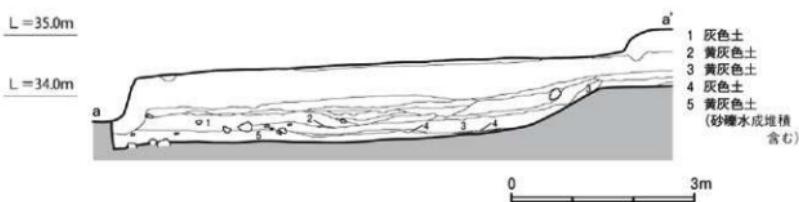
SA 1 と **SA 2** の 2 基の柱穴列を検出した。いずれも V 層上面での検出で、柱穴内覆土には黒色土を含み、掘立柱建物群と同じく中世期のものと考えられる。**SA 1** は B 区 **SB10** の南東側（海手）に位置する。**SA 2** は A 区 **SB13** の南西側に位置する。



第16図 土坑実測図 ($S=1/20$)



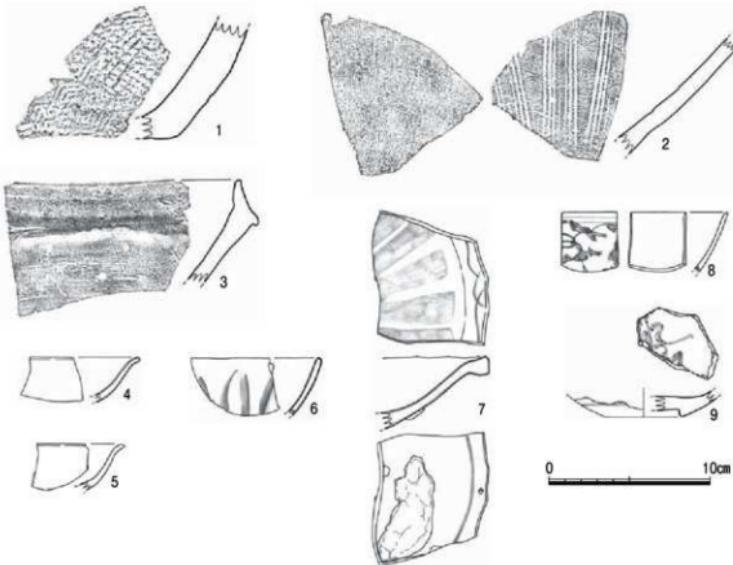
第17図 大溝1・大溝2実測図 ($S=1/150$)



第18図 大溝2土層実測図 ($S=1/80$)



第19図 土坑内出土遺物 (S=1/3)



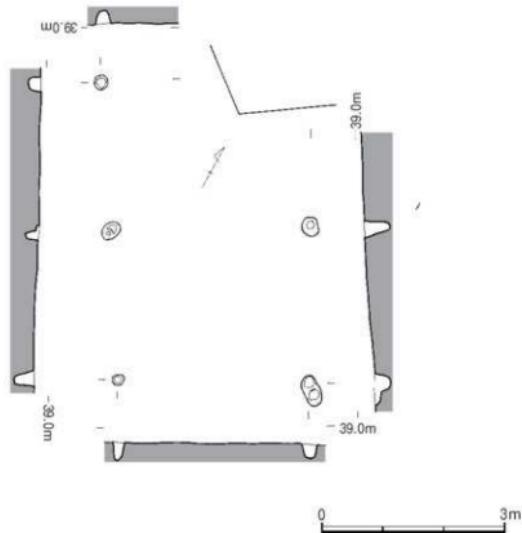
第20図 大溝1・大溝2内出土遺物 (S=1/3)

第1表 土坑内出土遺物観察表

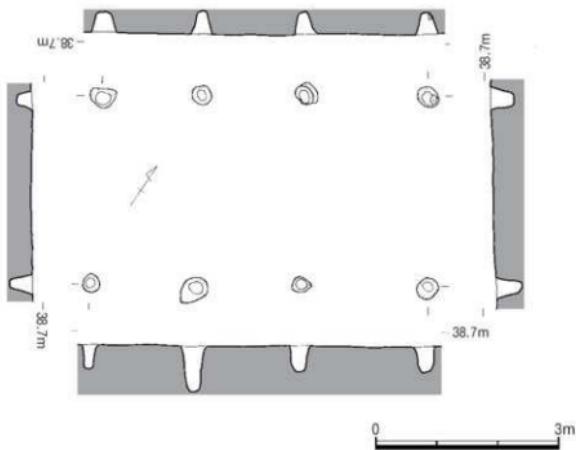
固	番号	区	器種	石材	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	
									外側	内面
19	1	1	打削石斧	安山岩	18.6	8.3	3.1	543.8	最上で検出	
	2	1	打削石斧	安山岩	15.0	7.8	1.9	251.5	上から2番目で検出	
	3	1	打削石斧	安山岩	20.1	9.5	2.1	490.0	上から3番目で検出	
	4	1	打削石斧	安山岩	27.3	11.3	3.4	1026.0	最下で検出	

第2表 大溝1・大溝2内出土遺物観察表

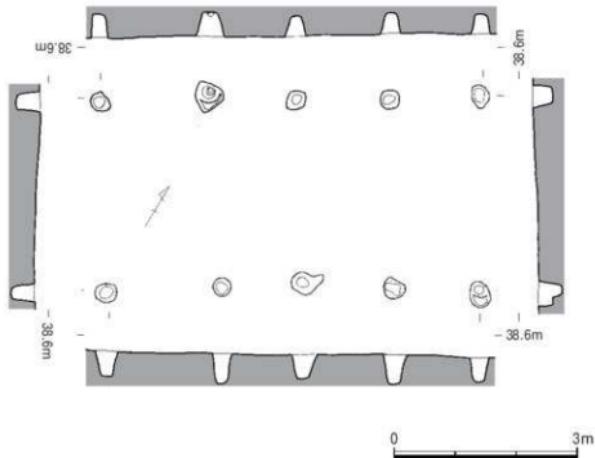
固	番号	区	種別	器種	文様・調査		色調	施土	備考
					外側	内面			
20	1	1	良恵賀土器	瓦	タタキ	ナデ	灰色	灰色	長石
	2	1	瓦質土器	縹跡	研毛目	クシ目/刷毛目	灰褐色	灰褐色	長石
	3	1	良恵賀土器	縹跡	ナデ	クシ目/ナデ	灰黃褐色	灰褐色	長石
	4	1	白磁	皿	—	—	灰白色	灰白色	長石
	5	1	白磁	皿	—	—	灰白色	灰白色	長石
	6	1	青磁	瓶	蘿井文	—	オリーブ灰色	オリーブ灰色	長石
	7	1	青磁	盤	蘿井文	—	綠灰色	綠灰色	長石
	8	1	青花	瓶	團練・唐草文	團練	明青灰色	明青灰色	長石
	9	1	青花	皿	團練	吉祥字文	浅青棕色	浅青棕色	長石



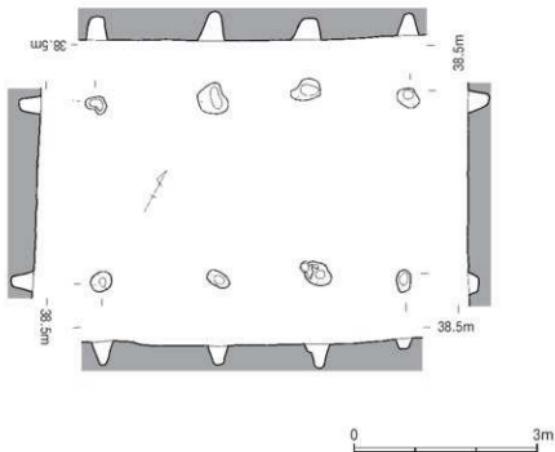
第21図 捜立柱建物1実測図 (S=1/80)



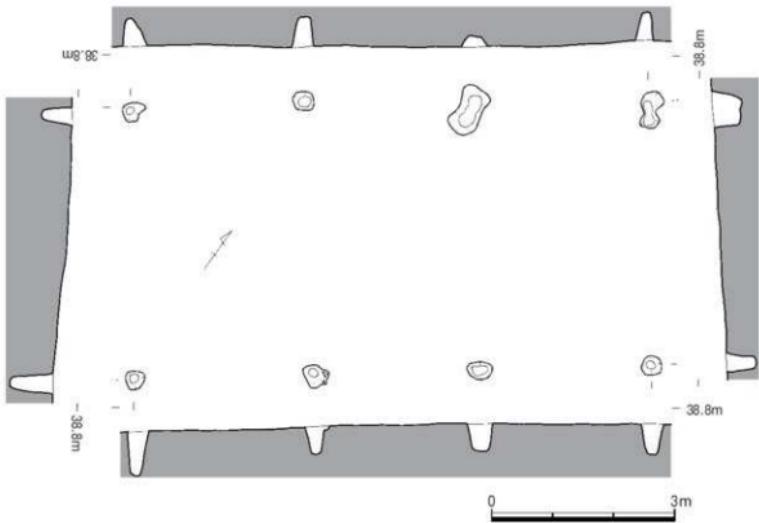
第22図 捜立柱建物2実測図 (S=1/80)



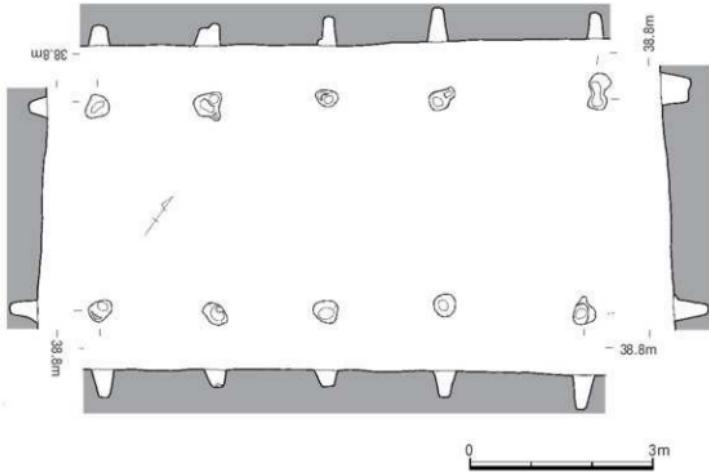
第23図 挖立柱建物3実測図 (S=1/80)



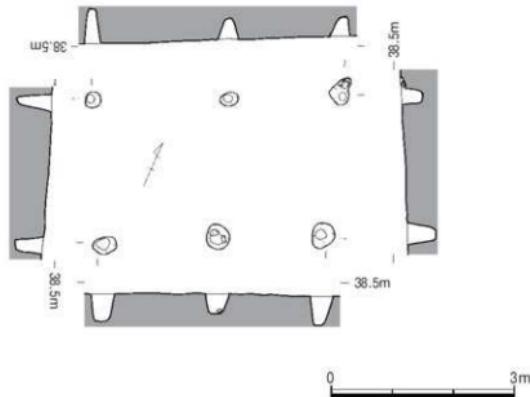
第24図 挖立柱建物4実測図 (S=1/80)



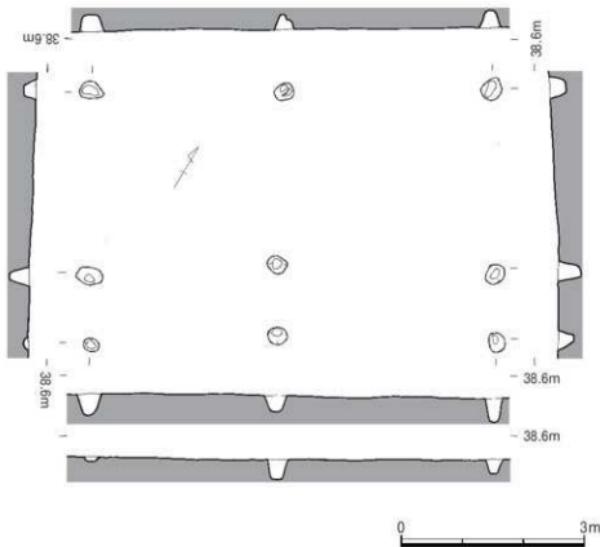
第25図 据立柱建物 5 実測図 (S=1/80)



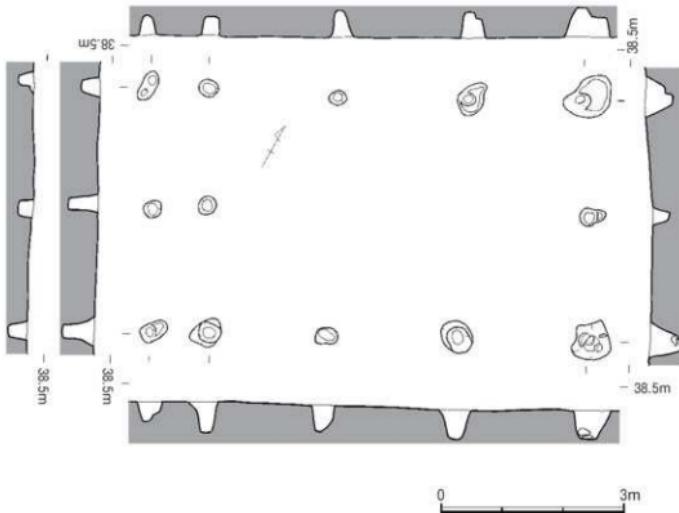
第26図 据立柱建物 6 実測図 (S=1/80)



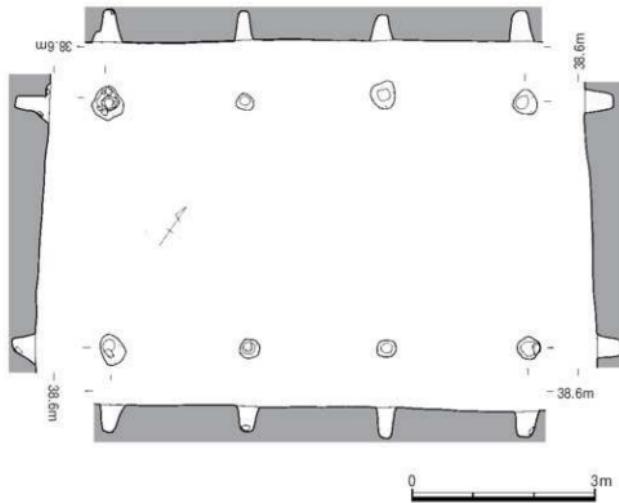
第27図 据立柱建物 7 実測図 (S=1/80)



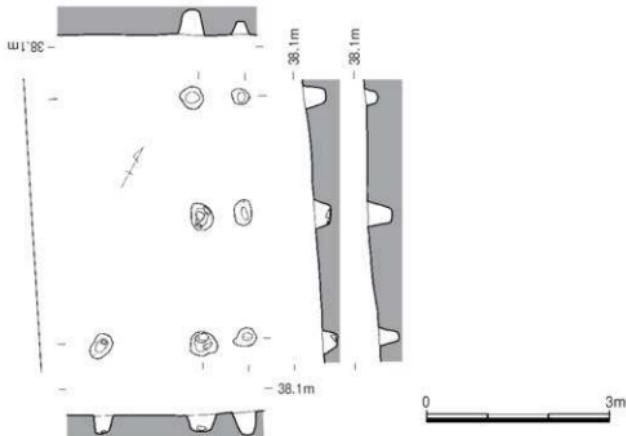
第28図 据立柱建物 8 実測図 (S=1/80)



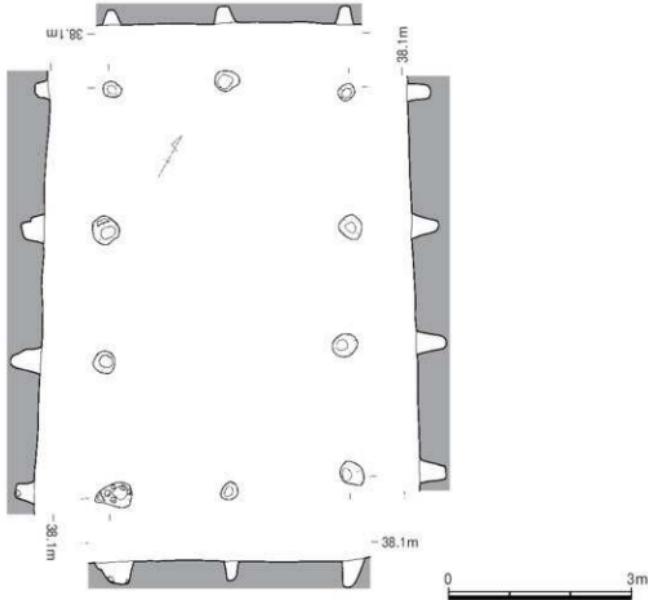
第29図 据立柱建物9実測図 (S=1/80)



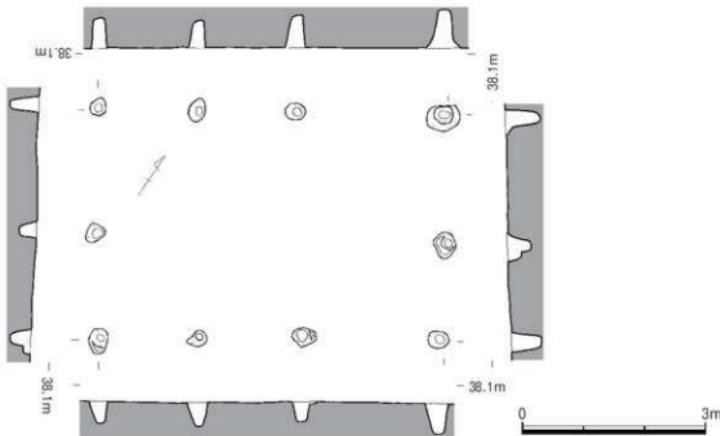
第30図 据立柱建物10実測図 (S=1/80)



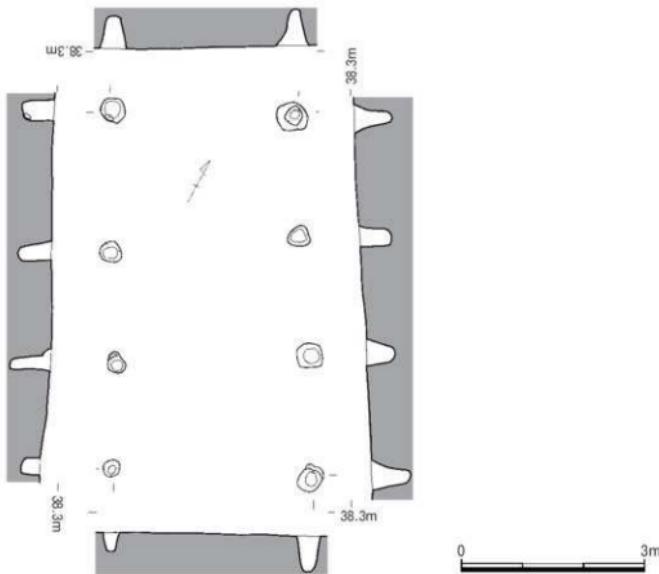
第31図 据立柱建物11実測図 (S=1/80)



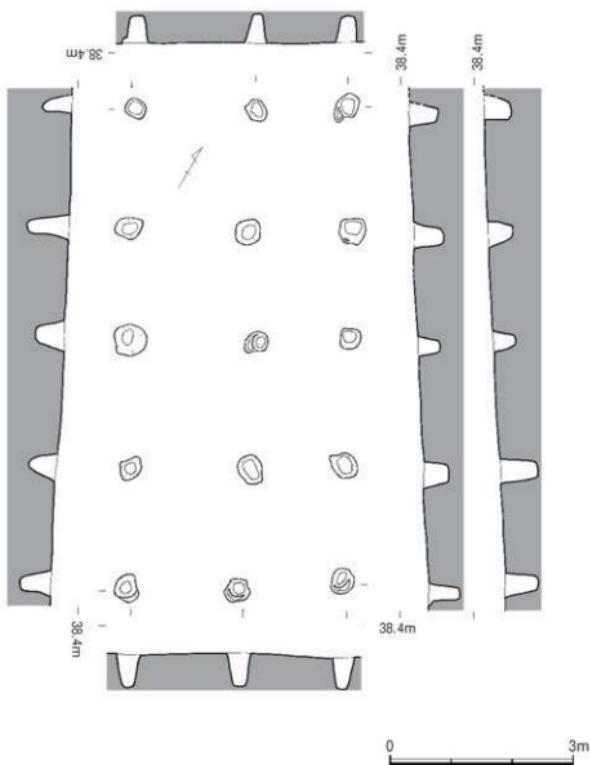
第32図 据立柱建物12実測図 (S=1/80)



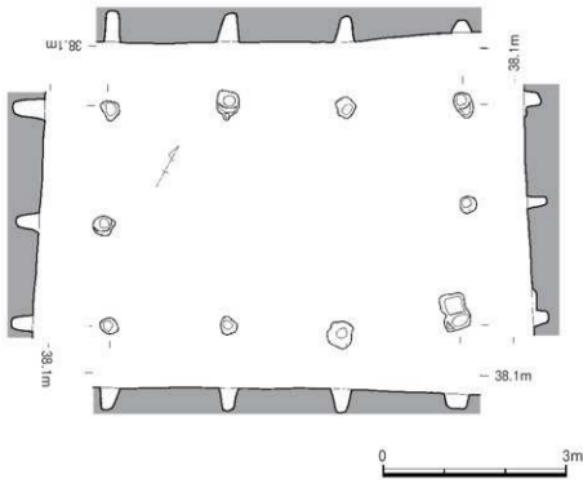
第33図 据立柱建物13実測図 (S=1/80)



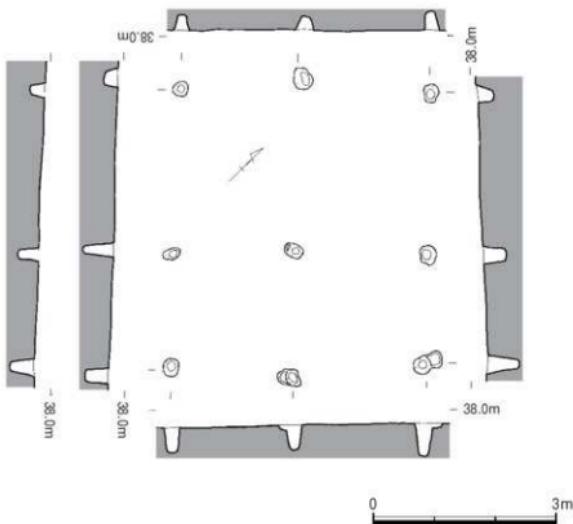
第34図 据立柱建物15実測図 (S=1/80)



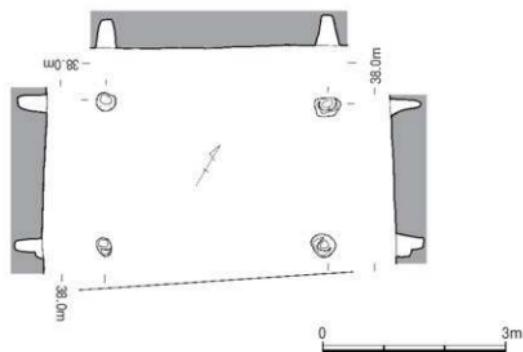
第35図 据立柱建物14実測図 (S=1/80)



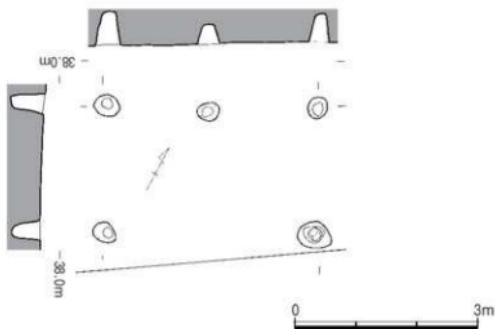
第36図 据立柱建物16実測図 (S=1/80)



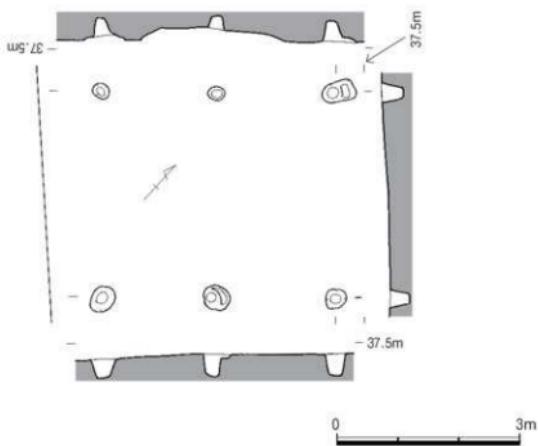
第37図 据立柱建物17実測図 (S=1/80)



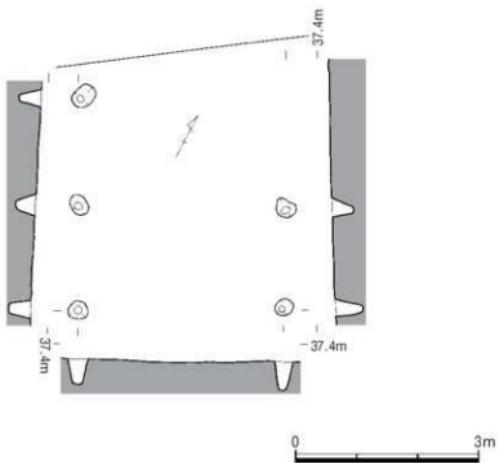
第38図 挖立柱建物18実測図 ($S=1/80$)



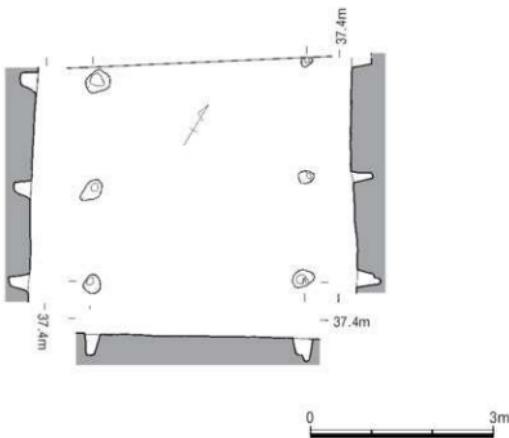
第39図 挖立柱建物19実測図 ($S=1/80$)



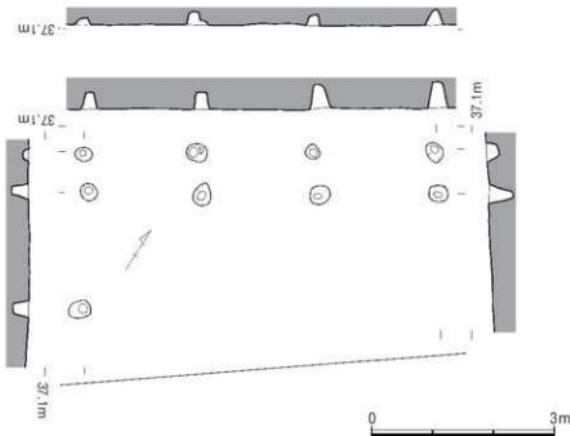
第40図 据立柱建物20実測図 (S=1/80)



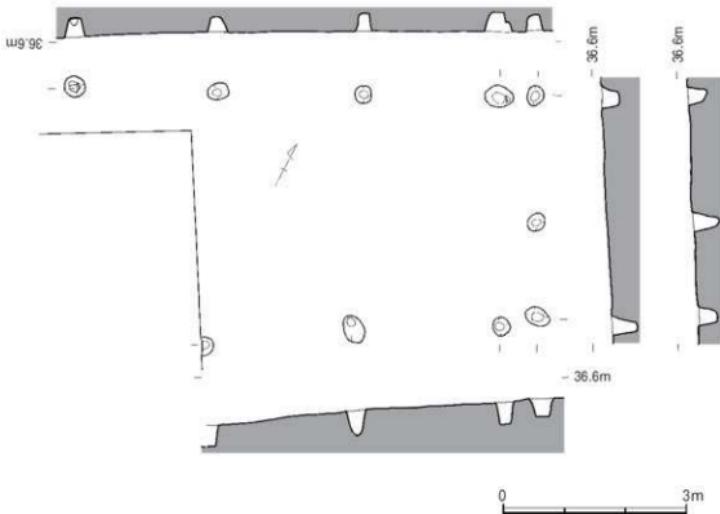
第41図 据立柱建物21実測図 (S=1/80)



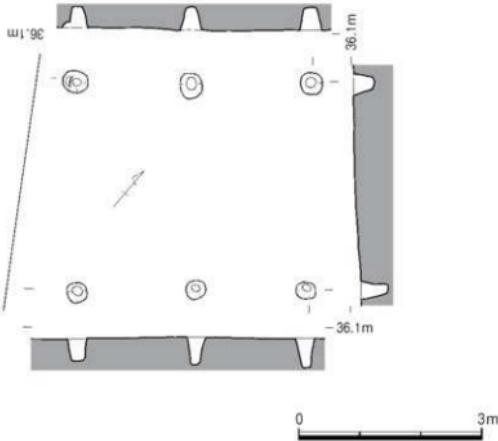
第42図 据立柱建物22実測図 (S=1/80)



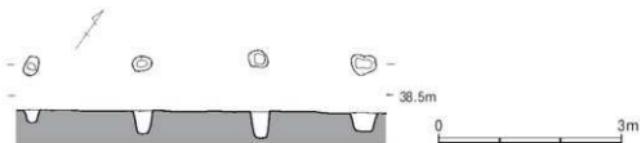
第43図 据立柱建物23実測図 (S=1/80)



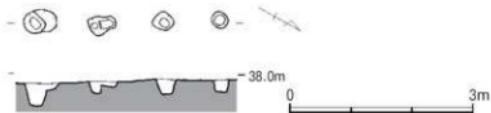
第44図 据立柱建物24実測図 ($S=1/80$)



第45図 据立柱建物25実測図 ($S=1/80$)



第46図 柱穴列1実測図 (S=1/80)



第47図 柱穴列2実測図 (S=1/80)

第3表 振立柱建物一覧

図	建物名	区	間数 (棟行×桁行)	規模 (棟行×桁行)	棟行1間の長さ	備考
21	振立柱建物1 (SB1)	D	1間 × 2間	3.20m × 4.92m	3.20m	
22	振立柱建物2 (SB2)	D	1間 × 3間	3.12m × 5.40m	3.12m	
23	振立柱建物3 (SB3)	D	1間 × 4間	3.20m × 6.28m	3.20m	
24	振立柱建物4 (SB4)	D	1間 × 3間	3.00m × 4.96m	3.00m	
25	振立柱建物5 (SB5)	D	1間 × 3間	4.32m × 8.48m	4.32m	
26	振立柱建物6 (SB6)	D	1間 × 4間	3.40m × 8.04m	3.40m	
27	振立柱建物7 (SB7)	D	1間 × 2間	2.36m × 3.88m	2.36m	
28	振立柱建物8 (SB8)	D	1間 × 2間	3.04m × 6.72m	3.04m	南東に廻
29	振立柱建物9 (SB9)	D	2間 × 3間	3.96m × 6.24m	1.98m	南西に廻
30	振立柱建物10 (SB10)	B	1間 × 3間	4.00m × 6.84m	4.00m	
31	振立柱建物11 (SB11)	B	2間 × 1間	3.96m × - m	1.98m	北東に廻。南西は調査区外
32	振立柱建物12 (SB12)	A	2間 × 3間	3.88m × 6.40m	1.94m	
33	振立柱建物13 (SB13)	A	2間 × 3間	3.76m × 5.68m	1.88m	
34	振立柱建物14 (SB14)	A	2間 × 4間	3.56m × 7.84m	1.78m	蛇柱建物
35	振立柱建物15 (SB15)	A	1間 × 3間	3.12m × 5.92m	3.12m	
36	振立柱建物16 (SB16)	A	2間 × 3間	3.60m × 5.80m	1.80m	
37	振立柱建物17 (SB17)	A	2間 × 2間	4.12m × 4.44m	2.06m	北西-南東軸に桿持柱
38	振立柱建物18 (SB18)	A	1間 × -間	3.60m × - m	3.60m	南東は調査区外
39	振立柱建物19 (SB19)	A	2間 × -間	3.48m × - m	1.74m	南東は調査区外
40	振立柱建物20 (SB20)	G	1間 × -間	3.36m × - m	3.36m	南西は調査区外
41	振立柱建物21 (SB21)	G	1間 × -間	3.40m × - m	3.40m	北西は調査区外
42	振立柱建物22 (SB22)	G	1間 × -間	3.48m × - m	3.48m	北西は調査区外
43	振立柱建物23 (SB23)	G	-間 × 3間	- m × 5.72m	- m	北西に廻。南東は調査区外
44	振立柱建物24 (SB24)	F	1間 × 3間	3.72m × 7.00m	3.72m	北東に廻。南西は調査区外
45	振立柱建物25 (SB25)	F	1間 × -間	3.36m × - m	3.36m	南西は調査区外

第4表 柱穴列一覧

図	建物名	区	間数	長さ	1間の長さ	備考
46	柱穴列1 (SA 1)	B	3間	5.40m	1.80m	北西にSB10
47	柱穴列2 (SA 2)	A	3間	3.00m	1.00m	北東にSB13

4 出土遺物

(1) 土器・陶磁器ほか

1・2は縄文時代早期の押型文土器である。1は口縁部の資料で、内外面に楕円文を施す。2は外面に縱方向の山形文が認められる。

3～183は縄文時代後・晚期の資料である。3～87は深鉢および鉢の資料、88～182は浅鉢の資料、183はミニチュア土器である。

3・4は外傾して立ち上がる頭部から内側に屈曲する口縁部がつく。どちらも波状の口縁部で、外面には縄文と沈線による文様が施される。5は肩部の資料で、多条沈線と列点を施す。

6～56は口縁部文様帯をもつ深鉢・鉢の資料である。6～48は文様帶に3条から6条の沈線を引く。断面は直立するものもみられるが、多くが外傾する。47は波頂部の資料である。49～56は口縁部文様帯をもつが、沈線を引かないものである。49はほぼ直立する頭部が上部で外反し、口縁部は外傾してつく。

57は口唇部が外反する。58は外面に貝殻条痕調整が施される。59～62は口縁部文様帯の施文の粗雑化がうかがえる、外面に段をもつものである。59は間隔の広い平行沈線を引く。61は外面に貝殻条痕調整が行われ、炭化物が付着する。**年代測定試料1**。

63～65は大きく外反する口縁部である。

66は強く屈曲する肩部をもつ鉢で、口縁部へは大きく開いて立ち上がる。肩部に中空の貼り付けがつく。**年代測定試料2**。67は補修孔と考えられる内外両面からの穿孔がみられる。

68～73は胴屈曲部の資料である。68～70は外面がよく研磨されており、口縁部にはタガ状の口縁部文様帯がつくものと思われる。68・69、71は外面に炭化物が付着する。**年代測定試料3～5**。

74～87は深鉢・鉢の底部の資料である。74は高台状に上げ底となる。75・76はわずかに上げ底となる。77は断面わずかに張り出しがつるが、強く張り出しがつるものは認められない。

88～183は浅鉢の資料である。

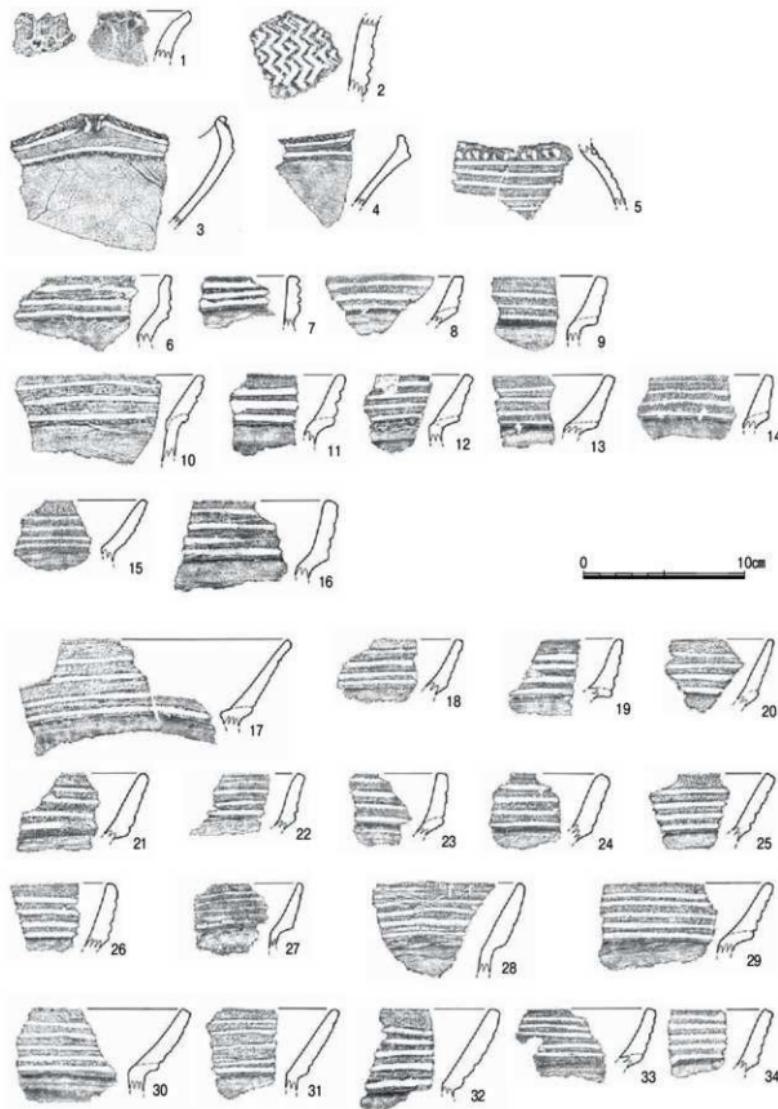
88～126は強く外反する頭部に口縁部文様帯の立ち上がりがある資料である。88は口縁部文様帯に四線を引く。89～120は口縁部文様帯に沈線を引くか、段を設ける。121～126は立ち上がりのみで、沈線や段は施さない。88～95、124は比較的の立ち上がりが高い。91は口唇部外端に凹点をもつ。96は内傾して上部で強く外反し、口縁部へと至る。

127～147は外傾もしくは外反する短い頭部がそのまま口縁部へと至り、口唇部内面に段を作る資料である。132はわずかに波状の口縁となり、胴部には焼成後の穿孔をもつ。135は外面に炭化物が付着する。**年代測定試料6**。136は口唇部外端に凹点をもつ。

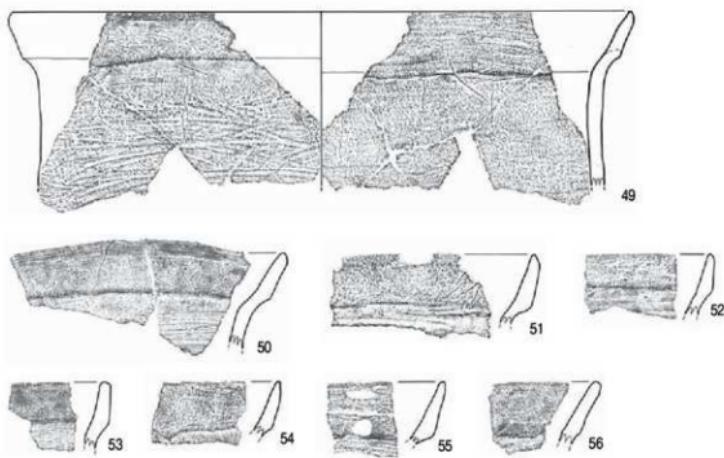
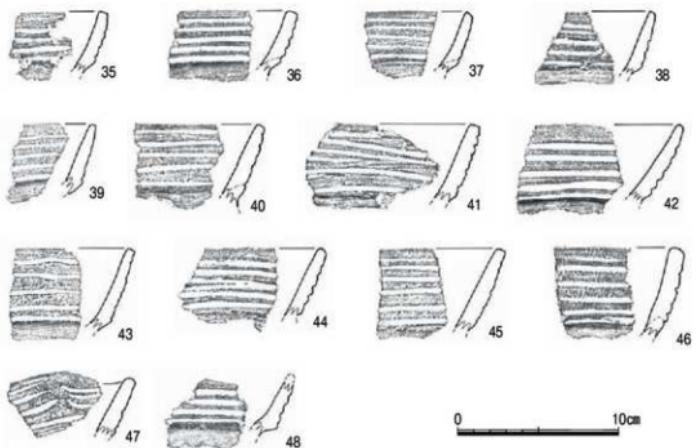
148～153は浅い胴部に外反する口縁部がつく資料である。

154～168は浅い胴部に短い頭部がつき、外傾する幅広のやや肥厚する口縁部へと至る資料である。口縁部は波状となるものがみられ、外面には多くが平行沈線を引く。159は波頂部直下に焼成前の穿孔が施される。

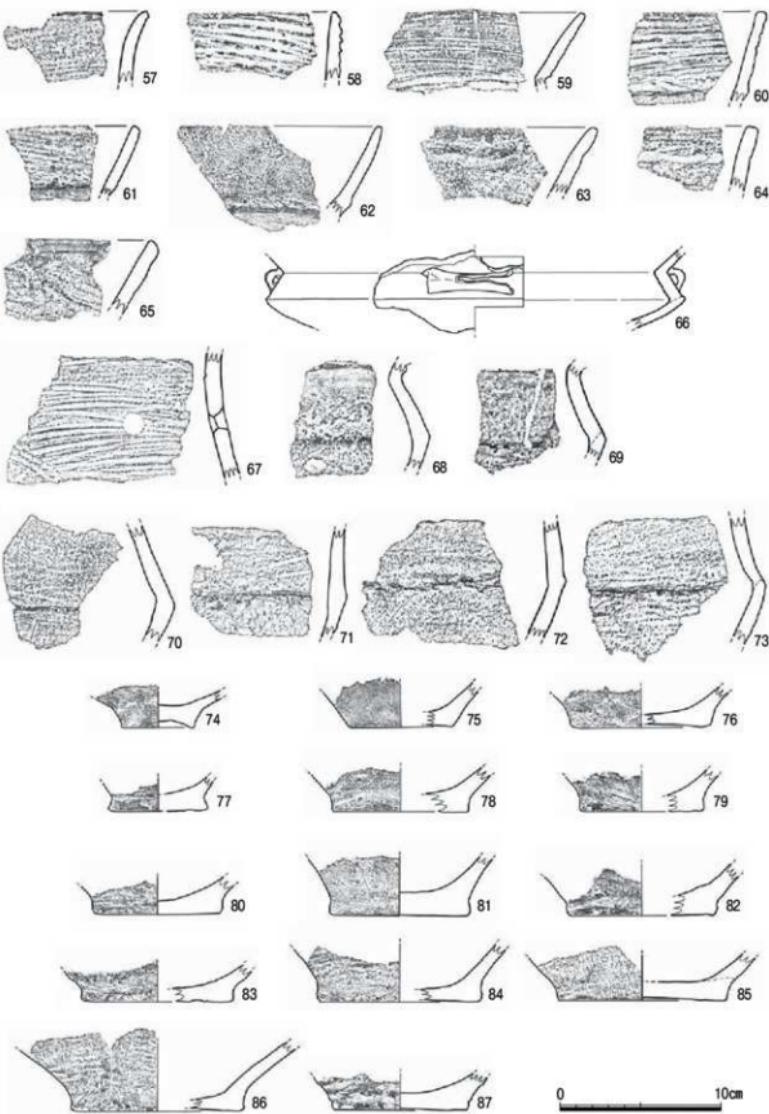
170は口縁部に2条の凹線を引く。171は口縁部の内外面に沈線を引き、沈線内にわずかに赤色顔料が認められる。172は口縁部外面に平行沈線を引く。173は一部口縁部が残存しており、波状の口縁部となるものと思われる。174は開いて口縁部へと至るものと思われ、弧状の沈線が引かれる。



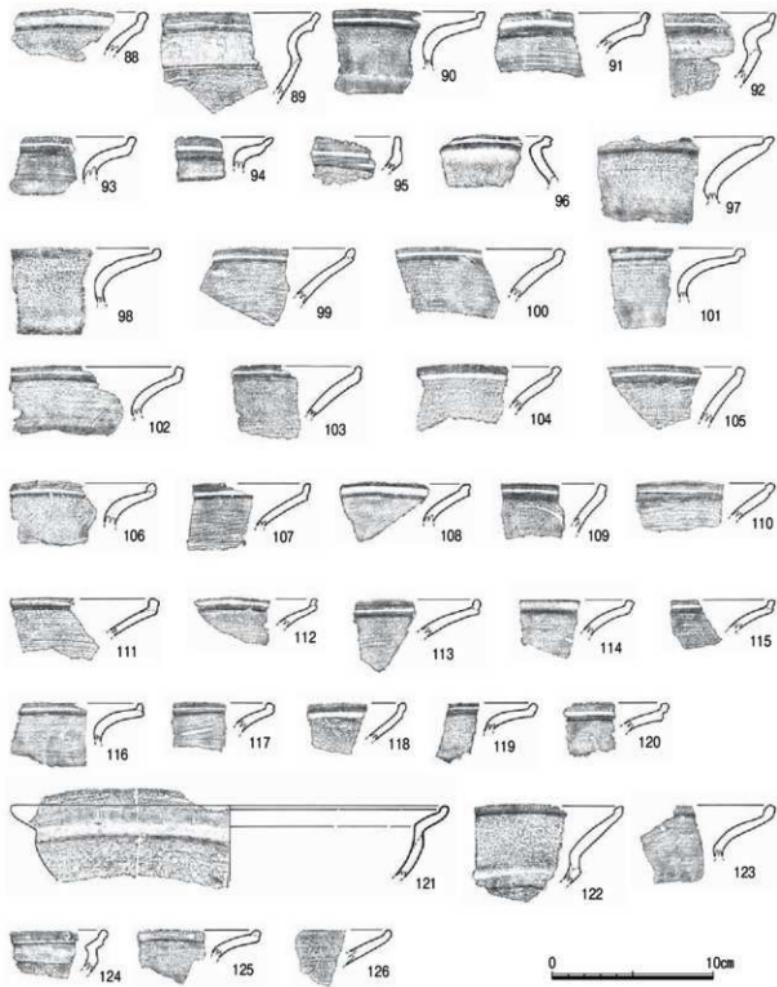
第48図 土器・陶磁器ほか実測図① (S=1/3)



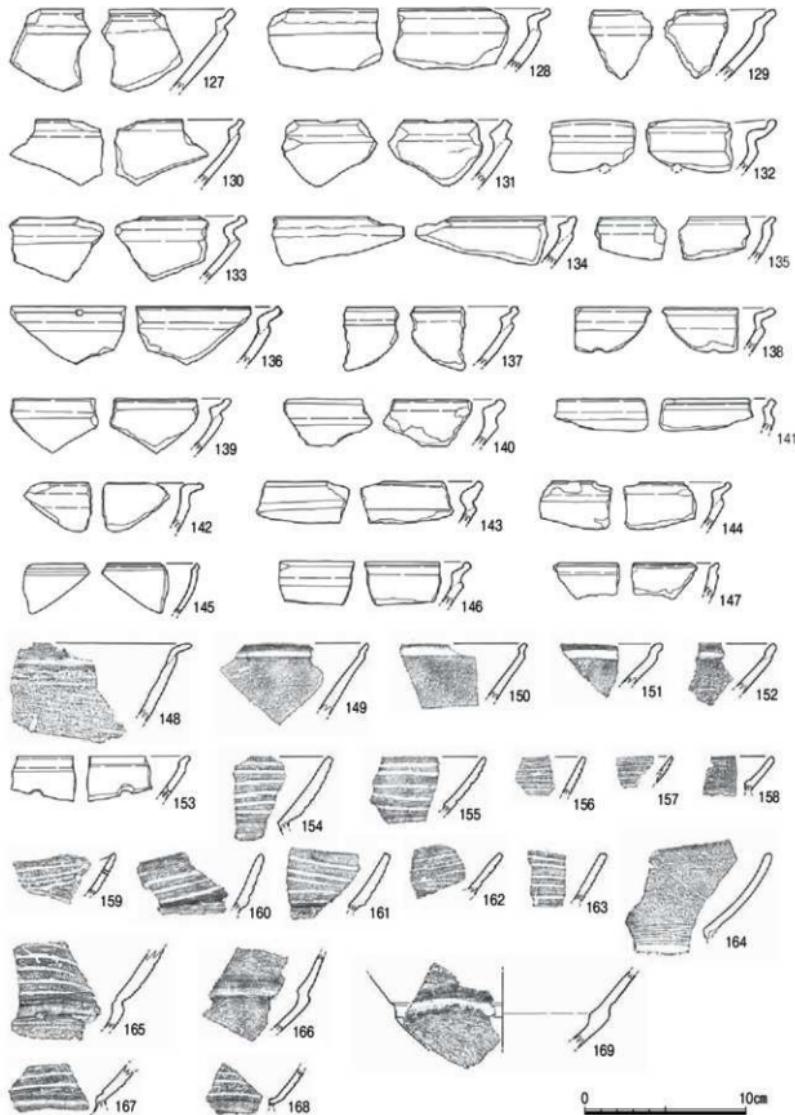
第49図 土器・陶磁器ほか実測図② (S=1/3)



第50図 土器・陶磁器ほか実測図③ (S=1/3)



第51図 土器・陶磁器ほか実測図④ (S=1/3)



第52図 土器・陶磁器ほか実測図⑤ (S=1/3)

175～178は内外面ともに丁寧に研磨されており、塊形になるものと思われる。179は強く外反する口縁部の資料で、穿孔をもつ。180は胴部から強く外反する長い頸部をもつ。181はヒレ状の突起をもつ口縁部である。182は底部の資料で、非常に薄手の器壁で胴部へと浅く立ち上がる。

183はミニチュア土器である。外面には平行沈線が引かれ、口唇部にはヒレ状突起をもつ。184は脚台の資料である。

185～208は土師皿の資料である。いずれも底面には回転糸切りの痕跡が残る。口縁部の立ち上がりが低い185～193が一群をなすものと思われ、194～201と203～208がセット関係をなすものか。

209～217は須恵質土器である。209は壺口縁部である。210は擂鉢で、内面にクシ目が引かれる。211～213は口縁部を肥厚させる。口縁部外面には自然釉が認められる。214・215は坏蓋で、214はつまみ部分の資料である。216は高台をもつ坏の資料である。217は高坏の脚部で、透かしが一部残る。

218～228は瓦質土器である。218は壺口縁部で、強く外反する。219は底部の資料で、外面に格子のタタキ目がみられる。220・221は擂鉢で、内面にクシ目を入れる。222は片口である。223・224は鉢で、口縁部が肥厚する。225～228は火鉢である。

229～231は白磁である。いずれも口縁部は外反し、口唇部内面には釉剥ぎを行う。

232～242は青磁である。232～234は外面に蓮弁文がみられる碗である。235～239は碗で、口縁部が外反する。240は胴部で屈曲し口縁部が外傾する皿で、口縁部内面には3本単位のクシ目が入る。241が皿で、底面は釉をはぐ。内面にはクシ目の文様が入る。242は高台を有し、内面には片彫花文を施す。

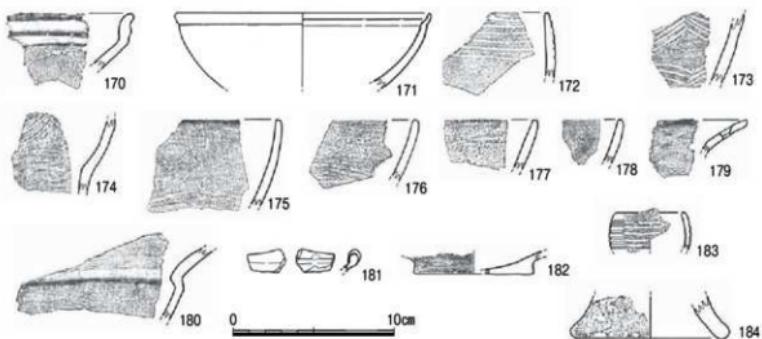
243～249は青花である。243～245は碗で、243・245は口縁部が端反りとなる。243の外面には唐草文を描く。246～248は皿である。246の口縁部は鈎状となり、外面には雲文、内面には雷文を描く。249は小坏で、高台内に「福」の字を入れる。

250・251は高麗青磁である。灰色の釉に覆われ、白色及び黒色の象嵌が施されている。

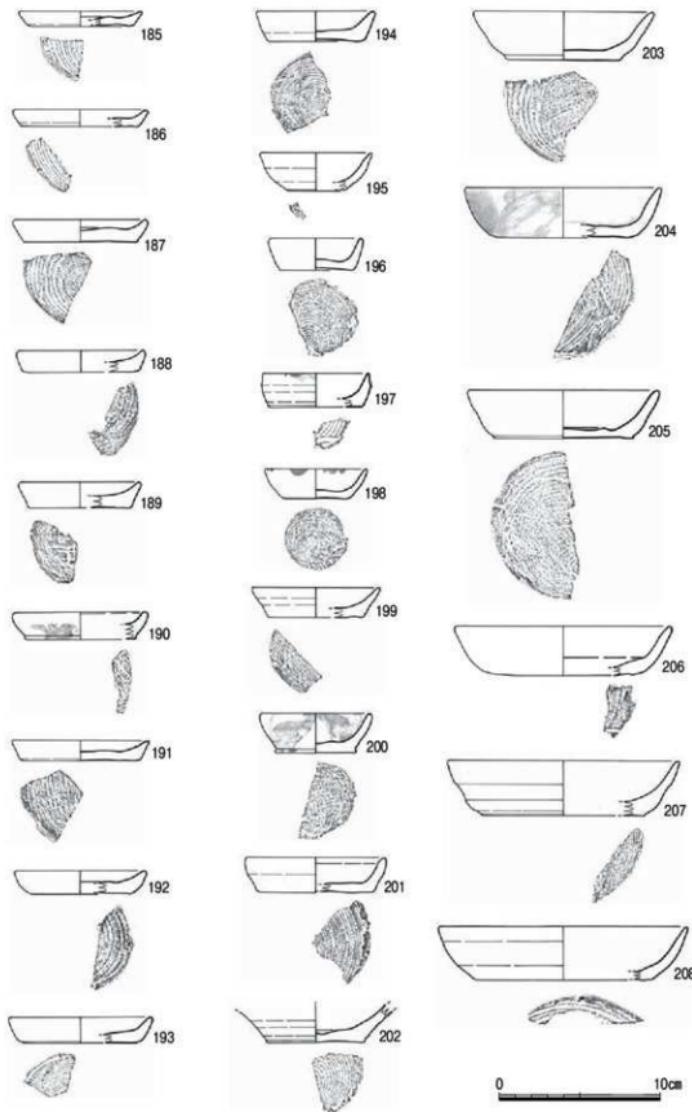
252は天目の碗で、やや丸みを帯びる体部から口縁部は外反する。褐色釉が厚くかかる。253は焼き締め陶器で外面にはケズリがかけられる。白色の粗い砂粒を胎土に含む。

254～264は土錘である。254は有溝土錘である。255～264は長さが4cm強で規格性が認められる。

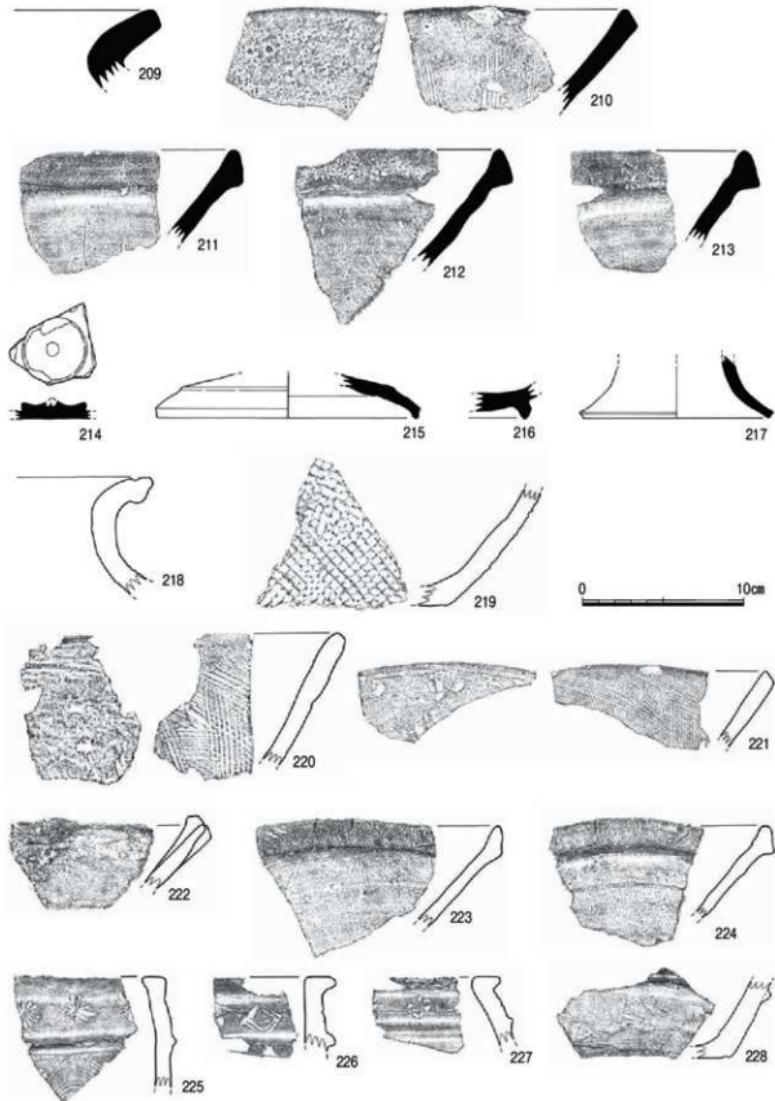
265・266は滑石製の石鍋である。265は鈎付で、内面は使用によるもののか著しく摩耗している。266は底部付近の資料で、穿孔が認められ、何らかの転用が行われたものと思われる。



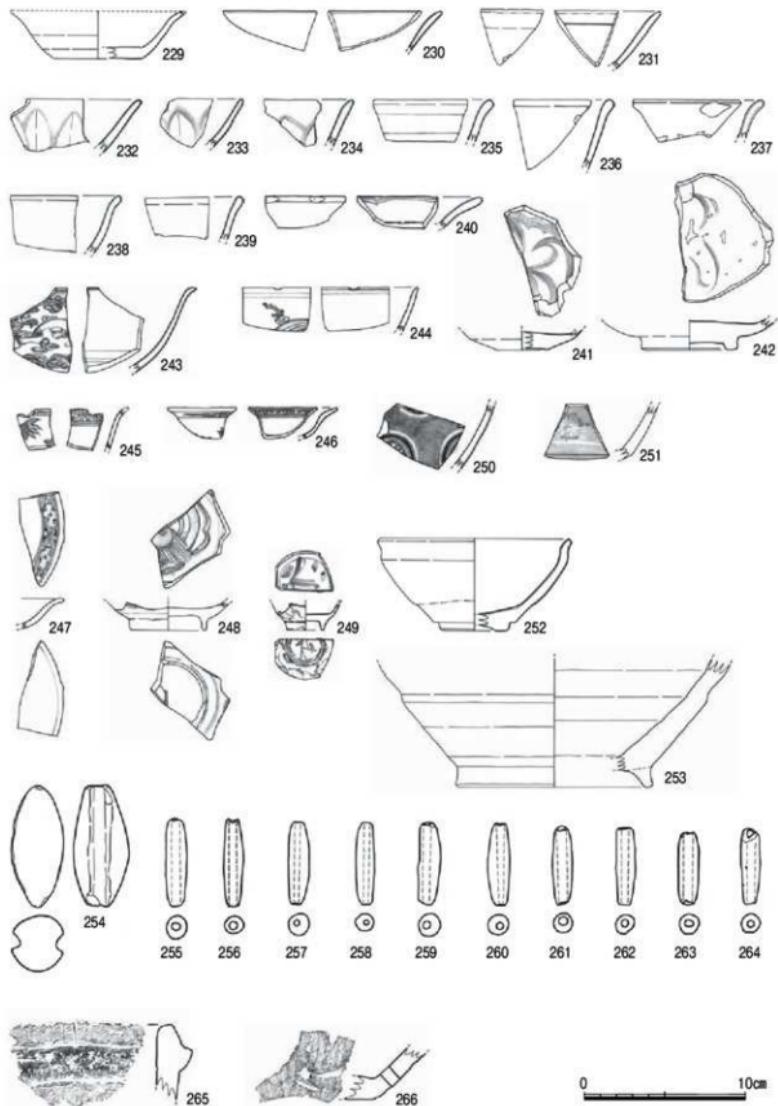
第53図 土器・陶磁器ほか実測図⑥ (S=1/3)



第54図 土器・陶磁器ほか実測図⑦ (S=1/3)



第55図 土器・陶磁器ほか実測図⑧ (S=1/3)



第56図 土器・陶磁器ほか実測図⑨ (S=1/3)

第5表 土器・陶磁器ほか観察表①

固 番号	区	取上番号	種別	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考		
							外面		内面					
							外面	内面	外面	内面				
1	A	A-0582	縄文土器	深鉢	J23	III	椎円押型文	椎円押型文・ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
2	A	A-10088	縄文土器	深鉢	J25	-	山形押型文	ナデ	灰黄褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
3	G	G-6307	縄文土器	鉢	Y12	V	圓文・沈刷・研磨	研磨	灰黄褐色	にふい黄色	角閃石・長石・石英	波状口縁		
4	I	I-6241	縄文土器	鉢	A125	V	圓文・沈刷・研磨	研磨	灰黃色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	波状口縁		
5	E	E-0628 E-0632	縄文土器	鉢	V27 V26	V	円文・沈刷・研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
6	I	I-6590	縄文土器	深鉢	AJ22	V	沈刷/研磨	研磨	褐色	にふい褐色	角閃石・長石			
7	I	I-5372	縄文土器	深鉢	AL24	V	沈刷/研磨	ナデ	にふい褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
8	I	I-6753	縄文土器	深鉢	AN21	V	沈刷/ナデ	研磨	にふい褐色	褐色	長石・石英			
9	I	I-7653	縄文土器	深鉢	AL23	V	沈刷/ナデ	ナデ	褐色	褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
10	H	H-1268	縄文土器	深鉢	AE18	V	沈刷/ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英			
11	I	I-5383	縄文土器	深鉢	AJ23	V	沈刷/ナデ	ナデ	にふい褐色	にふい褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
12	I	I-4254	縄文土器	深鉢	AL17	V	沈刷/研磨	ナデ	にふい赤褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
13	F	F-0867	縄文土器	深鉢	UD9	V	沈刷/研磨	研磨	にふい赤褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
14	H	H-1268	縄文土器	深鉢	AG17	V	沈刷/ナデ	研磨	にふい褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英			
15	I	I-5666	縄文土器	深鉢	AJ23	V	沈刷/研磨	ナデ	褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
16	I	I-7260	縄文土器	深鉢	AM23	V	沈刷/研磨	研磨	灰黃色	にふい褐色	角閃石・長石			
17	I	I-6862	縄文土器	深鉢	AI24	V	沈刷/ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
18	I	I-4769	縄文土器	深鉢	AL23	V	沈刷/ナデ	貝殻条痕・ナデ	にふい赤褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石・石英			
19	I	I-6751	縄文土器	深鉢	AN21	V	沈刷/研磨	研磨	にふい褐色	褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
20	I	I-5481	縄文土器	深鉢	AJ23	V	沈刷/ナデ	ナデ	明赤褐色	橙色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
21	I	I-4629	縄文土器	深鉢	AK23	V	沈刷/ナデ	ナデ	灰黃色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
22	F	F-0700	縄文土器	深鉢	AA24	V	沈刷/ナデ	研磨	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
23	I	I-4956	縄文土器	深鉢	AJ22	V	沈刷/ナデ	研磨	にふい褐色	にふい橙色	角閃石・長石・石英			
24	F	F-1050	縄文土器	深鉢	AB24	V	沈刷/研磨	ナデ	褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石・石英			
25	H	H-1196	縄文土器	深鉢	AI15	V	沈刷/ナデ	研磨	暗赤褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石			
26	I	I-4149	縄文土器	深鉢	AK21	V	沈刷/ナデ	ナデ	褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
27	I	I-8126	縄文土器	深鉢	AF29	V	沈刷/研磨	研磨	にふい赤褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英			
28	H	H-1211	縄文土器	深鉢	AH16	V	沈刷/研磨	貝殻条痕・研磨	にふい赤褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石・石英			
29	I	I-6518	縄文土器	深鉢	AG26	V	沈刷/研磨	貝殻条痕・ナデ	にふい褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
30	I	I-6555	縄文土器	深鉢	AL39	V	沈刷/研磨	研磨・ナデ	赤褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
31	I	I-7569	縄文土器	深鉢	AK24	V	沈刷/ナデ	ナデ	黑褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
32	I	I-4495	縄文土器	深鉢	AM21	V	沈刷/ナデ	ナデ	にふい赤褐色	褐色	角閃石・長石・石英			
33	I	I-4196	縄文土器	深鉢	AL17	V	沈刷/ナデ	ナデ	赤褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
34	I	I-4524	縄文土器	深鉢	AL22	V	沈刷/ナデ	研磨	にふい赤褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
35	I	I-4365	縄文土器	深鉢	AN21	V	沈刷/ナデ	研磨	にふい黄褐色	にふい橙色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
36	I	I-4321	縄文土器	深鉢	AN20	V	沈刷/研磨	研磨	褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
37	I	I-7751	縄文土器	深鉢	AN21	V	沈刷/研磨	研磨	褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
38	I	I-7228	縄文土器	深鉢	AL23	V	沈刷/ナデ	ナデ	にふい褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英			
39	I	I-7901	縄文土器	深鉢	AK24	V	沈刷/ナデ	研磨	灰黄褐色	暗褐色	長石・石英・赤色粒子			
40	I	I-7153	縄文土器	深鉢	AL25	V	沈刷/研磨	ナデ	にふい褐色	にふい橙色	角閃石・長石・石英			

第6表 土器・陶磁器ほか観察表(2)

固 番号	区	取上番号	種別	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考		
							外面		内面					
							外面	内面	外面	内面				
41	I	I-5526	縄文土器	深鉢	AJ23	V	沈縫/ナデ	ナデ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
42	I	I-8114	縄文土器	深鉢	AL21	V	沈縫/研磨	研磨	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
43	I	I-7792	縄文土器	深鉢	AL22	V	沈縫/滑道	ナデ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英			
44	I	I-4885	縄文土器	深鉢	AL23	V	沈縫/ナデ	研磨	黒褐色	灰褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
45	I	I-5166	縄文土器	深鉢	AK23	V	沈縫/ナデ	研磨	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石			
46	I	I-3961	縄文土器	深鉢	AL20	V	沈縫/ナデ	研磨	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
47	I	I-4782	縄文土器	深鉢	AM23	V	沈縫/研磨	研磨	暗褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
48	I	I-3568	縄文土器	深鉢	AK24	V	沈縫/ナデ	ナデ	明赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英			
49	H	H-1229	縄文土器	深鉢	AH16	V	ナ・滑道・ナ	研磨・ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
50	H	H-1217 H-1329	縄文土器	深鉢	AH16	V	ナ・滑道・ナ	研磨	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
51	H	H-1226	縄文土器	深鉢	AH16	V	ナ	研磨	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
52	I	I-2541	縄文土器	深鉢	AI26	V	滑道	ナデ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英			
53	I	I-7568	縄文土器	深鉢	AK24	V	ナ	研磨	に赤褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
54	I	I-5701	縄文土器	深鉢	AL24	V	ナ	ナ	黄褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
55	I	I-2903	縄文土器	深鉢	AL20	V	ナ	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
56	I	I-6128	縄文土器	深鉢	AJ24	V	ナ	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
57	E	E-0657	縄文土器	深鉢	S32	V	研磨	滑道・ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
58	H	H-1246	縄文土器	深鉢	AF16	V	貝殻条痕	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英			
59	I	I-5005 I-5168	縄文土器	深鉢	AK23	V	沈縫/ナ	研磨	暗灰褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
60	F	F-0893	縄文土器	深鉢	X24	V	貝殻条痕	ナ	に赤褐色	に赤褐色	長石・石英			
61	I	I-7803	縄文土器	深鉢	AL20	V	貝殻条痕	ナ	黒褐色	黒褐色	角閃石・石英・赤色粒子	AMS年代測定試料1		
62	I	I-5416	縄文土器	深鉢	AK23	V	ナ	ナ	暗灰褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子			
63	I	I-7390	縄文土器	深鉢	AE28	V	ナ	ナ	黄褐色	暗灰褐色	角閃石・長石・石英			
64	I	I-7383	縄文土器	深鉢	AE28	V	滑道	ナ	暗褐色	赤褐色	角閃石・長石・石英			
65	A	A-0577	縄文土器	深鉢	-	V	ナ	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
66	I	I-6148	縄文土器	鉢	AJ24	V	ナ	ナ	暗灰褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英	AMS年代測定試料2		
67	H	H-1218	縄文土器	鉢	AH16	V	貝殻条痕	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子			
68	I	I-7299	縄文土器	鉢	AL23	V	ナ	ナ	灰褐色	暗灰褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	AMS年代測定試料3		
69	I	I-4545	縄文土器	鉢	AK22	V	ナ	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・雲母	AMS年代測定試料4		
70	I	I-4646	縄文土器	深鉢	AL22	V	研磨	ナ	褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英			
71	I	I-4661	縄文土器	深鉢	AR26	V	研磨	研磨	灰褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	AMS年代測定試料5		
72	I	I-7135	縄文土器	深鉢	AK24	V	ナ	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
73	E	E-0650	縄文土器	深鉢	S31	V	ナ・貝殻条痕	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石			
74	I	I-7256	縄文土器	深鉢	AM23	V	研磨	研磨	に赤褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英			
75	E	E-0615	縄文土器	深鉢	V28	V	研磨	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英			
76	H	H-1207	縄文土器	深鉢	AG13	V	研磨	ナ	に赤褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
77	I	I-5482	縄文土器	深鉢	AJ23	V	研磨	研磨	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
78	E	E-0286	縄文土器	深鉢	R34	III	ナ	ナ	に赤褐色	に赤褐色	長石・石英・赤色粒子			
79	F	F-0510	縄文土器	深鉢	U22	III	研磨	ナ	に赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
80	I	I-5296	縄文土器	深鉢	AJ23	V	ナ	ナ	明赤褐色	に赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			

第7表 土器・陶磁器ほか観察表③

固 番号	区	取上番号	種別	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考		
							外面		内面					
							外面	内面	外面	内面				
50	81	I-5167	縄文土器	深鉢	AK23	V	研磨	ナゲ	にふい黄褐色	にふい青褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	82	I-4255	縄文土器	深鉢	AM17	V	ナゲ	ナゲ	にふい褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	83	I-8272	縄文土器	深鉢	AM21	V	ナゲ	ナゲ	褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	84	I-7519	縄文土器	深鉢	AJ24	V	其餘条痕・ナゲ	ナゲ	にふい褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	85	I-7896	縄文土器	深鉢	AL24	V	ナゲ	ナゲ	にふい褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	86	I-7073	縄文土器	深鉢	AJ24	V	其餘条痕・ナゲ	ナゲ	褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	87	E-6957	縄文土器	深鉢	U27	N	ナゲ	ナゲ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	88	I-4228	縄文土器	浅鉢	AJ25	B	凹溝/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石			
51	89	I-4292	縄文土器	浅鉢	AL29	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英			
	90	I-4381	縄文土器	浅鉢	AM19	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
	91	I-6497	縄文土器	浅鉢	AH26	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石	口部に凹点		
	92	I-4676	縄文土器	浅鉢	AJ25	V	沈漏/研磨	研磨	褐色	褐色	角閃石・長石・石英・雲母			
	93	I-4823	縄文土器	浅鉢	AK22	V	沈漏/研磨	研磨	褐色	にふい褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	94	I-1005	縄文土器	浅鉢	AK24	V	沈漏/研磨	研磨	にふい褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英			
	95	I-4804	縄文土器	浅鉢	AH26	V	沈漏/研磨	研磨	にふい褐色	にふい青褐色	角閃石・長石・石英			
	96	I-4312	縄文土器	浅鉢	AM23	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
52	97	I-5198	縄文土器	浅鉢	AJ22	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい赤褐色	角閃石・長石・石英			
	98	I-4251	縄文土器	浅鉢	AL17	V	研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
	99	I-5151	縄文土器	浅鉢	AK23	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・赤色粒子			
	100	I-5670	縄文土器	浅鉢	AK24	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石			
	101	I-4281	縄文土器	浅鉢	AM18	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石			
	102	I-5609	縄文土器	浅鉢	AJ23	V	沈漏/研磨	研磨	褐色	褐色	角閃石・長石・雲母			
	103	I-4959	縄文土器	浅鉢	AJ22	V	沈漏/研磨	研磨	灰褐色	灰褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
	104	I-2776	縄文土器	浅鉢	AJ23	N	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	浅黄色	角閃石・赤色粒子			
53	105	I-4703	縄文土器	浅鉢	AM19	V	沈漏/研磨	研磨	灰褐色	褐色	角閃石・長石・雲母			
	106	I-1531	縄文土器	浅鉢	AN21	B	沈漏/研磨	研磨	灰褐色	褐色	長石・赤色粒子			
	107	I-4567	縄文土器	浅鉢	AK22	V	沈漏/研磨	研磨	灰褐色	灰褐色	角閃石・長石・雲母			
	108	I-5992	縄文土器	浅鉢	AJ25	V	沈漏/研磨	研磨	にふい褐色	にふい褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
	109	I-1724	縄文土器	浅鉢	AL23	V	沈漏/研磨	研磨	褐色	褐色	石英・赤色粒子			
	110	I-5557	縄文土器	浅鉢	AL23	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	灰褐色	角閃石・長石・雲母			
	111	I-5569	縄文土器	浅鉢	AK23	V	研磨	研磨	褐色	灰褐色	角閃石			
	112	I-4094	縄文土器	浅鉢	AJ24	B	沈漏/研磨	研磨	灰褐色	褐色	長石・石英			
54	113	I-2792	縄文土器	浅鉢	AK24	B	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	長石			
	114	I-4294	縄文土器	浅鉢	AH26	V	研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石			
	115	I-4331	縄文土器	浅鉢	AJ27	N	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
	116	E-0633	縄文土器	浅鉢	V26	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	角閃石・赤色粒子			
	117	H-0715	縄文土器	浅鉢	AJ15	B	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	灰褐色	角閃石・長石			
	118	I-4970	縄文土器	浅鉢	AJ24	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英			
	119	I-2675	縄文土器	浅鉢	AK23	V	沈漏/研磨	研磨	にふい黄褐色	にふい黄褐色	長石・赤色粒子			
	120	G-G-0126	縄文土器	浅鉢	V17	N	沈漏/研磨	研磨	灰褐色	褐色	角閃石・長石			

第8表 土器・陶磁器ほか観察表④

図 番号	区	取上番号	種別	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考		
							外面		内面					
							外面	内面	外面	内面				
51	121	I	I-6420 I-6440	縄文土器	浅鉢	AH27 AH27	V	研磨	研磨	に赤い黄褐色	灰黄褐色	長石・赤色粒子		
	122	I	I-7694	縄文土器	浅鉢	AL24	V	研磨	研磨	灰黄褐色	褐色	角閃石・長石		
	123	I	I-5119	縄文土器	浅鉢	AL24	V	研磨	研磨	灰褐色	に赤い褐色	角閃石・長石		
	124	I	I-7130	縄文土器	浅鉢	AK24	V	研磨	研磨	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	125	I	I-8326	縄文土器	浅鉢	AK24	V	研磨	研磨	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	角閃石・長石		
	126	I	I-4139	縄文土器	浅鉢	AL22	V	研磨	研磨	に赤い橙色	に赤い橙色	長石・石英		
	127	I	I-3992	縄文土器	浅鉢	AL21	V	研磨	研磨	に赤い橙黄色	に赤い橙黄色	角閃石・長石・石英		
	128	H	H-1285	縄文土器	浅鉢	AF16	V	研磨	研磨	褐色	褐色	長石・石英・雲母		
	129	I	I-4740	縄文土器	浅鉢	AN20	V	研磨	研磨	に赤い橙黄色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英		
	130	I	I-5382	縄文土器	浅鉢	AL24	V	研磨	研磨	に赤い橙黄色	に赤い橙黄色	角閃石・長石・石英		
	131	I	I-3242	縄文土器	浅鉢	AD27	II	研磨	研磨	に赤い黄	黒褐色	長石・石英・赤色粒子		
52	132	F	F-0794	縄文土器	浅鉢	Z24	V	研磨	研磨	灰黄色	灰黄色	長石・石英	焼成後穿孔	
	133	I	I-4256	縄文土器	浅鉢	AL17	V	研磨	研磨	浅黄色	に赤い黄色	角閃石・長石・雲母・石英	腹付着	
	134	I	I-7532	縄文土器	浅鉢	AK24	V	研磨	研磨	橙色	明赤褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	135	I	I-4245	縄文土器	浅鉢	AM21	V	研磨	研磨	黒褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英	AM5年代測定試料	
	136	I	I-6719	縄文土器	浅鉢	AL19	V	研磨	研磨	明赤褐色	明赤褐色	角閃石・雲母・石英	口部に凹点	
	137	I	I-7696	縄文土器	浅鉢	AL21	V	研磨	研磨	黑色	黒褐色	角閃石・長石・石英		
	138	I	I-6252	縄文土器	浅鉢	AI26	V	研磨	研磨	に赤い橙黄色	に赤い橙黄色	角閃石・長石・石英		
	139	I	I-6333	縄文土器	浅鉢	AI26	V	研磨	研磨	黒褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	140	I	I-0619	縄文土器	浅鉢	AL24	III	研磨	研磨	に赤い橙黄色	灰黄褐色	長石・石英・雲母	腹付着	
	141	I	I-7508	縄文土器	浅鉢	AK25	V	研磨	研磨	橙色	橙色	長石・石英・赤色粒子		
	142	A	A-0794	縄文土器	浅鉢	-	III	研磨	研磨	橙色	橙色	長石・石英		
	143	I	I-7355	縄文土器	浅鉢	AI24	V	研磨	研磨	灰黄色	に赤い黄色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
53	144	D	D-0278	縄文土器	浅鉢	T9	III	研磨	研磨	に赤い橙黄色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子	腹付着	
	145	I	I-7688	縄文土器	浅鉢	AL22	V	研磨	研磨	に赤い橙黄色	に赤い橙黄色	長石・石英		
	146	I	I-6798	縄文土器	浅鉢	AG27	V	研磨	研磨	に赤い橙黄色	に赤い橙黄色	角閃石・長石・石英		
	147	I	I-5186	縄文土器	浅鉢	AJ23	V	研磨	研磨	褐色	褐色	長石・石英・赤色粒子		
	148	I	I-4798	縄文土器	浅鉢	AL23	V	研磨	研磨	灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	149	I	I-4770	縄文土器	浅鉢	AL22	V	研磨	研磨	灰黄褐色	褐色	角閃石・長石・雲母		
	150	I	I-4862	縄文土器	浅鉢	AL24	V	研磨	研磨	に赤い橙色	に赤い橙色	角閃石・長石		
	151	I	I-5963	縄文土器	浅鉢	AL23	V	研磨	研磨	褐色	褐色	角閃石・長石		
	152	I	I-5132	縄文土器	浅鉢	AL24	V	研磨	研磨	に赤い橙黄色	に赤い橙黄色	角閃石・長石・石英		
	153	I	I-4888	縄文土器	浅鉢	AL23	V	研磨	研磨	に赤い橙黄色	黑色	角閃石・長石・石英・雲母	焼成後穿孔	
	154	I	I-6067	縄文土器	浅鉢	AI24	III	沈縫/研磨	研磨	灰黄色	に赤い橙色	角閃石・長石		
	155	I	I-5001	縄文土器	浅鉢	AK23	V	沈縫/研磨	研磨	に赤い褐色	に赤い褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	156	I	I-4940	縄文土器	浅鉢	AK22	V	沈縫/研磨	研磨	灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石		
	157	I	I-8350	縄文土器	浅鉢	AK21	V	沈縫/研磨	研磨	灰黄褐色	褐色	角閃石・雲母		
	158	D	D-0190	縄文土器	浅鉢	T10	III	研磨	研磨	暗灰褐色	褐色	長石		
	159	I	I-5440	縄文土器	浅鉢	AK23	V	沈縫/研磨	研磨	灰黄褐色	褐色	長石・雲母・赤色粒子	焼成後穿孔	
	160	I	I-6143	縄文土器	浅鉢	AI24	V	沈縫/研磨	研磨	に赤い黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		

第9表 土器・陶磁器ほか観察表⑤

固 番号	区	點上番号	種別	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考		
							外面		内面					
							外側	内側	外側	内側				
161	I	I-0976	縄文土器	浅鉢	AJ24	V	沈縫/研磨	研磨	灰黄褐色	褐灰色	角閃石・長石・石英・赤色粒子			
162	I	I-1192	縄文土器	浅鉢	AM21	III	沈縫/研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英			
163	I	I-7243	縄文土器	浅鉢	AK22	V	沈縫/研磨	研磨	灰黄褐色	灰黄褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
164	I	I-2679	縄文土器	浅鉢	AL20	V	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・赤色粒子			
52	165	I	I-8255	縄文土器	浅鉢	AN22	V	沈縫/研磨	研磨	褐灰色	褐灰色	角閃石・長石		
	166	H	H-1200	縄文土器	浅鉢	AJ14	V	研磨	研磨	灰褐色	褐灰色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	167	I	I-4531	縄文土器	浅鉢	AG27	V	沈縫/研磨	研磨	灰黄褐色	褐灰色	角閃石・赤色粒子		
	168	E	E-0930	縄文土器	浅鉢	R32	III	沈縫/研磨	研磨	にぶい黄褐色	灰黄褐色	長石・雲母		
	169	I	I-8260	縄文土器	浅鉢	AN21	V	研磨	研磨	灰黄褐色	にぶい黄褐色	角閃石・石英・雲母		
	170	E	E-0653	縄文土器	浅鉢	S33	V	円錐/研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・石英		
53	171	I	I-5919	縄文土器	浅鉢	AK25	V	研磨	研磨	灰褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
	172	I	I-4832	縄文土器	浅鉢	AL18	V	沈縫/研磨	研磨	暗灰黄色	にぶい黄褐色	角閃石・長石・赤色粒子	内面に赤色顔料	
	173	I	I-4269	縄文土器	浅鉢	AL19	V	沈縫/研磨	研磨	灰褐色	浅黄色	角閃石・長石		
	174	I	I-15540	縄文土器	浅鉢	AJ23	V	沈縫/研磨	研磨	にぶい褐色	褐色	石英・赤色粒子		
	175	I	I-15541	縄文土器	浅鉢	AJ25	V	研磨	研磨	灰褐色	灰褐色	角閃石・長石・石英		
	176	I	I-2819	縄文土器	浅鉢	AK20	V	研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・赤色粒子		
	177	I	I-6120	縄文土器	浅鉢	AI25	V	研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・赤色粒子		
	178	I	I-2856	縄文土器	浅鉢	AL20	V	研磨	研磨	にぶい褐色	褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	179	I	I-8290	縄文土器	浅鉢	AL23	V	研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英	焼成前穿孔	
	180	I	I-0992	縄文土器	浅鉢	AK23	III	研磨	研磨	褐灰色	褐灰色	角閃石・長石・赤色粒子		
54	181	F	F-0667	縄文土器	浅鉢	Y25	N	研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい褐色	長石・石英	口部に突起	
	182	I	I-3556	縄文土器	浅鉢	AJ24	V	研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい褐色	角閃石・長石・石英		
	183	I	I-2922	縄文土器	上付7	A124	V	沈縫/ナデ	ナデ	にぶい黄色	灰褐色	角閃石・長石		
	184	F	F-0559	縄文土器	不明	AB25	III	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	石英・赤色粒子		
	185	B	B-0236	土師質土器	皿	M15	III	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英	系切り	
	186	A	A-0724	土師質土器	皿	K26	N	ナデ	ナデ	にぶい褐色	長石・石英	系切り		
	187	A	A-0463	土師質土器	皿	N22	III	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	長石・石英	系切り	
	188	B	B-0013	土師質土器	皿	Q20	III	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英・雲母	系切り	
	189	B	B-0019	土師質土器	皿	R19	III	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・赤色粒子	系切り	
	190	D	D-066	土師質土器	皿	V12	N	ナデ	ナデ	橙色	橙色	角閃石・長石	系切り	
	191	A	A-0754	土師質土器	皿	-	N	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英・赤色粒子	系切り	
	192	D	D-0429	土師質土器	皿	V9	III	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	長石・石英・赤色粒子	系切り	
	193	D	D-0535	土師質土器	皿	X8	N	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英	系切り	
	194	I	I-0654	土師質土器	皿	AM23	III	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	角閃石・長石	系切り	
55	195	A	A-10099	土師質土器	皿	J24	-	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石	系切り	
	196	B	B-0109	土師質土器	皿	O18	III	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英	系切り	
	197	D	D-0434	土師質土器	皿	V8	III	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	長石・石英・黒色粒子	系切り。楕円形	
	198	A	A-10080	土師質土器	皿	J24	-	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	橙色	長石・石英・雲母・赤色粒子	系切り。楕円形	
	199	I	I-1024	土師質土器	皿	AJ23	III	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英	系切り	
56	200	I	I-0944	土師質土器	皿	A124	III	ナデ	ナデ	橙色	橙色	長石・石英	系切り。楕円形	

第10表 土器・陶磁器ほか観察表⑥

固 番号	区	點上番号	種別	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考		
							外面		内面					
							外面	内面	外面	内面				
54	201	I	I-0007	土師質土器	III	A127	III	ナデ	ナデ	灰黄褐色	褐色	長石・石英	系切り	
	202	F	F-0461	土師質土器	III	V23	III	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子	系切り	
	203	A	A-1655	土師質土器	III	O29	III	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	長石・石英	系切り	
	204	I	I-2905	土師質土器	III	AM23	IV	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	長石	系切り、縁付有	
	205	A	A-0063	土師質土器	III	T24	III	ナデ	ナデ	黃褐色	黃褐色	長石・石英	系切り	
	206	B	B-0272	土師質土器	III	R18	IV	ナデ	ナデ	褐色	褐色	長石・石英・赤色粒子	系切り	
	207	A	A-0367	土師質土器	III	-	V	ナデ	ナデ	褐色	褐色	長石・石英	系切り	
	208	G	G-0299	土師質土器	III	X14	V	ナデ	ナデ	褐色	褐色	長石・石英	系切り	
	209	F	F-0575	須恵質土器	要	T21	III	ナデ	ナデ	灰色	灰色	長石		
	210	I	I-3420	須恵質土器	横棒	AD27	III	タシH/ナデ	ナデ	オリーブ黒色	オリーブ黒色	長石		
55	211	D	D-0679	須恵質土器	鉢	W9	IV	ナデ	ナデ	オリーブ黒色	オリーブ黒色	長石・石英		
	212	B	B-0078	須恵質土器	鉢	P18	III	ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	長石		
	213	A	A-0660	須恵質土器	鉢	N19	III	ナデ	ナデ	黑色・黄灰色	黄灰色	長石・石英		
	214	I	I-2333	須恵質土器	环壺	A126	IV	ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	長石・石英		
	215	I	I-2294	須恵質土器	环壺	AH26	IV	ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	長石・石英		
	216	I	I-2266	須恵質土器	环	AH27	IV	ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	長石・石英		
	217	B	B-0590	須恵質土器	高环	O18	III	ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	長石		
	218	D	D-0623	瓦質土器	要	V11	IV	ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	石英		
	219	E	E-0317	瓦質土器	要	Q36	III	タタキ	ナデ	にぶい黄褐色	浅黄褐色	石英・赤褐色		
	220	G	G-0243	瓦質土器	横棒	AF12	IV	ナデ	クシ日/刷毛H	灰黄色	灰黄色	-		
56	221	D	D-0792	瓦質土器	横棒	X8	III	ナデ	クシ日/刷毛H	暗灰色	灰色	長石		
	222	I	I-8174	瓦質土器	片口	AL20	III	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	石英		
	223	B	B-0278	瓦質土器	鉢	Q18	IV	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黄褐色	角閃石・長石・石英・赤色粒子		
	224	D	D-0713	瓦質土器	鉢	Y7	IV	ナデ	ナデ	黑褐色	にぶい褐色	石英		
	225	-	-	瓦質土器	火葬	-	ナラシ	スカンズイ・ナラシ ナラシ	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	長石・赤色粒子		
	226	H	H-0600	瓦質土器	火葬	AJ16	III	スタンプ文/ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	石英		
	227	E	E-0082	瓦質土器	火葬	T29	III	スタンプ文/ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	石英・赤色粒子		
	228	I	I-0654	瓦質土器	火葬	AG36	III	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	長石		
	229	I	I-0401	白組	III	AJ26	III	-	-	灰白色	灰白色	-		
	230	D	D-0098	白組	III	X9	IV	-	-	灰白色	灰白色	-		
57	231	F	F-0049	白組	III	AC25	III	-	團羅	灰白色	灰白色	-		
	232	-	-	青磁	碗	-	ナラシ	通弁文	-	暗色・オーバー釉	米色・オーバー釉	-		
	233	A	A-0541	青磁	碗	L19	III	通弁文	-	青オリーブ灰色	明オリーブ灰色	-		
	234	A	A-10088	青磁	碗	J24	-	通弁文	-	灰白色	灰白色	-		
	235	E	E-0230	青磁	碗	S32	III	-	-	灰白色	灰白色	-		
	236	H	H-0795	青磁	碗	AE17	III	-	-	オリーブ灰色	オリーブ灰色	-		
	237	H	H-0906	青磁	碗	AH16	III	-	-	明緑灰色	明緑灰色	-		
	238	F	F-0143	青磁	碗	AB26	III	-	-	灰色	灰色	-		
	239	E	E-0231	青磁	碗	X28	IV	-	-	灰白色	灰白色	-		
	240	F	-	青磁	皿	-	ナラシ	-	クシ描文	浅色・オリーブ灰色	浅色・オリーブ灰色	-		

第11表 土器・陶磁器ほか観察表⑦

固 番号	区	取上番号	種別	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考		
							外面		内面					
							外面	内面	外面	内面				
241	I	I-0641	青磁	皿	AM23	Ⅲ	-	タシ模文	灰色	灰色	-			
242	I	-	青磁	皿	-	N	-	花文	灰オーブ色	灰オーブ色	-			
243	I	-	青花	碗	-	ヨツラン	唐草文	唐草文	明青灰色	明青灰色	-			
244	B	B-0298	青花	碗	L15	Ⅲ	唐草文	唐草文	明绿灰色	明绿灰色	-			
245	B	B-0180	青花	碗	N16	Ⅲ	唐草文・唐草文	双方博文	明绿灰色	明绿灰色	-			
246	I	-	青花	皿	-	1775	唐草・雷文	雷文	明绿灰色	明绿灰色	-			
247	I	-	青花	皿	-	1775	唐草文	双方博文	明绿灰色	明绿灰色	-			
248	I	-	青花	皿	-	1775	唐草文	玉取手	明绿灰色	明绿灰色	-			
249	I	-	青花	小坪	-	1775	唐草文・唐草文	唐草文	明绿灰色	明绿灰色	-	蓋台内に「蟹」字		
250	I	-	高麗青磁	不明	AK17	1775	象嵌	-	にぶい褐色	灰色	長石・石英			
251	D	D-0400	高麗青磁	不明	X8	Ⅲ	象嵌	-	灰色	灰	長石			
252	I	-	天目	碗	-	1775	-	-	褐色	褐色	長石・黒色粒子			
253	A	A-0750	施錠	不明	-	N	ナデ・ケズリ	ナデ	灰褐色	灰褐色・灰白	長石・石英・チャート			
254	I	-	土製品	土錠	A124	Ⅲ	ナデ	-	橙色	-	赤色粒子			
255	I	I-1040	土製品	土錠	AJ23	Ⅲ	ナデ	-	にぶい黄褐色	-	石英			
256	I	I-0153	土製品	土錠	AK25	Ⅲ	ナデ	-	明赤褐色	-	-			
257	I	I-2592	土製品	土錠	AE28	N	ナデ	-	にぶい褐色	-	石英・赤色粒子			
258	E	E-0170	土製品	土錠	S31	Ⅲ	ナデ	-	にぶい褐色	-	角閃石・赤色粒子			
259	I	I-0280	土製品	土錠	AJ25	Ⅲ	ナデ	-	赤褐色	-	赤色粒子			
260	I	I-0334	土製品	土錠	AG26	Ⅲ	ナデ	-	にぶい褐色	-	長石・石英・赤色粒子			
261	I	I-0586	土製品	土錠	AK24	Ⅲ	ナデ	-	橙色	-	長石・石英			
262	A	A-0467	土製品	土錠	L20	Ⅲ	ナデ	-	橙色	-	長石・石英			
263	D	D-0393	土製品	土錠	X9	Ⅲ	ナデ	-	橙色	-	長石・赤色粒子			
264	A	A-0110	土製品	土錠	J24	Ⅲ	ナデ	-	にぶい褐色	-	角閃石・長石・赤色粒子			
265	D	D-0706	石鍋	鍋	W9	N	ノミ痕	ノミ痕	赤黑色	暗赤色	-	滑石質		
266	A	A-0098	石鍋	鍋	J25	Ⅲ	ノミ痕	ノミ痕	黑色	灰色	-	滑石質、穿孔あり		

(2) 石器

1～11は石核である。1～10は黒曜石、11はチャートである。

1は最大長6.7cmを測り、今回出土した黒曜石を素材とする石器の中では最大のものである。角礫の黒曜石で自然面を打面として縦長剥片の作出がみられる。正面には長さ約4.5cmの縦長剥片が作出されている。2は扁平な角礫素材の平坦面を打面として側面に数度の剥片作出が行われている。また、下面にも比較的大ぶりの剥離が行われている。3は打面を転回させながら全面剥離が行われているが、不純物が多く入るうえに自然面の溝状の窪みが深く入り込んだ素材で、ごく小さい剥片しか作出できなかつたものと思われる。

4は比較的大きめの素材から分割した不純物を含まない良質の素材で、最終段階で小振りの剥片を連続的に作出している。5は小型の角礫で、自然面を多く残す。剥離面を打面として連続的に縦長の剥片を作る。6も自然面を多く残しており、打面を転回させながら小型の剥片を作出している。7は不純物の含有が非常に多い。8は自然面がわずかに残るもの、全面に剥離が及んでいる。9は一部自然面をとどめるもの、打面を変えて多方向に剥離を行っている。10は不純物を多く含む素材で、自然面を残さず全体に剥離が及ぶ。11はチャートを素材とする唯一の石核であり、わずかに自然面を残すものの、全体に剥離が及んでいる。

12～19はスクレイパーである。いずれもサヌカイトを素材としている。

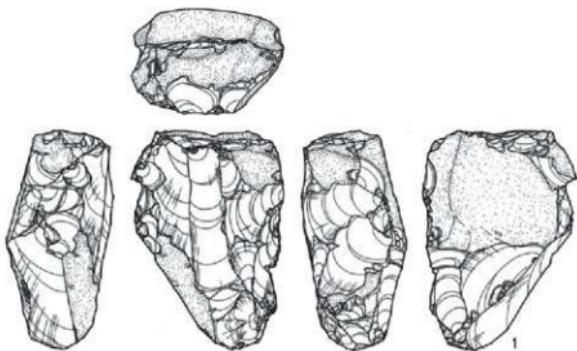
12は横長の剥片を素材として、打点付近に粗い加工を行い、直線的な末端部を刃部として使用したものと思われる。13は縦長の素材の両側辺に調整を行うが、右側辺は刃部を形成するに至っておらず、敲打痕が残る。14は横長の剥片素材の周縁に調整を行う。15は比較的薄手の横長の素材を用いて、末端部に裏面から連続的な調整を行い、直線的な刃部としている。16は薄く作出された縦長剥片の左側辺に両面からの連続的な調整が施されている。17は右側辺に粗い加工がみられる。18・19はどちらも片面に大きく自然面を残す薄手の素材で、左右の側辺に細かい連続的な調整がみられる。

20～27は石鎚、28は石鎚未成品である。25は暗灰色黒曜石、他は漆黒色黒曜石を素材としている。

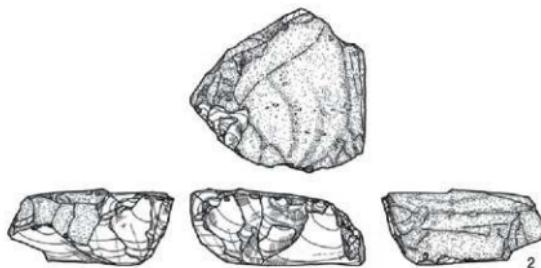
20～22は平基のもの、23～27は脚部をもつ門基のものである。23は剥片鎚であるが、周縁の調整を除いた素材面は風化が進行しており、時期を超えて素材剥片の再利用があったものと推察される。27は両方の脚部を欠損する。両側辺は細かく鋸歯状の加工が施されている。28は全体に加工が及ぶが、整形まで至っていない。

29はサヌカイト製の石錐である。薄手の剥片素材の一端に錐部を作出する。

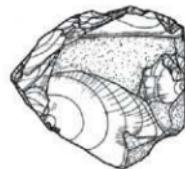
30は樋状の剥離が認められ、一応彫器とした。



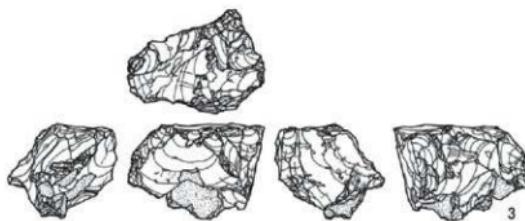
1



2



0 5cm

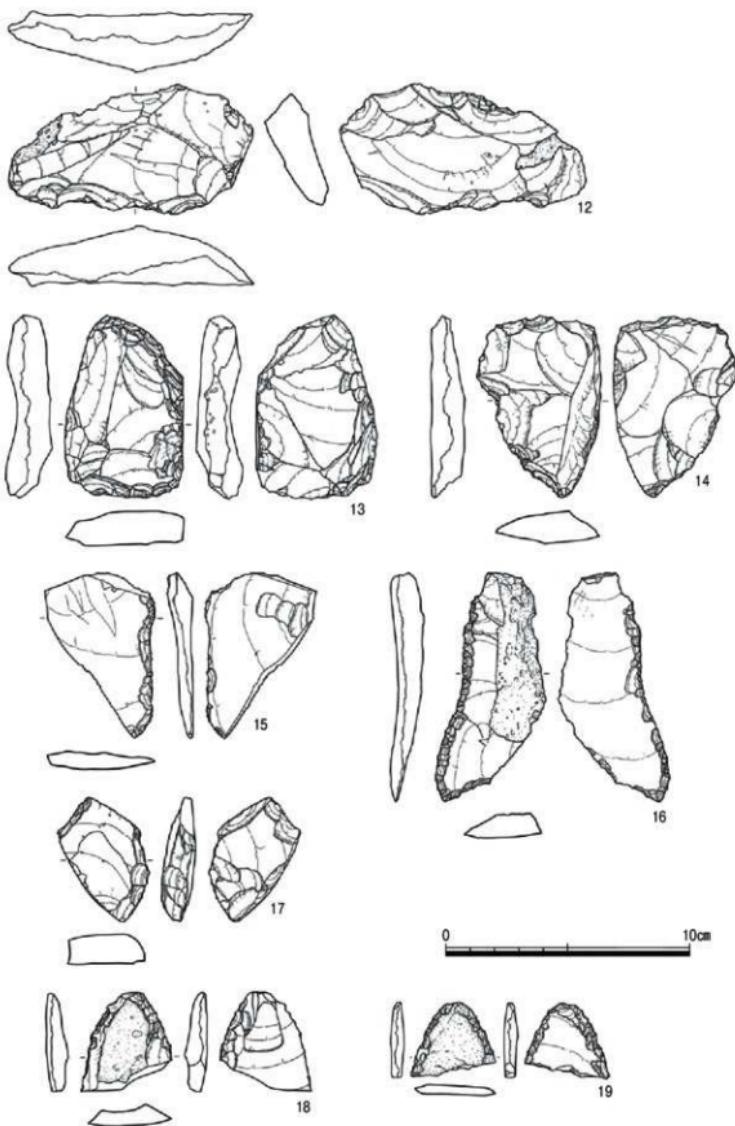


3

第57図 石器実測図① (S=2/3)



第58図 石器実測図② (S=2/3)



第59図 石器実測図③ (S=1/2)

31~87は二次加工のある剥片、微細剥離のある剥片を一括した。31・32はサヌカイトを、他は黒曜石を素材とする。

31は直線的な末端部に刃こぼれ様の微細剥離が認められる。32は打面から左側辺にかけて自然面の残る幅広縦長の剥片で、右側辺に細かい二次加工が行われる。

33~36は比較的大型の黒曜石剥片を素材とするものである。33は自然面を打面として作出された素材で、右側辺に微細剥離が連続する。34は不純物の多く入る素材で、自然面を打面とする。平行する直線的な左右の側辺には二次加工が認められる。35は末端部と右側辺に自然面を残す剥片で、左右両側辺に微細剥離が残る。36が先細りとなる縦長の素材で、右側辺の上半部に微細剥離の集中が観察される。

37~58は縦長の剥片を素材とするものである。37は不純物が多く入る。左側辺に微細剥離が多く認められる。38は自然面を広く残す剥片で、断面急角度の左側辺、緩角度の右側辺のそれぞれ上半に微細剥離がみられる。39は側辺が平行する素材で末端部には自然面が残る。左側辺に微細剥離が連続する。40は細く作出された左右側辺の平行する剥片で、左側辺に非常に微細な剥離が連続する。41はやや膨らむ右側辺上半に二次加工がみられ、左側辺には微細剥離が認められる。42は左側辺下半に二次加工が連続的に施される。

43は末端部近くに自然面を残す剥片で、右側辺に微細剥離が認められる。44は左右の両側辺に微細な剥離がみられる。45は自然面を打面として作出されており、右側辺に微細剥離が認められる。46は右側辺に微細剥離がみられる。47は背面末端付近に自然面を残しており、右側辺の中ほどに微細剥離が連続する。48は左側辺下半と内湾する右側辺の中ほどに微細剥離が集中する。

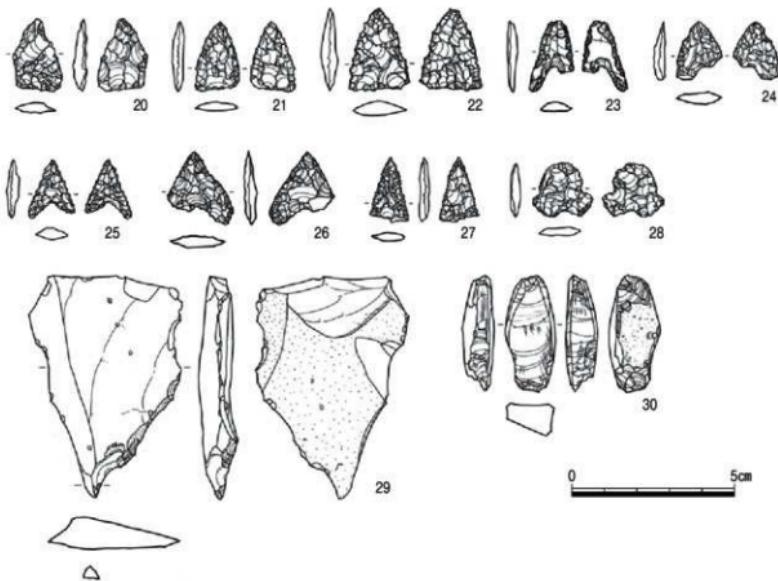
49・50は左右の両側辺に微細剥離が認められる。51は自然面を広く残す剥片で、左右の両側辺に微細剥離が認められる。左側辺については、二次加工の可能性もある。52は左右両側辺から末端にかけて大きく自然面を残す比較的厚手の素材で、右側辺中ほどに微細剥離が認められる。

53は両側辺に微細剥離が連続している。54は自然面を広く残すやや末広がりとなる素材で、右側辺において上半は背面側に、中ほどから下半にかけては腹面側に微細剥離が連続してみられる。55は自然面を打面とする末端に向かって末広がりとなる素材である。左側辺に微細剥離が、右側辺下半に二次加工が認められる。56は左側辺から末端にかけて二次加工を施す。また、右側辺には微細剥離が認められる。57は打面付近を欠損している。末端部付近に二次加工を施し、やや膨らむ左側辺には微細剥離が認められる。58は背面が自然面で覆われた一次剥片で、右側辺に微細剥離がみられる。

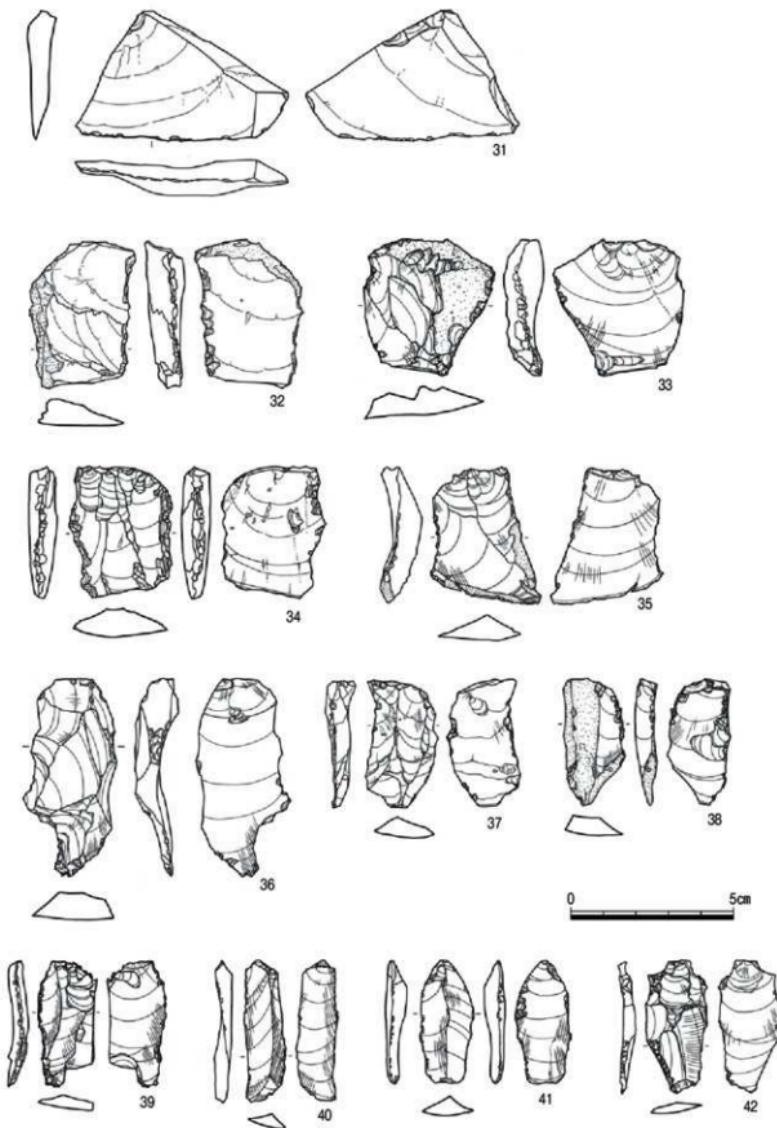
59は末端に自然面を残す剥片で、左側辺の腹面側に二次加工が施される。60は不純物を多く含む素材である。左側辺に微細剥離が認められる。61は自然面を広く残す剥片で、左側辺に二次加工が認められる。62は自然面を打面としており、先にすばまる左側辺に微細剥離が連続してみられる。

63は不純物を多く含む素材で、打点付近は欠損する。左右の両側辺から末端にかけて微細剥離が認められる。64は多く不純物を含んだ素材で、左右両側に微細剥離が観察される。65は厚手の一次剥片で、自然面が広く残る。腹面側から直線的に二次加工が施されている。66は右側辺に自然面が残る。左側辺に微細剥離がみられる。

67は自然面を打面とした先細りとなる剥片で、左右両側辺に微細剥離が連続する。68は自然面を打面としており、右側辺に腹面側から二次加工が施される。69は自然面を広く残す剥片で、打点付近は



第60図 石器実測図④ (S=2/3)



第61図 石器実測図⑤ (S=2/3)



第62図 石器実測図⑥ (S=2/3)

切断したものと思われる。左側辺と切断面に微細剥離が認められる。70は自然面を打面としており、右側辺と末端にも自然面が残る。末端には二次加工が施され、左側辺には微細剥離が観察される。71は末端に二次加工が直線的に連続して施されている。72は自然面を打面としており、末端部に二次加工が行われている。

73は先細りとなる剥片で、左右両側辺に二次加工が認められる。74は自然面を打面としている。左側辺に微細剥離が認められる。75は不純物を多く含む厚手の素材で、右側辺に二次加工が施される。76は自然面を断面としており、左右の側辺に二次加工が観察される。77は右側辺に微細な剥離が連続する。78は自然面を打面とし、右側辺から末端にかけても自然面が残る。末端には二次加工が施され、左側辺には微細剥離が観察される。

79は表裏両面に二次加工が観察され、あるいは石鎚等の未成品の可能性もある。80はやや末広がりとなる剥片で、左右の両側辺に微細剥離がみられる。81は自然面を打点とした不純物の多い素材である。右側辺に連続的に二次加工が施される。82は右側辺に微細剥離がみられる。83は自然面を広く残す素材で、末端は欠損する。右側辺腹面側に二次加工が認められる。84は末端に自然面を残す。両側辺に二次加工とみられる剥離が認められる。

85は打面、末端に自然面が残り、右側辺に二次加工が認められる。86は自然面を打面とする剥片で、右側辺腹面側に二次加工が施され、左側辺には微細剥離が連続する。87は強く風化の進んだ素材剥片の右側辺腹面側に二次加工を連続して施している。

88~100は打製石斧である。89は頁岩、100は砂岩製、他は安山岩製である。

88は幅のわりに長さが短く、本来はもっと長さをもった資料であったと推察される。刃部再生を繰り返した結果であろう。刃部には研ぎ出しがみられる。89は板状の水磨礫を素材としたもので、使用により刃部は極端に摩耗しており、線条痕が認められる。90は撥形を呈する。91は刃部付近に素材面を残す。92は板状素材から作出した剥片を用い、最小限の加工によって撥形に整える。

93~96は刃部を欠損する資料である。93はやや厚みのある短冊形をなすものであろう。94は撥形を呈したものと思われる。95は薄手である。96は幅の狭い小型品であろう。

97~100は基部を欠損した資料である。97は薄手で基部よりやや刃部の方が幅広となる。刃部及び左右の側辺は摩耗が進行している。98は基部をわずかに欠損するが、刃部より基部の方が厚みをもつ。99は先細りとなる刃部である。100はおそらく砾石からの転用品であろう。砂岩製の打製石斧はあまりみられないが、両面、縁辺から剥離加工が加えられており、刃部とみられる部分に摩耗が観察されることから打製石斧と判断した。

101は結晶片岩製の打製石包丁である。側辺に剥離調整が行われており、裏面の一部には研磨が施されている。

102~106は磨製石斧である。105は頁岩製、他は蛇紋岩製である。

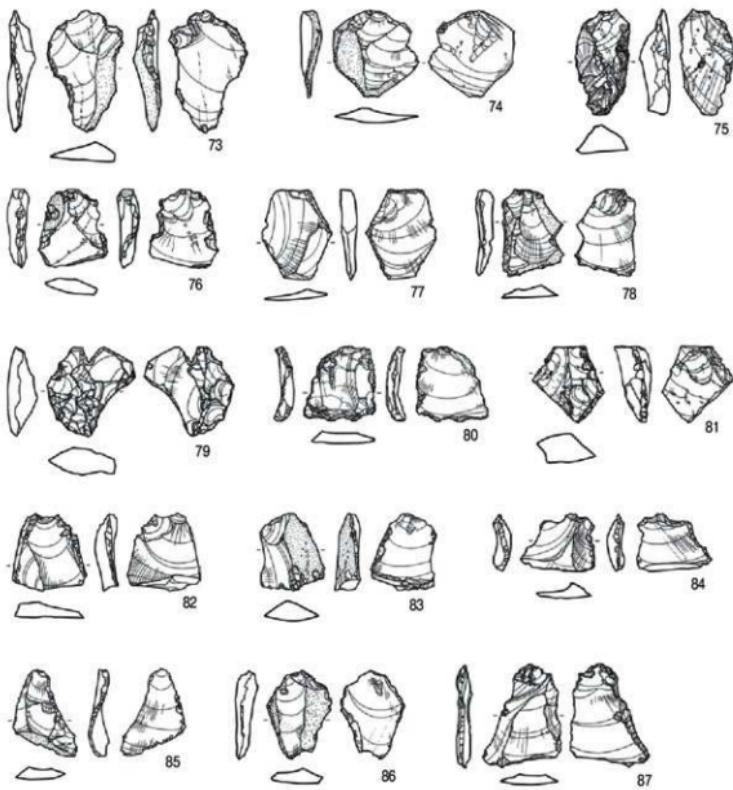
102は薄手の資料で、刃部は欠損する。103は厚手で、刃部はわずかに弧状となる。104は刃部がわずかに弧状となり、側辺は直線的で、基部は刃部よりややすほまる形状である。105の刃部は半円状である。

107・108は石錘である。いずれも砂岩製で、両端に抉りを入れる。

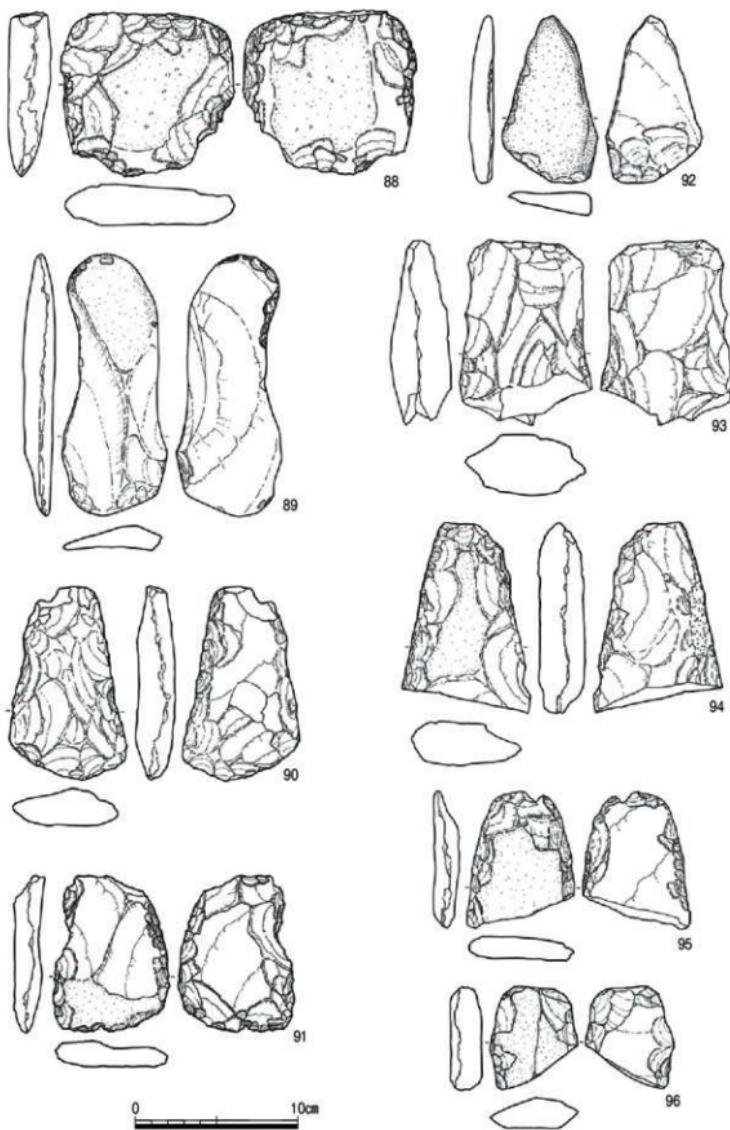
107は磨石からの転用であろうか。108は叩石からの転用品で、表裏面及び周縁に潰痕が残る。



第63図 石器実測図⑦ (S=2/3)



第64図 石器実測図⑧ (S=2/3)



第65図 石器実測図⑨ (S=1/3)

109は結晶片岩を素材とする石皿である。**110**は砂岩製で、表面に凹部、裏面に潰痕をもつことから、石皿と台石の併用品であろう。**111**は板状安山岩の台石で、片面に剥離の集中がみられる。

112は砂岩製の砥石・台石併用品で、3面の研ぎ面と1面の潰痕集中面が認められる。また、端部に線条痕の集中が観察される。**113**は砂岩素材の砥石・台石併用品である。表裏面に研ぎ面としており、端部には潰痕の集中がみられる。砥石としての欠損後に地中に一部埋めるなど固定して台石としたものであろうか。

114は片面に研ぎ面をもった砂岩製の砥石である。周縁や裏面は剥落欠損した可能性が高い。**115**は砂岩製の砥石で小口面を除く4面が研ぎ面となっている。

116は極細砂岩製の砥石・台石である。2面に研ぎ面をもち、表面には線条痕が残ることから研ぎ出し以外の何らかの作業が行われたものと思われる。石材から中世以降のものである可能性が高いと考える。

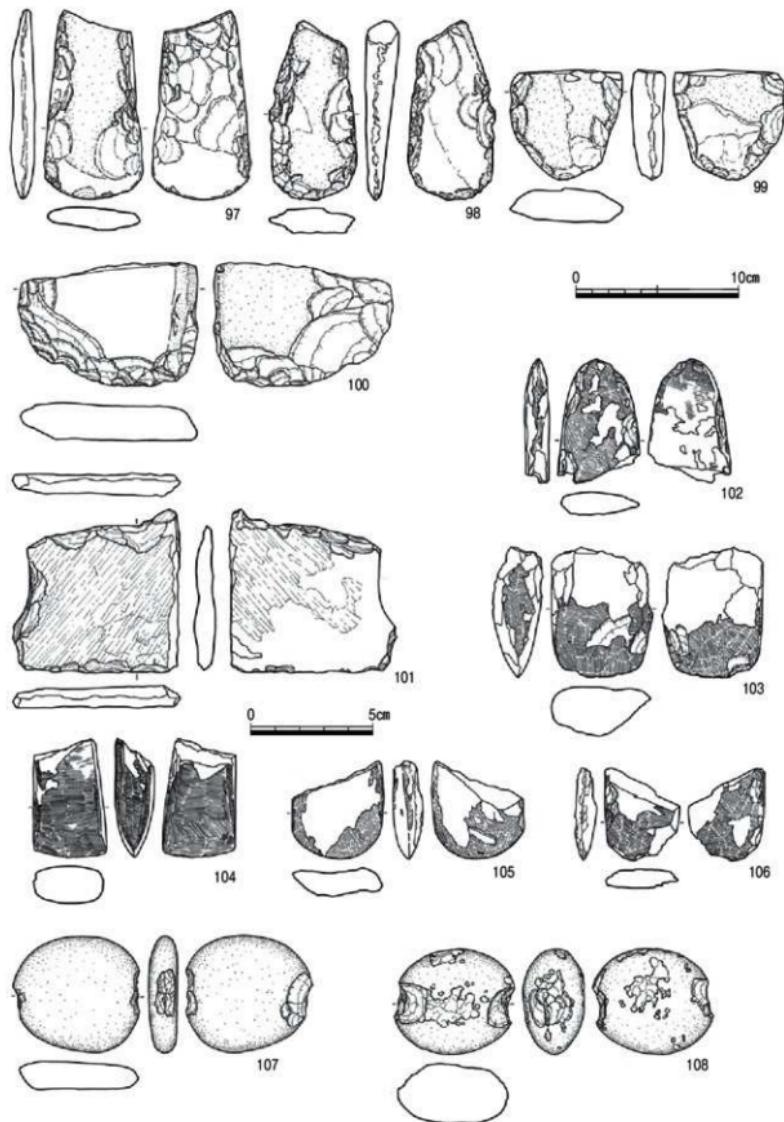
117～**153**は磨石、敲石類である。

117・**118**は大型の磨石でいずれも安山岩を素材とする。**118**は片面に平坦面を形成する。

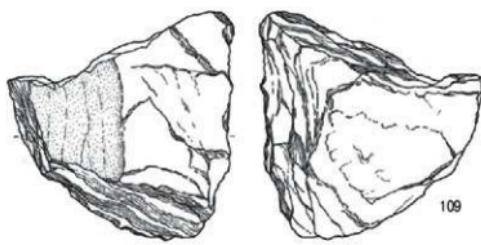
119・**120**は砂岩製で、砥石から敲石への転用品である。**119**は表裏面に研ぎ面を有し、表面及び側面に潰痕、端部に剥離をもつ。砥石から敲石へ転用したものであろう。**120**は側面に研ぎ面があり、表裏面及び端部に潰痕が認められる。

121は安山岩製で扁平な形状をなす敲石である。表裏面及び周縁に潰痕が観察される。**122**・**123**は棒状形状をなす敲石で、端部に潰痕が観察される。**122**は安山岩、**123**は砂岩を素材とする。**124**は頁岩の亜円礫を素材とした敲石で、稜と端部を中心に全体に潰痕が及ぶ。

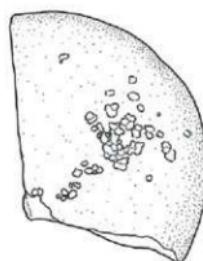
125～**133**は扁平な水磨礫を素材とした敲石である。**126**、**131**は安山岩、**130**は頁岩、他は砂岩である。いざれも周縁に潰痕や敲打による剥離が認められ、**129**、**131**、**133**には平坦面にも潰痕が認められる。



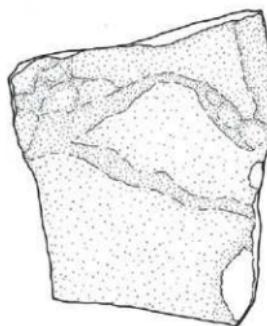
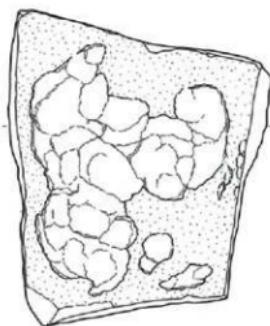
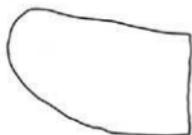
第66図 石器実測図⑩ (97~100, 102~108 : S=1/3, 101 : S=1/2)



109



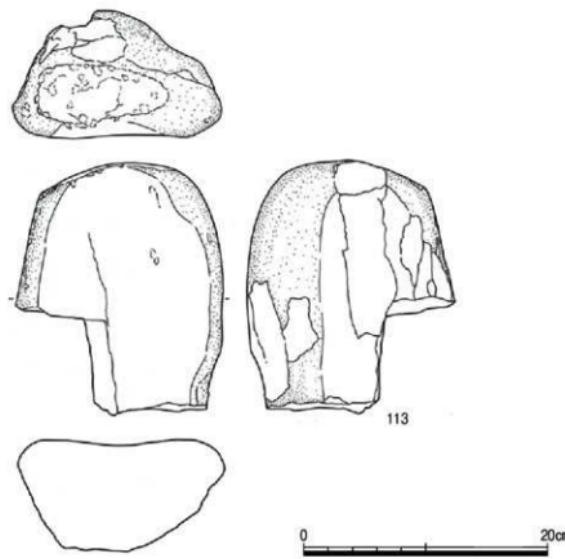
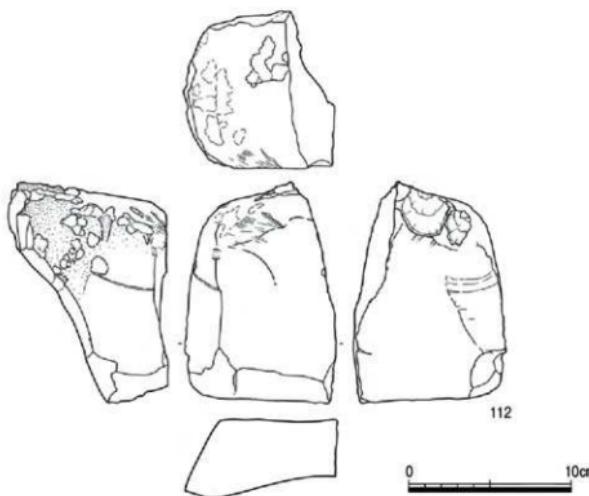
110



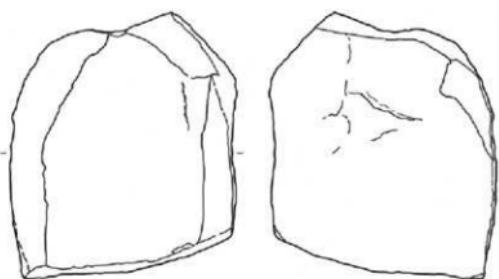
111



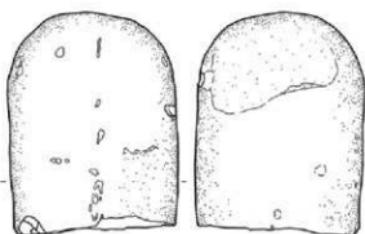
第67図 石器実測図⑪ (S=1/4)



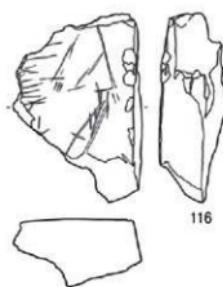
第68図 石器実測図⑫ (112 : S=1/3, 113 : S=1/4)



114



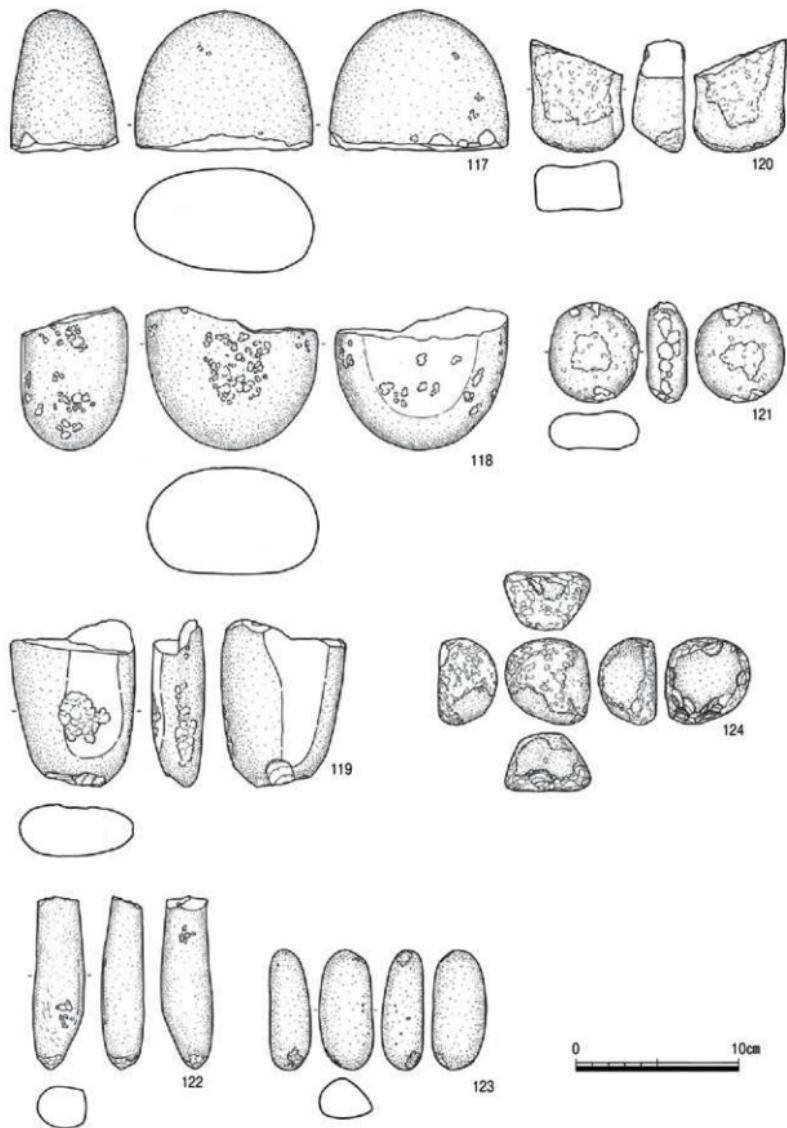
115



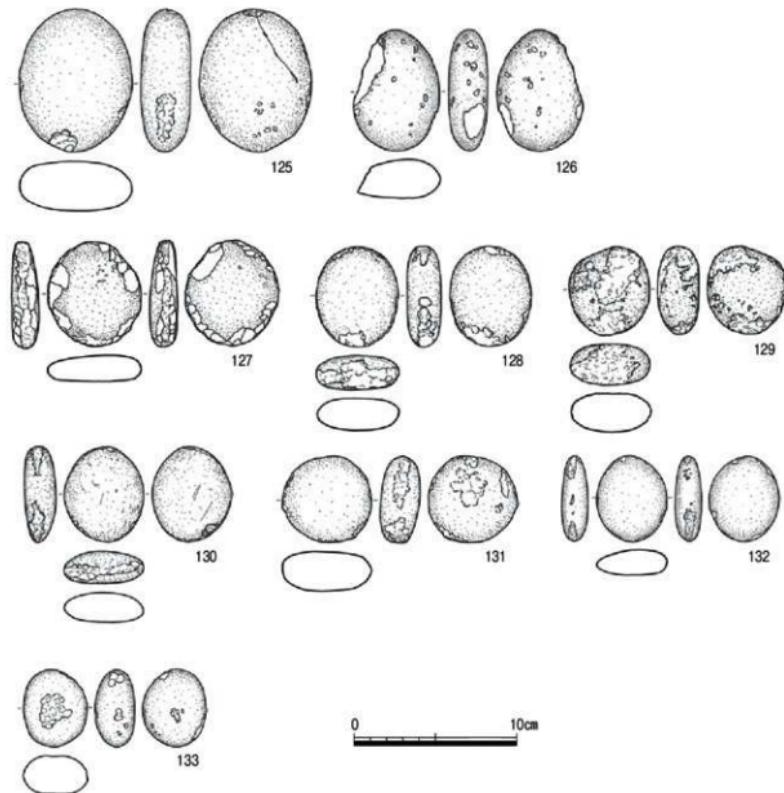
116



第69図 石器実測図⑬ (S=1/3)



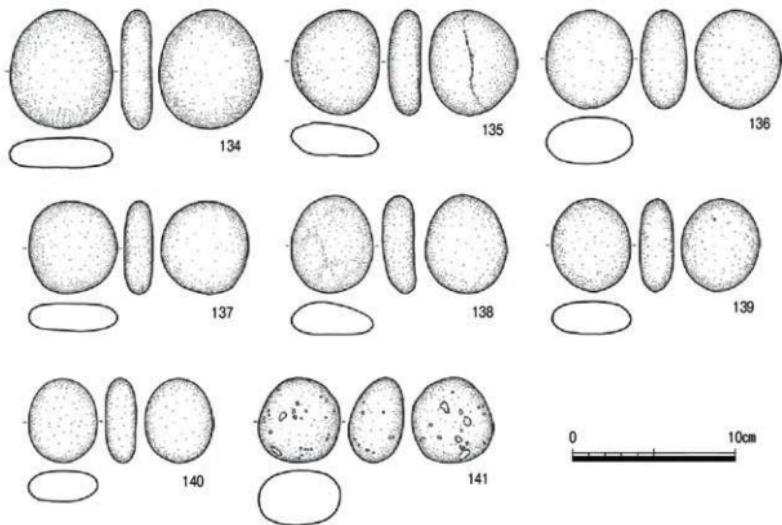
第70図 石器実測図⑭ (S=1/3)



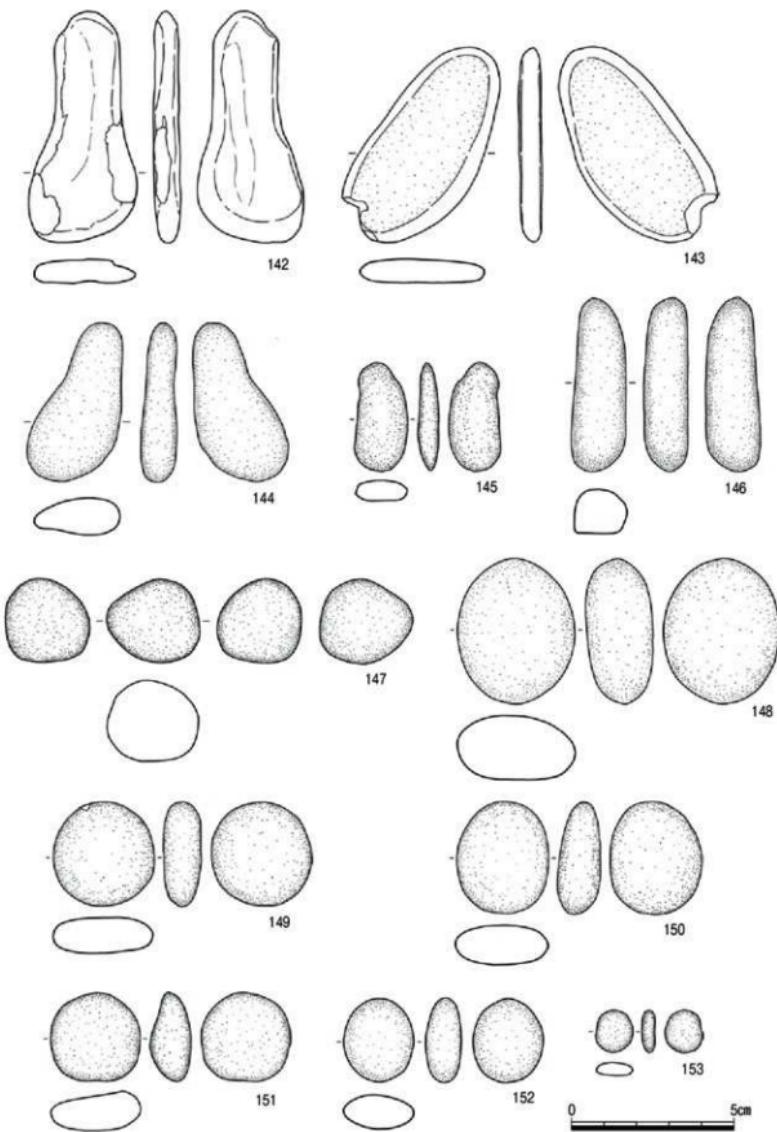
第71図 石器実測図⑯ ($S=1/3$)

134～141は扁平な水磨礫を素材とした磨石である。139、141は安山岩、他は砂岩である。

142～153は比較的小型の磨石類を集めた。142は結晶片岩、145・146、150は頁岩、147は安山岩、151は泥岩、153は蛇紋岩、他は砂岩である。142～145はヘラ様の形狀のものである。142・143は周縁に滑面を形成する。146は棒状をなし、全面が滑面で覆われる。



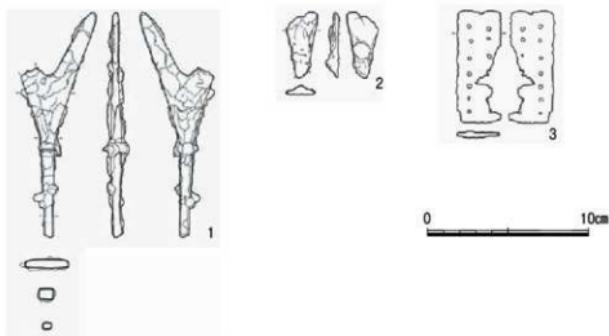
第72図 石器実測図⑯ (S=1/3)



第73図 石器実測図⑰ (S=2/3)

(3) 金属器

1・2は鉄鎌である。1は雁股で鎌身部と茎部との境界に肥厚部をもつ。2の切っ先の形状は不明で、茎部も欠損する。3は甲冑の小札で、7つの小穴が2列に並ぶ。



第74図 金属器実測図 (S=1/3)

第12表 石器観察表(①)

固	番号	区	取上番号	種類	石材	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
57	1	I	-	石核	黒曜石 (漆黒色)	-	カクラン	6.7	4.2	3.2	99.1	
	2	H	H-0655	石核	黒曜石 (漆黒色)	AJ17	II	2.35	5.4	5.1	62.6	
	3	F	F-0604	石核	黒曜石 (漆黒色)	S20	II	2.8	3.8	2.6	29.1	不純物を多く含む
58	4	I	I-6312	石核	黒曜石 (漆黒色)	AH25	V	1.8	4.6	3.1	19.8	
	5	I	I-3053	石核	黒曜石 (漆黒色)	AN19	IV	2.95	2.6	2.65	13.1	
	6	I	I-3260	石核	黒曜石 (漆黒色)	AJ24	IV	2.2	2.75	2.2	10.9	
	7	I	I-6438	石核	黒曜石 (漆黒色)	AH27	V	2.8	2.4	2.9	15.0	不純物を多く含む
	8	I	I-2120	石核	黒曜石 (漆黒色)	AM20	II	2.1	2.3	2.5	9.1	
	9	I	I-0995	石核	黒曜石 (漆黒色)	AK23	II	3.0	2.6	1.8	14.5	
	10	I	I-0334	石核	黒曜石 (漆黒色)	AJ27	II	2.1	2.4	2.35	9.4	不純物を多く含む
	11	I	I-2449	石核	チャード	AJ25	IV	2.65	3.4	2.2	17.8	
	12	I	I-4442	スクレイパー	サヌカイト	AM21	V	5.2	9.9	1.8	96.0	
	13	I	I-6521	スクレイパー	サヌカイト	AG26	V	7.5	4.9	1.9	78.4	
59	14	I	I-6330	スクレイパー	サヌカイト	AJ26	V	7.4	5.1	1.4	48.3	
	15	I	I-3129	スクレイパー	サヌカイト	AL19	IV	6.8	4.5	1.1	22.6	
	16	B	B-0349	スクレイパー	サヌカイト	-	V	9.3	4.5	1.1	37.9	
	17	F	F-10215	スクレイパー	サヌカイト	AB24	II	5.1	3.3	1.2	23.1	
	18	F	F-0810	スクレイパー	サヌカイト	X23	V	4.05	4.7	0.95	11.7	
	19	F	F-0644	スクレイパー	サヌカイト	U21	II	3.1	3.4	0.5	5.7	
60	20	I	I-1083	石器	黒曜石 (漆黒色)	AJ23	II	2.25	1.5	0.4	1.1	

第13表 石器観察表②

図	番号	区	取上番号	器種	石材	グリッド	位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
60	21	I	I-1403	石器	黒曜石(漆黒色)	AK22	II	2.15	1.35	0.35	1.0	
	22	F	F-10087	石器	黒曜石(漆黒色)	AB23	III	2.5	1.9	0.5	1.7	
	23	E	E-0552	石器	黒曜石(漆黒色)	Q36	V	2.2	1.35	0.3	0.6	風化した表面を素材とする
	24	H	H-0714	石器	黒曜石(漆黒色)	AH15	II	1.8	1.4	0.4	0.6	
	25	H	H-1333	石器	黒曜石(漆黒色)	AK15	V	1.8	1.4	0.4	0.5	
	26	F	F-0825	石器	黒曜石(漆黒色)	T21	V	2.25	2.0	0.4	1.1	
	27	H	H-0732	石器	黒曜石(漆黒色)	AH14	II	2.0	1.2	0.3	0.5	
	28	H	H-0274	石器未成品	黒曜石(漆黒色)	AE19	II	1.65	1.85	0.3	1.0	
	29	A	A-10002	石器	サメカイト	I24	-	6.8	4.7	1.2	28.7	
	30	H	H-0333	器形	黒曜石(漆黒色)	AD19	II	3.6	1.6	1.0	5.8	
61	31	I	I-694	微細剥離片	サメカイト	AI23	V	4.2	6.6	1.1	18.9	
	32	D	D-0280	二次加工片	サメカイト	T9	II	4.5	3.3	1.2	16.4	
	33	G	G-0194	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	X14	IV	4.2	4.0	1.2	15.4	
	34	I	I-7663	二次加工片	黒曜石(漆黒色)	AL23	V	4.0	3.2	0.9	2.5	不純物を含む
	35	I	I-7267	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AM23	V	4.1	3.4	1.3	7.6	
	36	I	I-5779	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AK24	V	6.1	2.9	1.3	12.6	
	37	I	I-3496	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AD28	IV	3.9	2.2	0.9	4.6	不純物を多く含む
	38	F	F-0505	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	U22	II	3.9	1.9	0.7	4.7	
	39	I	I-1709	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AM22	II	3.8	1.7	0.7	3.3	
	40	I	I-4067	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AM23	V	4.4	1.3	0.6	2.0	
62	41	I	I-1185	二次加工片・微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AL21	II	3.8	1.75	0.7	2.7	
	42	I	I-7824	二次加工片	黒曜石(漆黒色)	AK21	V	4.1	1.9	0.5	2.4	
	43	I	I-3672	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AC27	II	3.6	1.5	0.6	2.2	
	44	I	I-2037	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AJ25	IV	3.5	1.6	0.8	2.1	
	45	I	I-4480	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AK21	V	3.1	1.25	0.5	1.3	
	46	I	I-4049	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AN22	V	2.7	1.3	0.5	1.3	
	47	I	I-3914	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AL21	V	4.2	2.2	0.8	3.6	
	48	I	I-3941	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AL21	V	4.6	2.1	0.55	5.3	不純物少量含む
	49	D	D-0369	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	T8	II	4.1	2.9	1.2	8.5	
	50	I	I-4612	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AL22	V	3.6	2.1	1.1	4.6	
63	51	I	I-1912	二次加工片・微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AI26	II	4.0	2.0	1.0	4.5	
	52	I	I-0360	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AJ25	II	4.2	1.8	0.95	5.5	
	53	I	I-4376	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AN21	V	3.7	2.4	0.7	2.9	
	54	I	I-4381	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AN21	V	4.2	2.8	1.15	6.2	
	55	I	I-4716	二次加工片・微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AL23	V	3.4	2.0	0.7	2.5	
	56	I	I-3348	二次加工片・微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AC26	II	3.2	2.4	0.85	4.5	
	57	I	I-8119	二次加工片・微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AK24	V	3.9	2.4	0.7	4.7	
	58	I	I-0566	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AL23	II	3.1	1.8	0.6	2.0	
	59	D	D-0255	二次加工片	黒曜石(漆黒色)	U10	II	3.1	3.9	1.0	6.9	
	60	I	I-1871	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AM21	V	3.1	3.4	1.2	8.1	不純物を含む
64	61	G	G-0245	二次加工片	黒曜石(漆黒色)	AE12	IV	4.35	2.8	0.7	8.0	不純物を含む
	62	I	I-4784	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AM23	V	3.2	2.7	1.6	4.0	
	63	I	I-2231	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AK18	II	2.8	3.5	1.2	8.2	不純物を含む
	64	I	I-5426	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AK24	V	2.9	3.1	1.0	6.9	不純物を多く含む
	65	D	D-0116	二次加工片	黒曜石(漆黒色)	S10	II	2.4	3.8	1.2	7.8	
	66	I	I-4319	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AN18	V	3.15	2.4	0.6	4.7	
	67	I	I-4429	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AM22	V	3.5	2.6	1.8	6.1	
	68	I	I-3344	二次加工片	黒曜石(漆黒色)	AC26	II	2.7	2.3	1.0	4.4	
	69	B	B-0179	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	N16	II	2.8	3.1	0.85	5.3	
	70	I	I-3065	二次加工片・微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AL21	V	2.5	2.2	0.8	3.6	

第14表 石器観察表③

回	番号	区	取上番号	器種	石材	グリッド	位置	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
43	71	B	B-0045	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	Q18	II	2.4	2.6	0.6	2.3	
	72	H	H-0135	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	AF17	III	2.9	2.5	0.7	3.7	
	73	G	G-0201	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	Y14	IV	3.7	2.3	0.8	3.4	
	74	I	I-4062	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AM22	V	2.7	2.6	0.7	3.4	
	75	I	I-0336	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	AI25	II	3.25	1.7	0.8	3.8	不純物を多く含む
	76	I	I-0384	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	AI25	II	2.4	2.1	0.7	2.6	
	77	E	E-0520	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	Q36	IV	2.7	2.1	0.5	2.0	
	78	I	I-2805	二次加工剥片・微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AI25	IV	2.6	1.8	0.5	1.9	
	79	I	I-0569	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	AK24	II	2.7	2.7	0.9	4.9	石器等の未成品*
44	80	F	F-0067	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AE25	II	2.3	2.2	0.35	2.3	
	81	I	I-5755	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	AK25	V	2.3	2.2	1.0	3.5	
	82	D	D-0275	微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	T9	II	2.35	2.2	0.65	2.8	
	83	B	B-0185	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	N17	III	2.4	2.0	0.8	3.2	
	84	B	B-0249	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	L15	II	1.8	2.3	0.6	1.9	
	85	I	I-0922	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	AI24	II	2.6	1.95	0.6	1.4	
	86	I	I-2955	二次加工剥片・微細剥離片	黒曜石(漆黒色)	AL23	IV	2.7	1.9	0.7	2.3	
	87	I	I-6746	二次加工剥片	黒曜石(漆黒色)	AN20	V	3.1	2.4	0.4	2.5	簡化した剥片を基材とする
	88	F	F-0814	打製石斧	安山岩	V21	V	9.9	10.5	2.5	363.3	万部研磨
	89	D	D-0281	打製石斧	頁岩	U4	V	16.0	6.4	1.95	225.5	
	90	B	B-0090	打製石斧	安山岩	P17	II	11.6	7.0	2.4	228.1	
	91	A	A-0066	打製石斧	安山岩	K25	II	9.4	7.9	1.8	141.2	系部欠損
45	92	I	I-6475	打製石斧	安山岩	AH26	V	10.15	5.8	1.4	79.1	
	93	F	F-0790	打製石斧	安山岩	Z24	V	10.2	8.0	3.7	386.7	万部欠損
	94	A	A-0085	打製石斧	安山岩	J24	II	11.4	7.3	2.8	308.6	万部欠損
	95	I	I-5340	打製石斧	安山岩	AK23	V	8.4	6.5	1.6	99.3	万部欠損
	96	F	F-0732	打製石斧	安山岩	AB26	IV	6.3	5.3	2.0	78.6	万部欠損
	97	I	I-7346	打製石斧	安山岩	AJ22	V	11.4	6.0	1.4	127.0	系部欠損
	98	D	D-0445	打製石斧	安山岩	V8	II	10.7	5.3	2.0	120.5	
	99	I	I-2145	打製石斧	安山岩	AM18	II	6.65	6.8	2.1	122.6	万部欠損
	100	F	F-10012	打製石斧	砂岩	AA23	II	8.5	10.9	2.2	258.5	系部欠損
	101	F	F-0436	打製石斧	結晶片岩	W22	II	6.7	6.9	1.0	57.7	
	102	E	E-0252	磨製石斧	蛇紋岩	R33	II	7.6	5.1	1.5	68.0	万部欠損
	103	B	B-0089	磨製石斧	蛇紋岩	P17	II	8.0	6.2	3.0	178.5	系部欠損
	104	D	D-0582	磨製石斧	蛇紋岩	V12	IV	7.2	4.5	2.4	112.5	系部欠損
	105	B	B-0226	磨製石斧	頁岩	M16	II	6.0	5.6	1.9	68.0	系部欠損
	106	I	I-1835	磨製石斧	蛇紋岩	AI25	II	5.6	4.6	1.3	34.2	系部欠損
	107	E	E-0648	石鍬	砂岩	U30	V	7.1	7.7	1.8	148.9	
	108	I	I-6689	石鍬	砂岩	AK17	V	6.5	7.3	3.7	211.4	
	109	I	I-5269	石皿	結晶片岩	AK24	V	18.5	18.5	6.2	2200.0	
46	110	I	I-8061	石皿・台石	砂岩	AJ24	V	30.5	16.3	10.5	4100.0	
	111	I	I-S714	台石	安山岩	AL25	V	25.7	21.4	6.8	5900.0	
	112	I	I-4299	砥石・台石	砂岩	AM19	V	13.4	9.3	9.5	1058.7	
	113	I	I-5366	砥石・台石	砂岩	AK23	V	20.6	16.9	10.4	4150.0	
	114	I	I-1786	砥石	砂岩	AJ24	II	16.2	13.8	3.5	1077.4	
47	115	I	I-7365	砥石	砂岩	AD27	V	13.6	10.4	5.95	1321.0	
	116	D	D-0690	砥石・台石	砂岩	W9	IV	11.4	7.9	4.1	304.2	
	117	H	H-1293	磨石	安山岩	AJ16	V	8.6	10.9	6.5	833.5	
	118	I	I-6177	磨石・鏡石	安山岩	AI25	V	8.7	10.5	6.5	798.4	
	119	I	I-3440	敲石	砂岩	AF27	II	10.1	7.6	3.2	316.9	
70	120	E	E-0339	敲石	砂岩	P35	II	6.8	5.7	3.2	174.7	

第15表 石器観察表④

図	番号	区	取上番号	器種	石材	グリッド	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
70	121	I	I-3171	敲石	安山岩	AL21	N	6.1	5.5	2.4	89.0	
	122	I	I-6034	敲石	安山岩	AJ24	V	10.5	3.1	2.6	120.8	
	123	E	E-0225	敲石	砂岩	S33	II	7.3	3.3	2.5	90.7	
	124	I	I-3309	敲石	頁岩	AG26	N	5.2	5.2	3.5	131.3	
71	125	A	A-10033	敲石	砂岩	J25	—	8.6	6.9	3.1	263.9	
	126	F	F-10159	敲石	安山岩	AB24	II	7.4	5.3	2.4	113.0	
	127	I	I-6194	敲石	砂岩	AI25	V	6.45	5.7	1.7	76.9	
	128	E	E-0301	敲石	砂岩	T32	II	6.1	5.05	2.1	95.5	
72	129	I	I-7361	磨石	砂岩	AC27	V	5.4	4.9	2.4	85.8	
	130	A	A-0687	磨石	頁岩	M18	II	5.8	4.85	2.0	64.0	
	131	I	I-6453	磨石	安山岩	AH27	V	5.45	5.25	2.4	75.8	
	132	D	D-0660	磨石	砂岩	U6	II	5.2	4.25	1.55	50.6	
73	133	I	I-5835	磨石	砂岩	AJ23	V	4.7	3.9	2.4	55.7	
	134	I	I-1050	磨石	砂岩	AJ22	II	7.2	6.2	1.8	137.0	
	135	I	I-6943	磨石	砂岩	AI25	V	6.3	5.3	2.0	100.3	
	136	I	I-1283	磨石	砂岩	AL22	II	6.0	5.25	2.8	123.4	
74	137	A	A-0703	磨石	砂岩	L26	II	5.7	5.3	1.7	73.5	
	138	I	I-7056	磨石	砂岩	AK24	V	6.0	5.0	2.1	86.7	
	139	F	F-0742	磨石	安山岩	AB26	N	5.6	4.8	2.05	78.9	
	140	F	F-0769	磨石	砂岩	AE26	V	5.15	4.15	1.85	56.4	
75	141	I	I-6285	磨石	安山岩	AI26	V	5.2	5.0	3.3	103.4	
	142	A	A-0722	磨石	結晶片岩	K26	N	7.1	3.35	0.8	24.5	
	143	H	H-0227	磨石	砂岩	AF18	II	6.0	4.9	0.8	24.6	
	144	I	I-1310	磨石	砂岩	AK20	II	4.8	2.9	1.1	16.0	
76	145	I	I-1361	磨石	頁岩	AL22	II	3.3	1.6	0.7	4.8	
	146	I	I-1142	磨石	頁岩	AL20	II	5.3	1.8	1.4	20.8	
	147	B	B-0303	磨石	安山岩	N17	II	2.6	2.85	2.6	26.6	
	148	D	D-0611	磨石	砂岩	V11	N	4.5	3.6	2.0	47.2	
77	149	D	D-0270	磨石	砂岩	T10	II	3.2	3.1	1.2	15.8	
	150	F	F-0642	磨石	頁岩	U21	II	3.5	2.8	1.3	17.5	
	151	H	H-1068	磨石	泥岩	AE17	N	2.7	2.75	1.25	8.2	
	152	I	I-2861	磨石	砂岩	AJ27	N	2.1	2.2	1.1	9.7	
78	153	H	H-0659	磨石	蛇紋岩	AJ15	II	1.3	1.15	0.4	0.9	

第16表 金属器観察表

図	番号	区	取上番号	器種	部位	グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
74	1	D	D-0617	鉄漿	N	V11	13.9	3.3	1.5
	2	D	D-0585	鉄漿	N	U12	4.0	1.8	0.8
	3	H	H-0439	小札	II	AC21	7.0	2.7	0.6

第IV章 自然科学分析

株式会社古環境研究所

1 はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壤さらには土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である（中村、2003）。

今回の分析調査では、出口遺跡の発掘調査で出土した土器の年代に関する情報を得る目的で、放射性炭素年代測定を実施した。

2 試料

試料は、土器付着炭化物6点である。試料の詳細を第17表に示す。

第17表 測定試料及び処理

試料番号	グリッド	試料の詳細 層位 取上番号	試料の種類	前処理・調整	測定法
1	AL24	V層 I-7843	土器付着炭化物（外面）	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
2	AL24	V層 I-6148	土器付着炭化物（外面）	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
3	AL23	V層 I-7299	土器付着炭化物（外面）	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
4	AK22	V層 I-4545	土器付着炭化物（外面）	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
5	AH26	V層 I-6661	土器付着炭化物（外面）	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
6	AM21	V層 I-8245	土器付着炭化物（外面）	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS

*AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

3 方法

試料の付着物を取り除いた後、酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、 0.001M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、 1 M 未満の場合は「AaA」と結果表に記載する。

化学処理後の試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させ、真空ラインで二酸化炭素を精製する。精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

測定方法は、加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。 $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である。

^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として過る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach, 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を結果表に示す。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

曆年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。曆年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の曆年年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.3\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が曆年較正年代を表す。曆年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、曆年較正年代の計算に、IntCal20データベース (Reimer et al., 2020) を用い、OxCalv4.4較正プログラム (BronkRamsey, 2009) を使用する。曆年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」・「cal BP」という単位で表される。

4 結果

年代測定および曆年較正結果の一覧を第18表、各試料の曆年較正結果を第75図に示す。

今回年代測定を実施した土器付着炭化物の年代値（補正年代）は、 $2,940 \pm 30$ yrBP (試料番号3) ~ $3,050 \pm 30$ yrBP (試料番号5) の年代範囲に取まる。110年の年代幅であり、誤差も含めて考えれば、最少で50年と短い時間幅である。

第18表 測定結果

試料番号 (IAAA-)	測定No.	$\sigma^{14}\text{C}$ (%)	曆年較正用年代 (年BP)	^{14}C 年代 (年BP)	曆年代 (西暦)		
					1 σ (68.2%確率)	2 σ (95.4%確率)	
1	201461	-26.72 ± 0.18	2950 ± 24	2950 ± 20	1210cal BC-1124cal BC (68.3%)	1256cal BC-1247cal BC (1.9%)	
					1257cal BC-1246cal BC (6.4%)	1286cal BC-1054cal BC (93.6%)	
2	201462	-24.45 ± 0.21	2972 ± 25	2970 ± 30	1228cal BC-1188cal BC (30.3%)	1281cal BC-1111cal BC (94.5%)	
					1180cal BC-1157cal BC (16.4%)	1092cal BC-1084cal BC (0.6%)	
					1147cal BC-1127cal BC (15.3%)	1065cal BC-1059cal BC (0.4%)	
3	201463	-24.58 ± 0.24	2939 ± 25	2940 ± 30	1212cal BC-1114cal BC (68.3%)	1253cal BC-1250cal BC (0.3%)	
					1228cal BC-1048cal BC (95.1%)		
4	201464	-24.69 ± 0.21	3010 ± 25	3010 ± 30	1368cal BC-1359cal BC (4.2%)	1384cal BC-1341cal BC (13.5%)	
					1290cal BC-1214cal BC (64.1%)	1310cal BC-1192cal BC (75.4%)	
					1179cal BC-1159cal BC (3.3%)	1145cal BC-1128cal BC (3.3%)	
5	201465	-24.89 ± 0.22	3051 ± 25	3050 ± 30	1383cal BC-1341cal BC (33.2%)	1402cal BC-1256cal BC (89.6%)	
					1312cal BC-1267cal BC (35.0%)	1248cal BC-1226cal BC (5.9%)	
6	201466	-25.78 ± 0.26	3017 ± 25	3020 ± 30	1370cal BC-1357cal BC (7.5%)	1386cal BC-1339cal BC (18.4%)	
					1294cal BC-1219cal BC (60.7%)	1316cal BC-1196cal BC (74.2%)	
					1173cal BC-1163cal BC (1.3%)	1143cal BC-1131cal BC (1.6%)	

BP : Before Physics (Present), BC : 紀元前

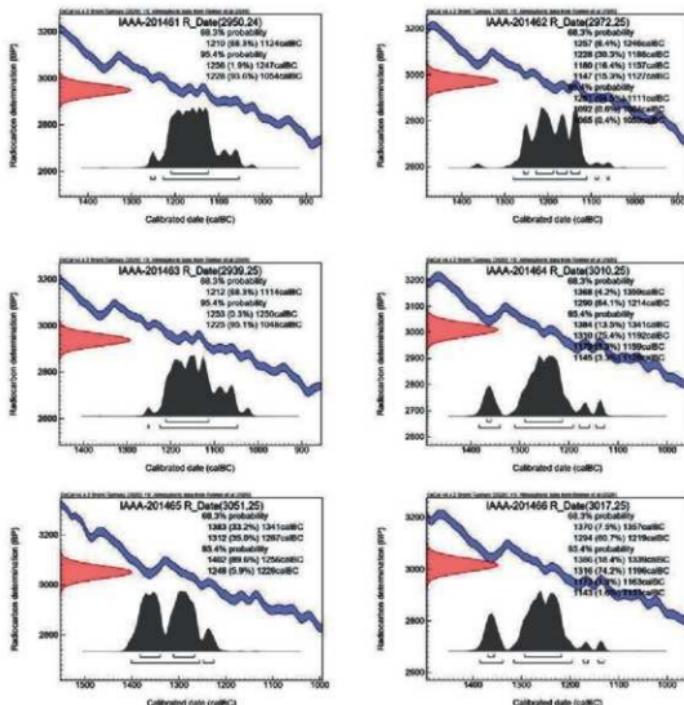
5 所見

試料番号1の年代値は、 $2,950 \pm 20$ yrBP (2 σ 曆年較正年代で1256cal BC-1247cal BC, 1228cal BC-1054cal BC) を示した。試料番号2の年代値は、 $2,970 \pm 30$ yrBP (2 σ 曆年較正年代で1281cal BC-

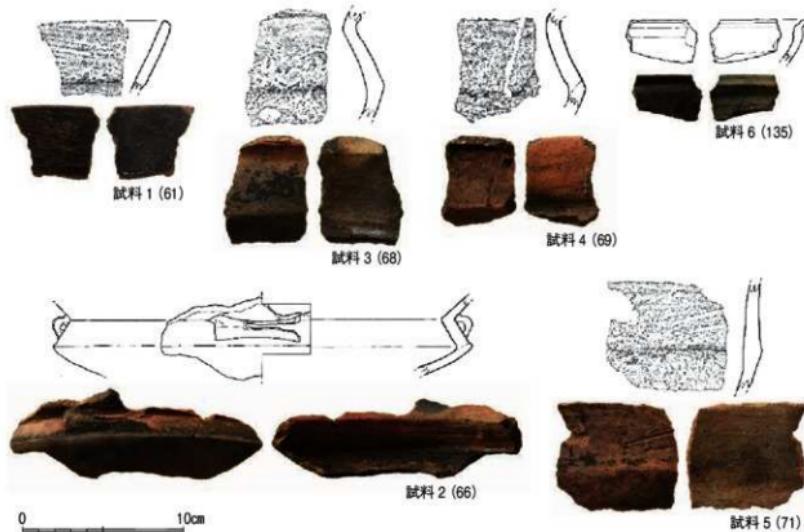
1111cal BC, 1092cal BC-1084cal BC, 1065cal BC-1059cal BC) を示した。試料番号 3 の年代値は、 $2,940 \pm 30$ yrBP (2 σ 历年較正年代で 1253cal BC-1250cal BC, 1225cal BC-1048cal BC) で、今回測定した試料の中で最も新しい年代を示した。試料番号 4 の年代値は、 $3,010 \pm 30$ yrBP (2 σ 历年較正年代で 1384cal BC-1341cal BC, 1310cal BC-1192cal BC, 1179cal BC-1159cal BC, 1145cal BC-1128cal BC) を示した。試料番号 5 の年代値は、 $3,050 \pm 30$ yrBP (2 σ 历年較正年代で 1402cal BC-1256cal BC, 1248cal BC-1226cal BC) で、今回測定した試料の中で最も古い年代を示した。試料番号 6 の年代値は、 $3,020 \pm 30$ yrBP (2 σ 历年較正年代で 1386cal BC-1339cal BC, 1316cal BC-1196cal BC, 1173cal BC-1163cal BC, 1143cal BC-1131cal BC) を示した。

【参考文献】

- Bronk Ramsey, C. 2009. Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51 (1), p.337-360.
 中村俊夫, 2003. 放射性炭素年代測定法と曆年較正. 環境考古学マニュアル. 同成社. p.301-322.
 Reimer, P.J. et al. 2013. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon 55 (4), p.1869–1887.
 Stuiver, M. and Polach, H.A., 1977. Discussion: Reporting of ^{14}C data. Radiocarbon 19 (3), 355–363.



第75図 曆年較正図



第76図 試料採取土器実測図 (S=1/3), 写真

第V章 まとめ

出口遺跡は、南西側が雨天時のみ水を流す谷地形となっており、この谷地形の左岸、標高34~39m付近に展開する。今回の調査では縄文後・晚期と中世の二つの時期を中心に遺構・遺物を検出するに至った。

調査成果について、まず遺構からみていく。縄文時代後・晚期の遺構としては、全体的に遺構の検出は少なかったものの、代表的なものとして打製石斧4本を埋納する土坑があった。検出は、調査区の南西部、谷沿いの最も海手の地点である。土坑内より検出した打製石斧は、いずれも安山岩製で、刃先を同一の向きにそろえた状態で配置されていた。同様のものとして、南島原市内では有家町の東大窪遺跡の事例が知られる。明確な時期の絞り込みはできないが、縄文時代後・晚期のものである。東大窪遺跡では、安山岩製の4本の打製石斧が土坑内に埋納されており、刃部磨製のもの、全体の平坦化を図るための部分磨製作を行っているものを含んでいた。また、長さ12.4cmの1本を除くと、他3本はやや基部がすぼまる短冊形で、長さは22.0cm、22.6cm、23.1cmとなっており、規格性のうかがわれるものであった。今回の出口遺跡の検出事例は、規格性はうかがわれないものの、いずれも未使用品もしくは未完成と考えられるものである点で、また、うち1点は長さ27.3cmを測る非常に大型のものである点でも注目される。

次に中世期の遺構についてであるが、主な遺構としては、掘立柱建物群25棟、柱穴列2基、大溝2条がある。掘立柱建物群及び柱穴列は、遺構内出土の遺物に乏しく個々の年代の決め手に欠けるが、周辺の遺物の出土内容をみると、12・13世紀と15・16世紀のふたつの時期を考えられよう。建物の主軸となる桁行は、等高線方向となる南西-北東にとるものと、それと直交して傾斜方向となる南東-北西にとるものとに大別されるが、前者のほうが棟数としては優位である。SB5とSB6、SB14とSB15、SB18とSB19は配置をほぼ同じくしており、建て替えの可能性も考えられようか。また、SA1はSB10の南東面に、SA2はSB13の南西面に平行しており、付随する施設とも考えられる。

大溝としたSD1とSD2については、事業区域境界ということで部分的な検出にとどまったが、2条が平行して屈曲しており、二重の区画溝となる可能性も視野に入れておきたい。時期的には15・16世紀とみる。中世期の遺構群の配置としては、掘立柱建物群・柱穴列がA~D区及びF区の北西部からG区に集中しており、F区の南東部、G区、H区の建物遺構の空白域を隔てて、海手となるI区に大溝が存在している。掘立柱建物群のなかでも最も海手で確認されたSB25と大溝（SD2）との距離は、約40mである。掘立柱建物群と大溝とが同時期に存在したものと考えるならば、それぞれの遺構群が明確な配置計画のもとに造営されたものといえるであろう。

遺物については、主要な遺物包含層と判断したⅢ~V層において出土地点の観測と記録を行った。なお、C区については後世の耕作地造成のためVI層まで削平が進んでおり、遺物の出土がほとんどなかった。また、I区のうち幅狭の東部分の範囲については、既存の石垣とその裏込め部分にあたり、全体的に攪乱を受けていたことから、出土地点の観測・記録を行った遺物はない。遺物の総取上点数は、自然繊や植物片、土塊などの遺物以外のものを除いたとき13,456点である。内訳は、土器・陶磁器類が11,606点(86.3%)、石器が1,786点(13.3%)で、この2者で99.5%占め、他に金属器、鉄滓、骨、貝殻、炭化物がある。

土器・陶磁器類についてみてみると、時期別の内訳では、主に縄文時代後・晩期（2群）に属するものと、中世期（4群）に属するものに大別され、わずかではあるが弥生時代・古墳時代（3群）に属するものがみられる。また、近世以降の遺物（5群）もわずかではあるが出土があり、これは上層からの混入とみてよからう。縄文時代早期（1群）の資料については、わずかではあるが第48図1・2のように押型文土器の出土があり、数量は少ないかもしれないが今回調査対象とはしなかったVI層以下に包含される可能性が考えられる。また、2群土器の縄文時代後・晩期のⅢ・Ⅳ層の出土が点数の上ではかなりあるが、V層上面が中世期の遺構の検出面であることも考えれば、これらは弥生期以降の二次堆積や、中世期以降の土地の掘削と造成の結果ととらえられよう。縄文時代後・晩期（2群）の土器類とそれに伴うと考えられる石器の分布をみると、出土の大部分はI区に集中している。中世期（4群）の土器・陶磁器類については、Ⅲ・Ⅳ層を主体として削平部を除く調査区全体に分布が認められ、A・B区、D区、I区にまとまった出土がみられる。

2群の資料についてみてみると、縄文時代後期の太郎迫式（第48図3～5）の資料がわずかに存在するものの、大半は口縁部文様帶に沈線を引く深鉢（第48図6～34、第49図35～48）や、浅い胴部に大きく外反する頭部がつき口縁部がわずかに立ち上がる浅鉢（第51図88～126）、浅い胴部に短い頭部がつき口縁部内面に段をもつ浅鉢（第52図127～147）、幅広の口縁部文様帶をもつ浅鉢（第52図154～168）が主体的にみられ、肥後地方でいうところの天城式、古閑式に相当する縄文時代後期末～晩期初頭の資料である。また、それに後続する資料として、口縁部文様帶の長大化が進んで沈線間の間隔が広まつたり沈線が条痕に置き換わつたりなどした深鉢（第50図59～62）や、口縁部が大きく外傾する深鉢（第50図63・65）が若干みられる。突帯文期の資料については、皆無である。

次に石器群についてである。石材別にみた出土状況では、1,786点中黒曜石が1,243点（69.6%）を占め、そのうち漆黒色のものが1,239点、暗灰色のものが4点となっている。漆黒色の黒曜石のなかには不純物を多く含む不良質のものがいくらか含まれるが、大部分は不純物の少ない良質のもので、おそらくは大部分が佐賀県腰岳産のものであろうと思われる。暗灰色の黒曜石については、長崎県北部産のものと考えられるが、周辺の縄文遺跡の出土傾向を勘案すると縄文時代早期に属するものではないかと思われる。石核のサイズとしては、多くが3～4cm程度で、限界近くまで剥片の作出を行っていながら多くが自然面を残存させており、搬入された原石自体が小ぶりのものであったと考えられるが、一方で5cmを超える大型の石核（第57図1・2）の存在も認められ、縄文時代の後期から晩期にかけての島原半島における黒曜石供給のあり方、すなわち大型のものから小型のものへの変遷過程の一端を示しているものと思われる。

サヌカイト素材の石器としては、おもにスクレイバーが認められるが、石核の出土はなく、剥片、碎片の出土数もさほど多くない。製品としての搬入が主体で、遺跡内における原石や素材剥片からの加工はごく限られた範囲でしか行われなかつた可能性が考えられる。

安山岩、砂岩を主な素材としてまとまった出土をみせたのが、磨石、敲石類である。直径5cm程度の円盤状を呈するもののうち、石器製作具として周縁に潰痕の巡る敲石に比して、潰痕をもたない全体滑面で覆われた磨石が高い割合で含まれていることに目がいく。後続する段階では深鉢類の製作で粗雑化の傾向が目立ってくるが、出口遺跡で多数出土した口縁部文様帶をもつ深鉢類の器面調整においては、貝殻条痕による一時調整を行った後、丁寧なナデか研磨によって二次調整を行なうことが常で

ある。縄文時代後期末～晩期初頭の段階においては、そうした二次調整用の土器製作具として小型の磨石が使われた可能性を指摘しておきたい。

以上、調査成果をなぞり若干の評価を行った。縄文時代後・晩期のほうは単純期の資料を得たことは、今後周辺の同時期の縄文遺跡との比較研究を行っていくうえで大きな価値をもつであろう。また、市域において中世期の遺跡の様相が城郭以外で明らかとなる数少ない事例ともなった。遺跡範囲としては、圃場整備事業という枠のなかで設定したものであるため限定的なものとなっている。大溝の検出や地形的な状況を加味するならば、遺跡の広がりは、井手口墓地からグリーンロードへと上る出口下小便石線の連なるクランクのうち、少なくとも山手のクランク付近（第3図参照）まで東側へと拡張の可能性をもっていると判断する。今後、機会を待って調査の蓄積に期待したい。

【参考文献】

- 本多和典編 2019 「東大窓遺跡・中萩原遺跡」南島原市文化財調査報告書第18集 南島原市教育委員会
本多和典 2020 「諿訪ノ上遺跡」南島原市文化財調査報告書第20集 南島原市教育委員会

第19表 出土遺物（調査区別）内訳

調査区	面積	N面	V面	総計
A区	720	45	11	776
B区	259	76	4	339
C区	0	0	4	4
D区	550	307	10	767
E区	360	184	104	648
F区	854	143	77	1,094
G区	170	102	38	310
H区	933	172	189	1,394
I区	2,320	1,117	4,787	8,224
総計	6,196	2,046	5,224	13,466

第20表 出土遺物（種別）内訳

種別	面積	N面	V面	総計
土器・陶磁器	5,139	1,741	4,746	11,606
石器	1,027	282	477	1,786
金属器	24	11	0	35
鉄器	12	5	0	17
骨器	0	2	0	2
貝殻	0	1	0	1
炭化物	5	2	2	9
総計	6,182	2,044	5,225	13,466

第21表 土器・陶磁器（種別）内訳

種別	面積	N面	V面	総計
土器（縄文時代～古墳時代）	3,514	1,071	4,663	9,248
土師質土器（中世）	1,119	449	64	1,632
須恵質土器	96	58	1	155
瓦質土器	239	108	8	336
白磁	37	11	2	50
青花	5	1	0	6
青磁	83	17	1	101
高麗青磁	1	0	0	1
磁器	22	18	5	45
染付（近世～現代）	8	1	2	11
土縫	12	4	0	16
焼成粘土塊	2	3	0	5
総計	5,119	1,741	4,746	11,606

第22表 土器・陶磁器（時期別）内訳

期	面積	N面	V面	総計
1番（縄文時代早形）	0	0	0	0
2番（縄文時代後・後期）	3,484	1,057	4,652	9,198
3番（後古代～古墳時代）	24	6	5	35
4番（中世）	1,594	963	77	2,334
5番（近世～現代）	10	9	5	24
総計	5,112	1,735	4,744	11,591

第23表 石器（器種別）内訳

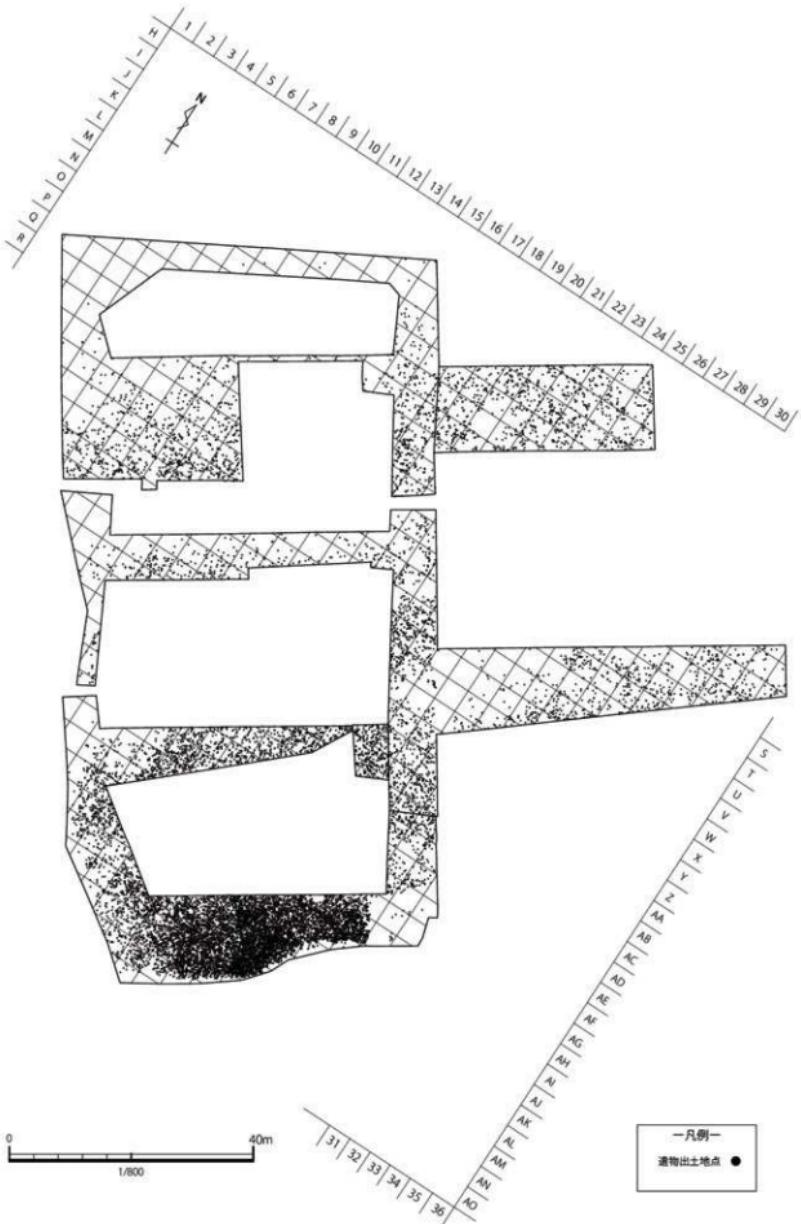
器種	面積	N面	V面	総計
石核	27	12	5	44
片打	434	85	239	758
碎片	220	35	102	357
スクリューバー	3	2	7	12
石鏃・石鎚・石斧	8	0	3	11
二重刃石刀・無刃石刀	88	16	47	151
打削石斧	7	4	9	20
打削石鋸丁	1	0	0	1
磨削石斧	8	3	1	12
石皿	1	0	0	1
石器・合石	0	0	1	1
破石・石皿	0	1	0	1
合石	0	1	0	1
破石・合石	3	3	2	8
破石	28	22	6	56
磨石・削石	28	8	19	55
磨石	18	7	6	31
刮石	0	1	1	2
石鍬	2	0	1	3
石錐	17	14	2	33
石鏡（透石金右衛門）	17	14	2	33
総計	893	214	451	1,558

第24表 石器（石材別）内訳

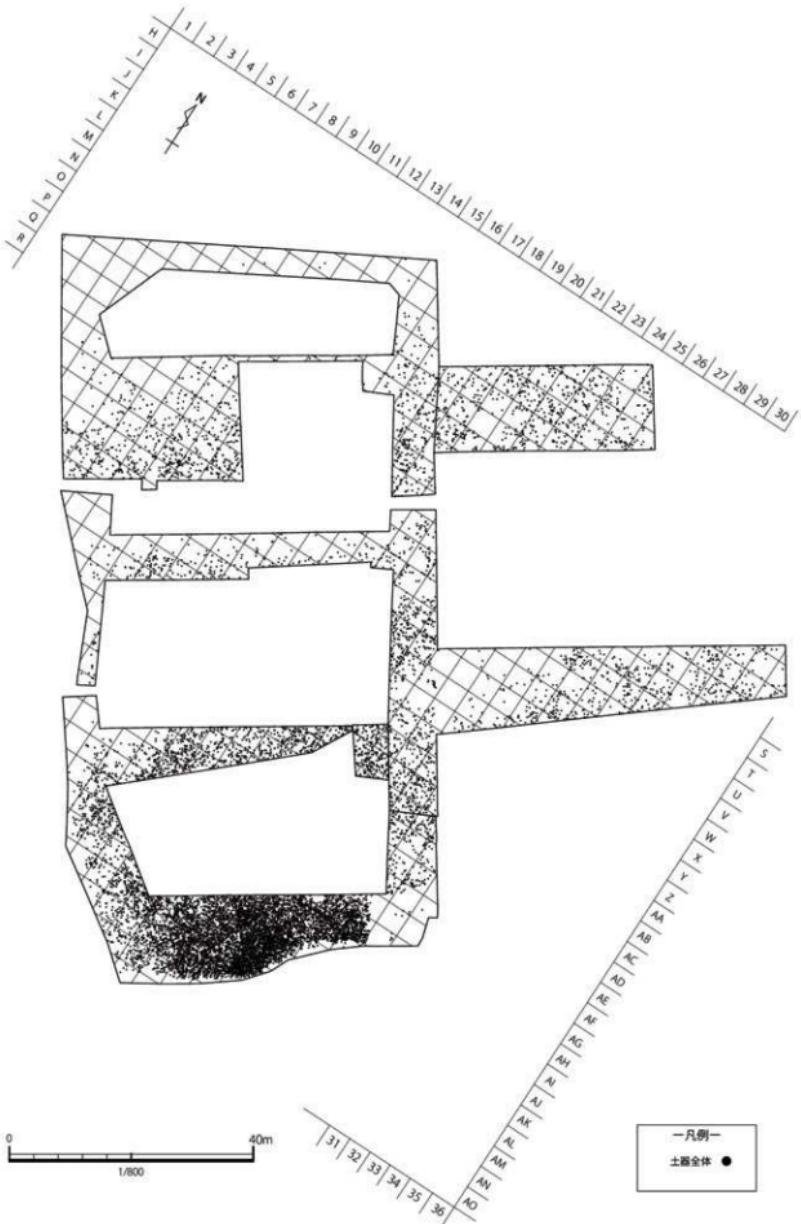
石材	面積	N面	V面	総計
黒曜岩（透色）	734	128	377	1,229
黒曜岩（暗灰色）	4	0	0	4
砂岩	112	63	39	214
安山岩	42	26	28	96
黄岩	24	18	3	45
サヌカイト	15	9	20	44
結晶片岩	24	14	3	41
透石	17	14	2	33
チャート	6	7	2	15
蛇紋岩	4	1	1	6
石英	6	0	0	6
燧石	5	0	0	5
泥岩	2	1	0	3
鉄石英	1	0	0	1
不明	31	1	2	34
総計	1,027	282	677	1,786

第25表 金属器内訳

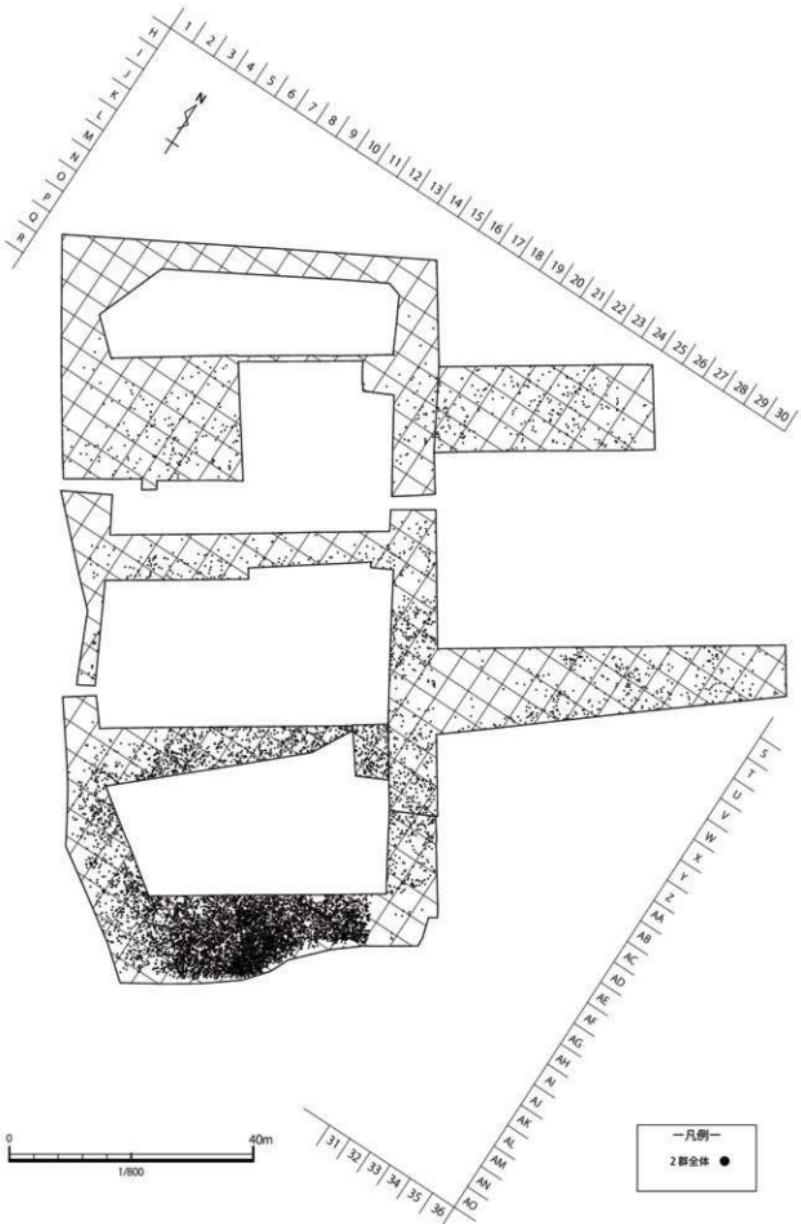
器種	面積	N面	V面	総計
魚灯	11	4	0	15
小札	1	0	0	1
刀子	1	0	0	1
鉄錐（椎又式）	1	0	0	1
不明	11	6	0	17
総計	24	11	0	35



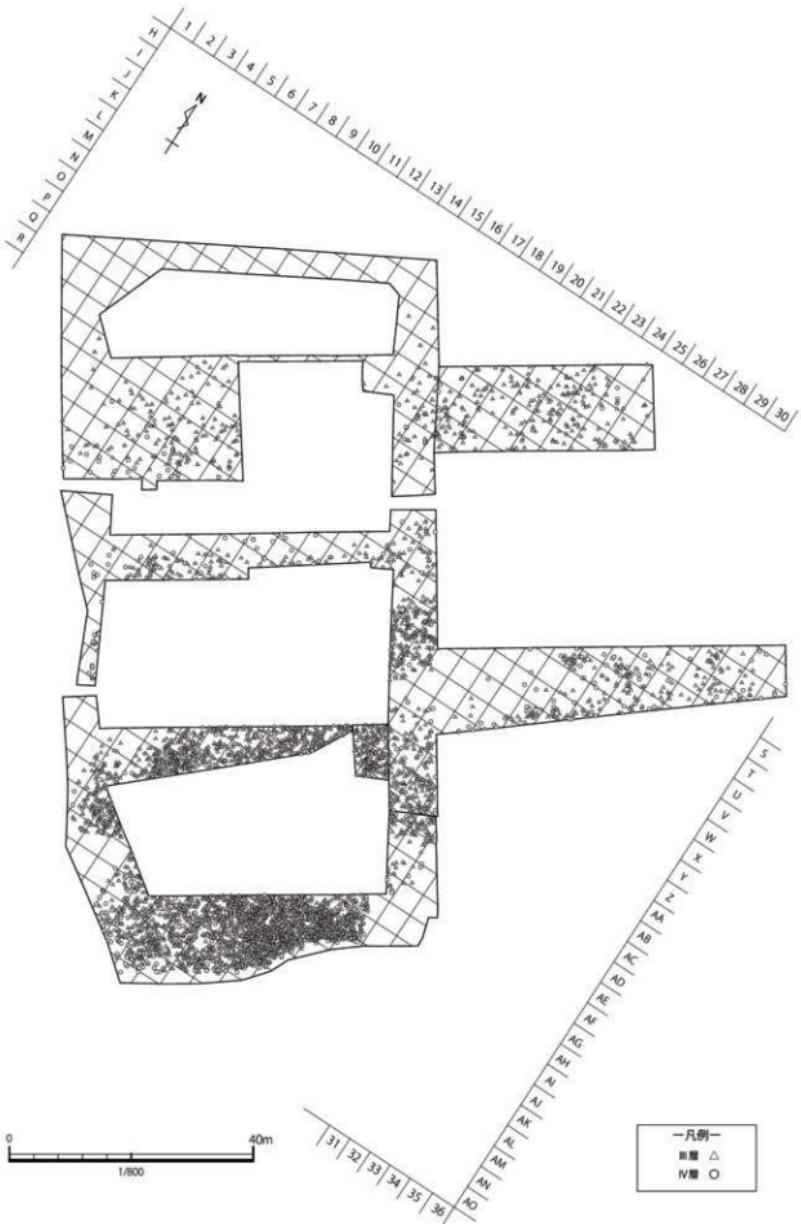
第77図 遺物分布図①【遺物全体】(S=1/800)



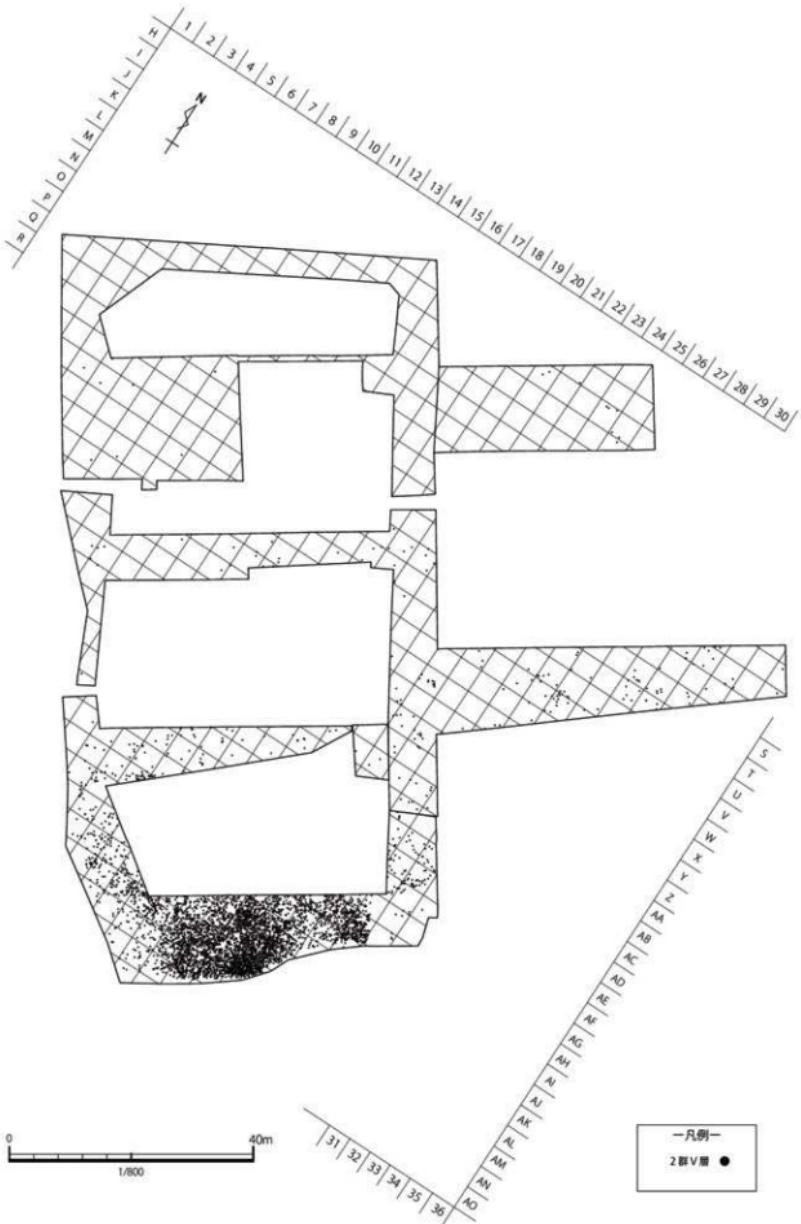
第78図 遺物分布図② [土器全体 (土師質土器含む)] (S=1/800)



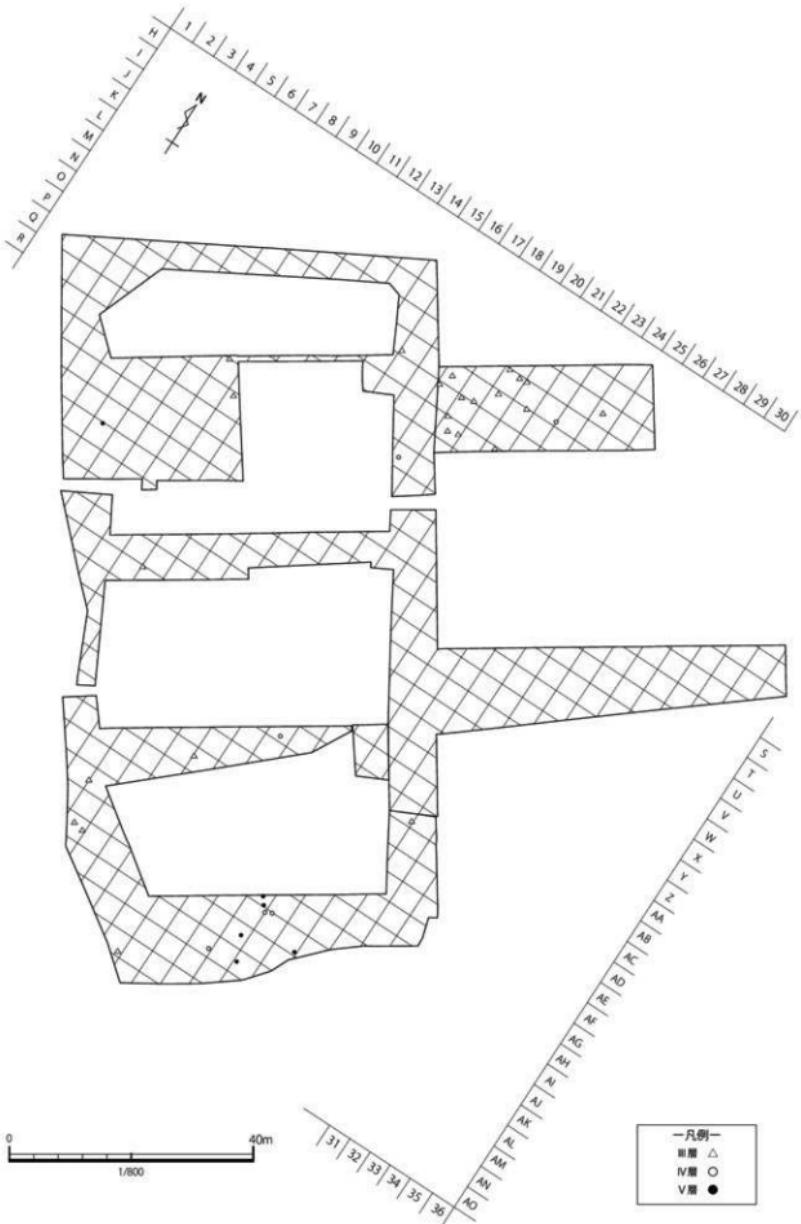
第79図 遺物分布図③【2群全体】(S=1/800)



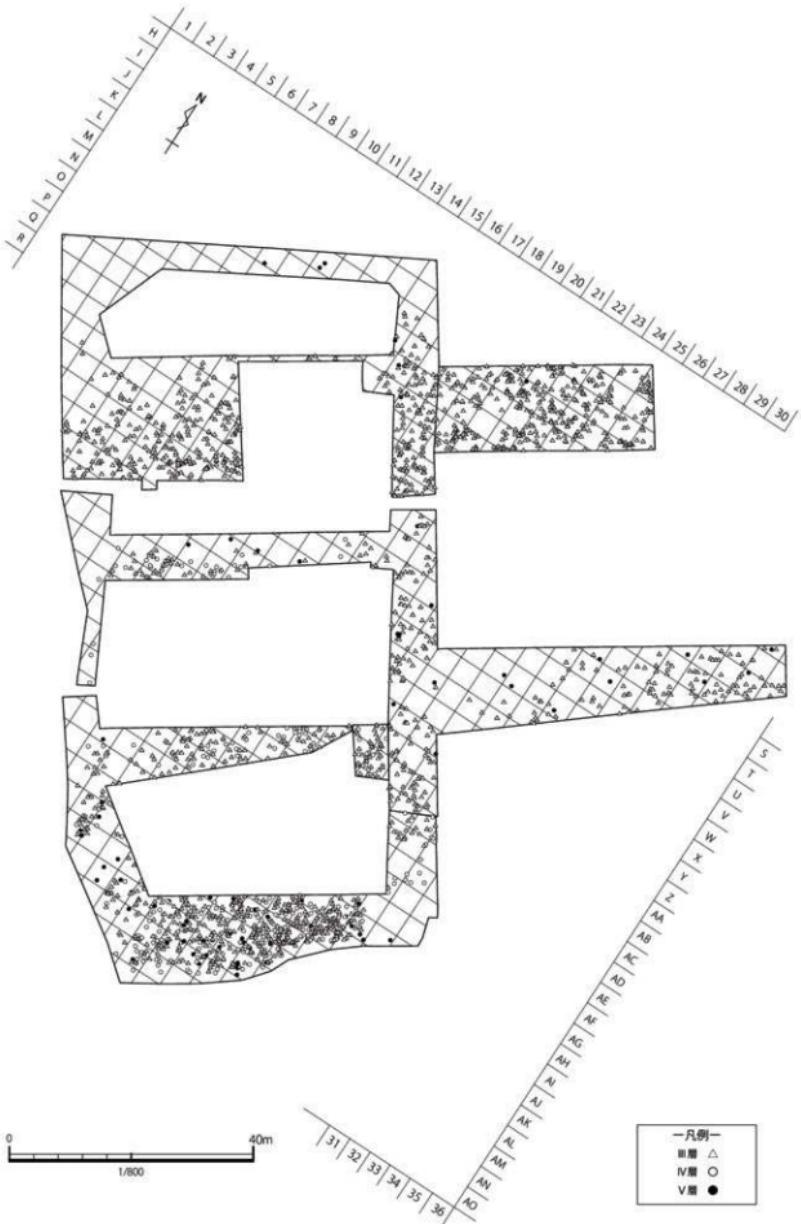
第80図 遺物分布図④ [2群(層位別) III層, IV層] (S=1/800)



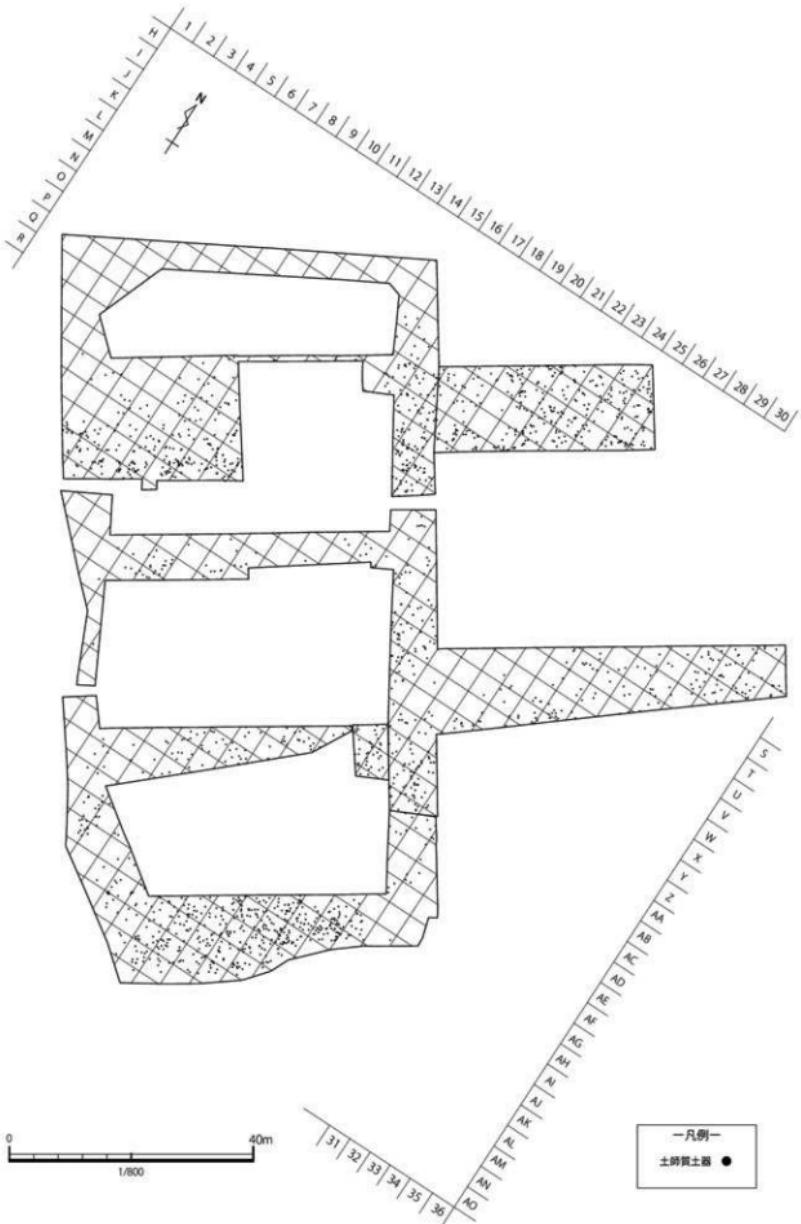
第81図 遺物分布図⑤ [2群(層位別)V層] (S=1/800)



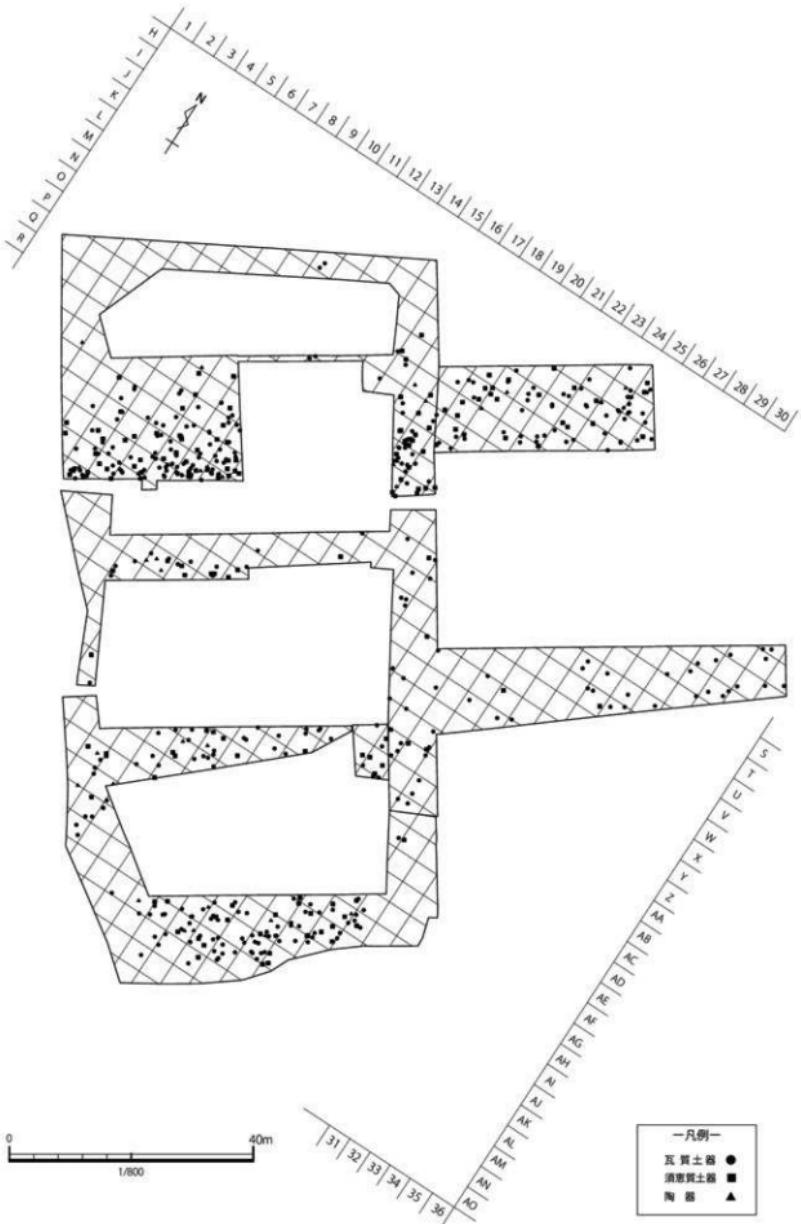
第82図 遺物分布図⑥ [3群(層位別) III層, IV層, V層] (S=1/800)



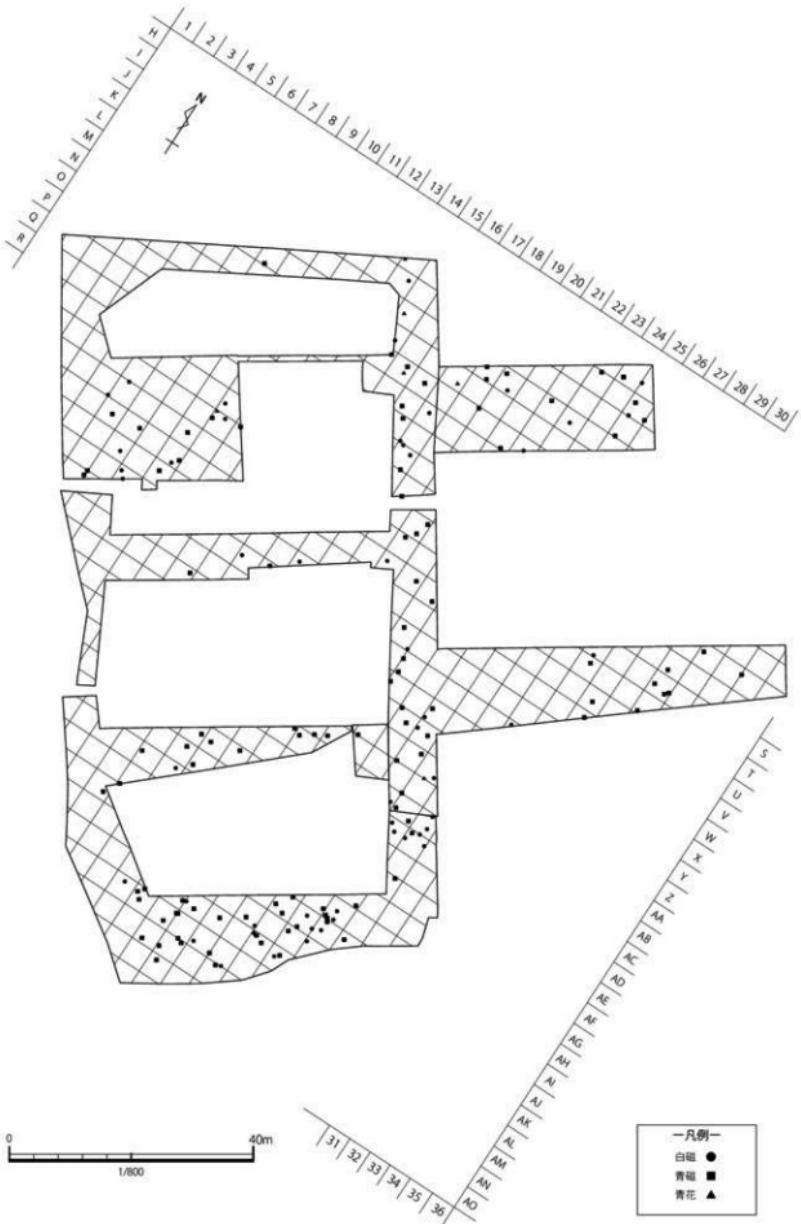
第83図 遺物分布図⑦ [4群(層位別) III層, IV層, V層] (S=1/800)



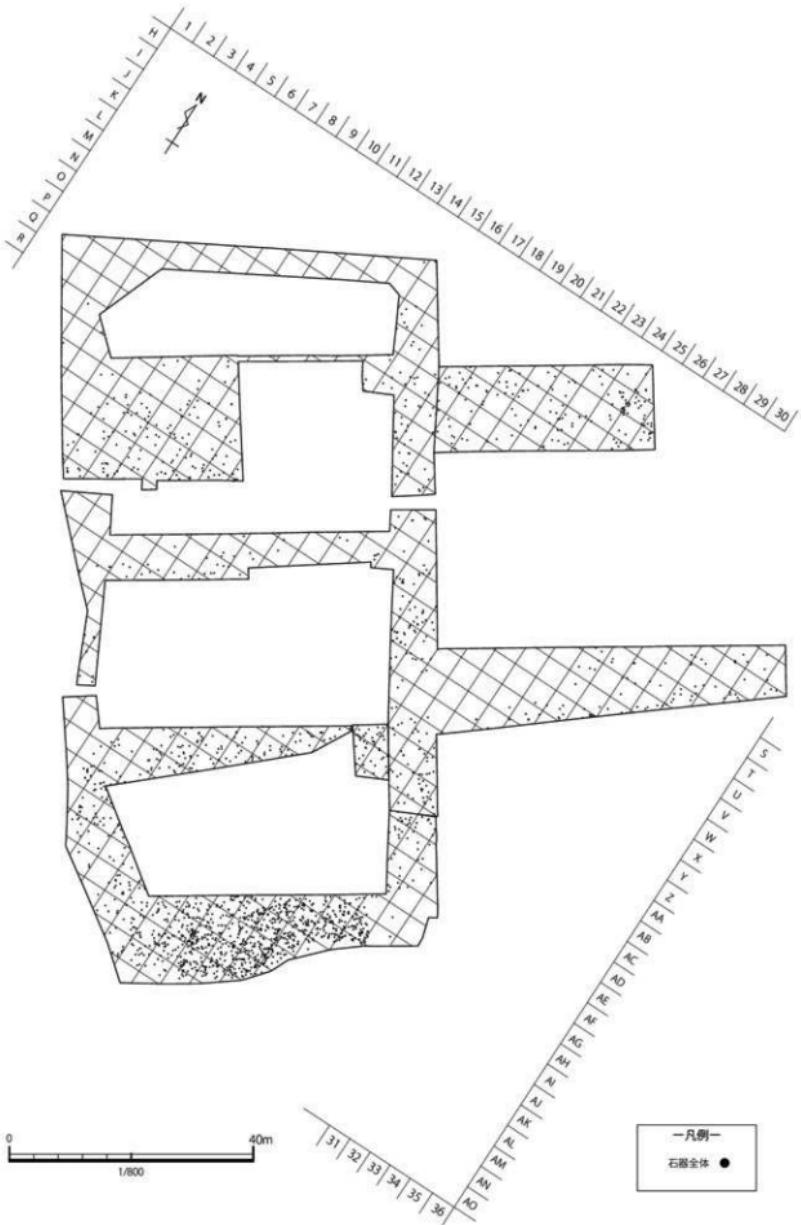
第84図 遺物分布図⑧ [4群(種別) 土師質土器] (S=1/800)



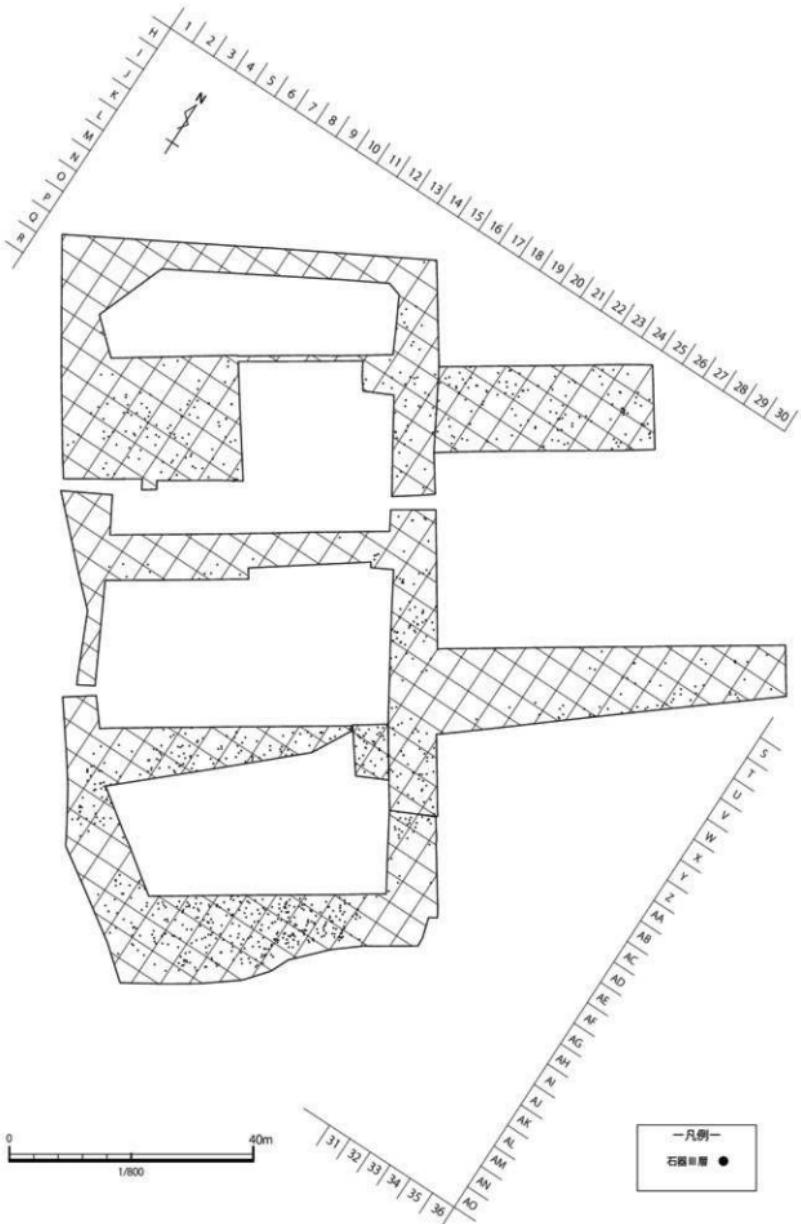
第85図 遺物分布図⑨ [4群(種別)瓦質土器、須恵質土器、陶器] (S=1/800)



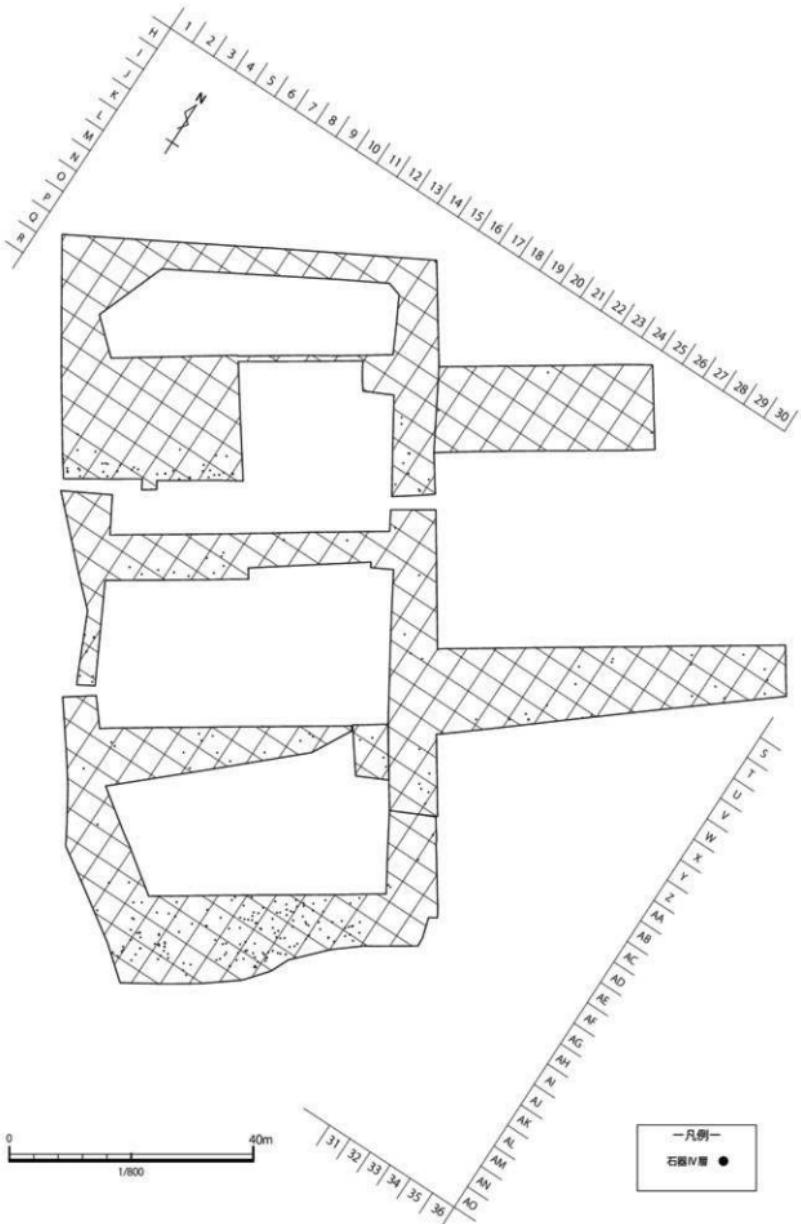
第86図 遺物分布図⑩ [4群 (種別) 白磁, 青磁, 青花] (S=1/800)



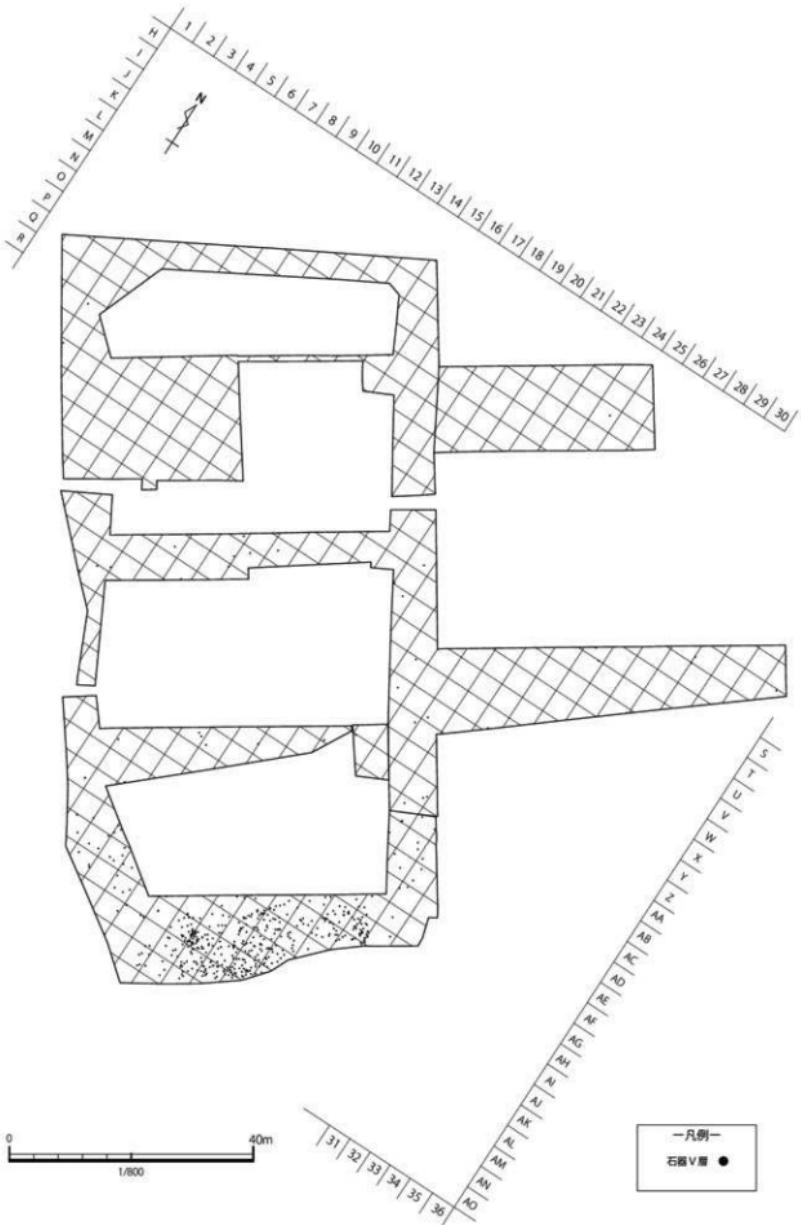
第87図 遺物分布図① [石器全体] (S=1/800)



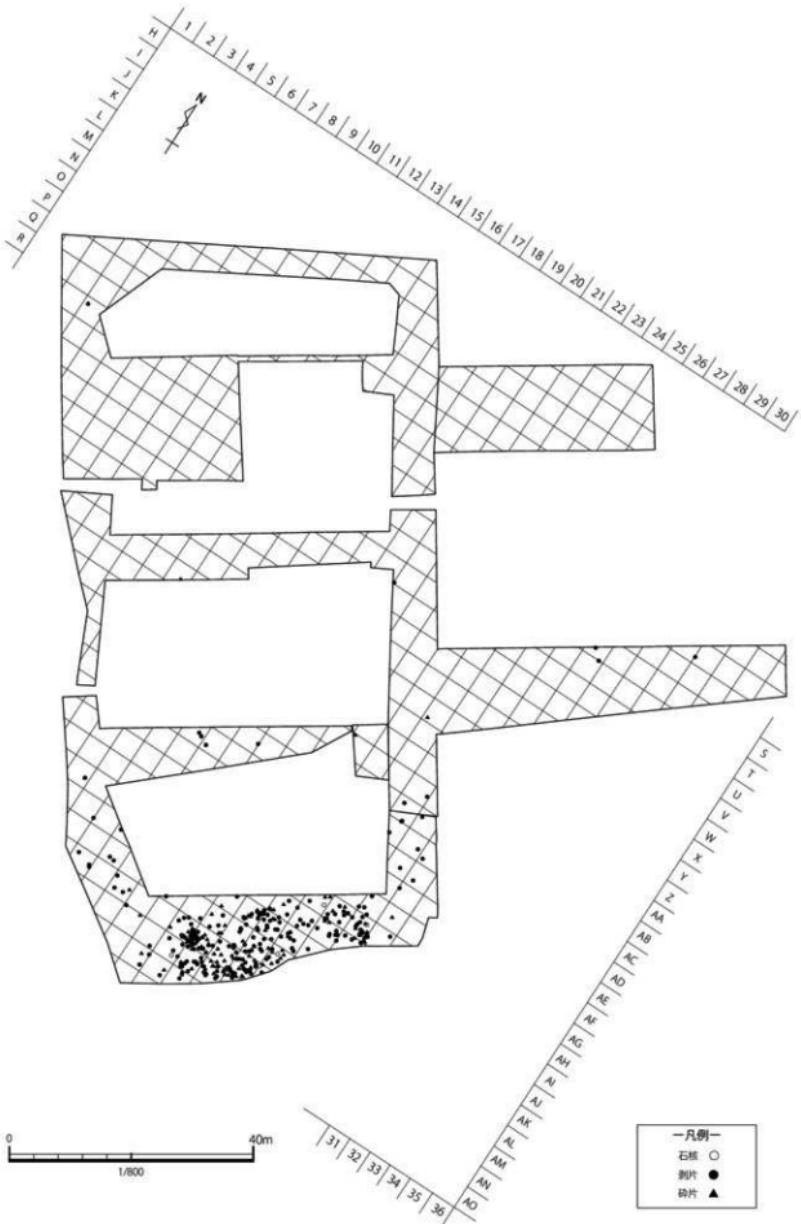
第88図 遺物分布図② [石器（層位別）Ⅲ層] (S=1/800)



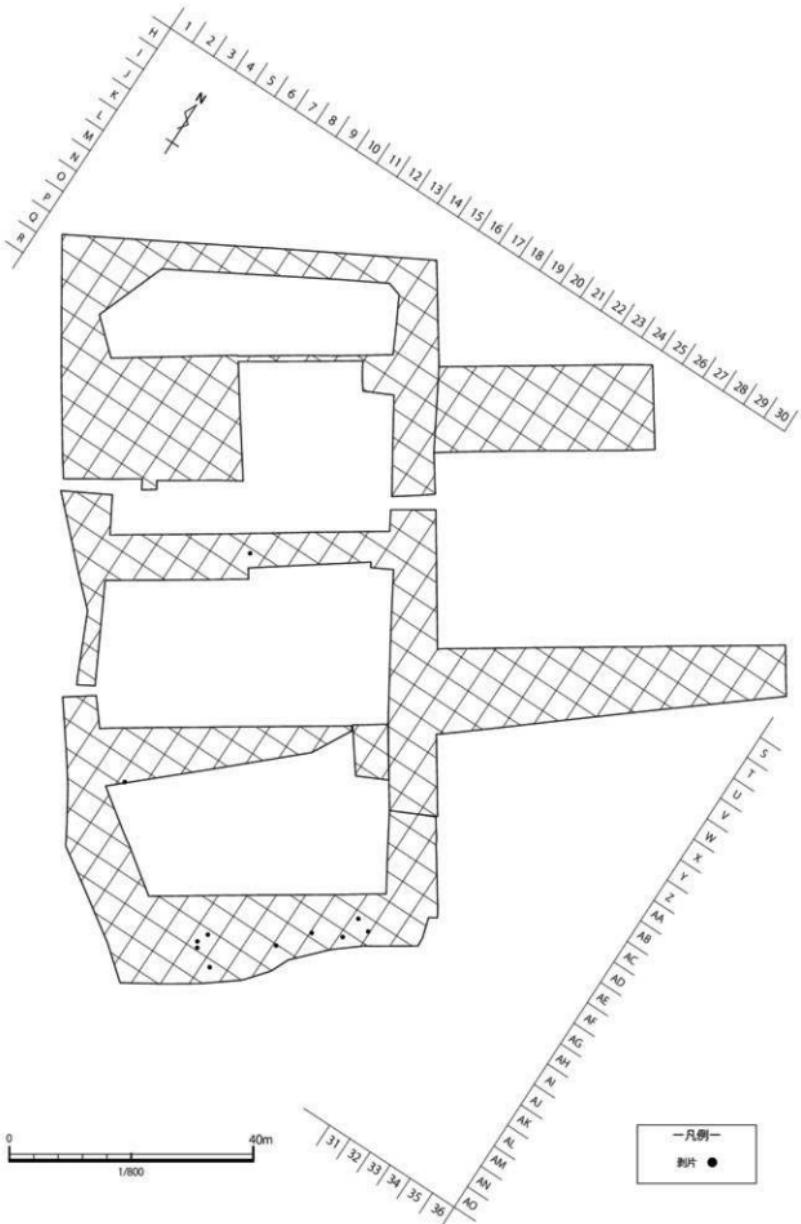
第89図 遺物分布図⑬ [石器 (層位別) IV層] (S=1/800)



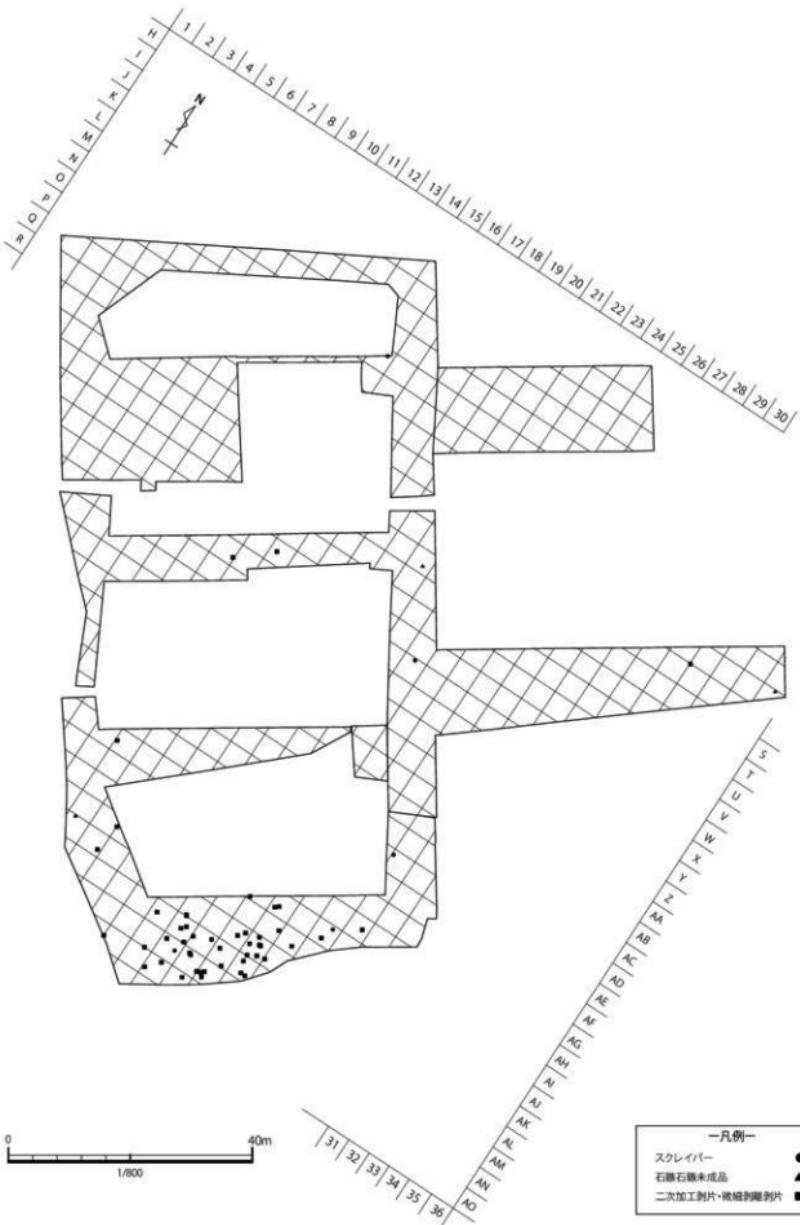
第90図 遺物分布図⑭ [石器 (層位別) V層] (S=1/800)



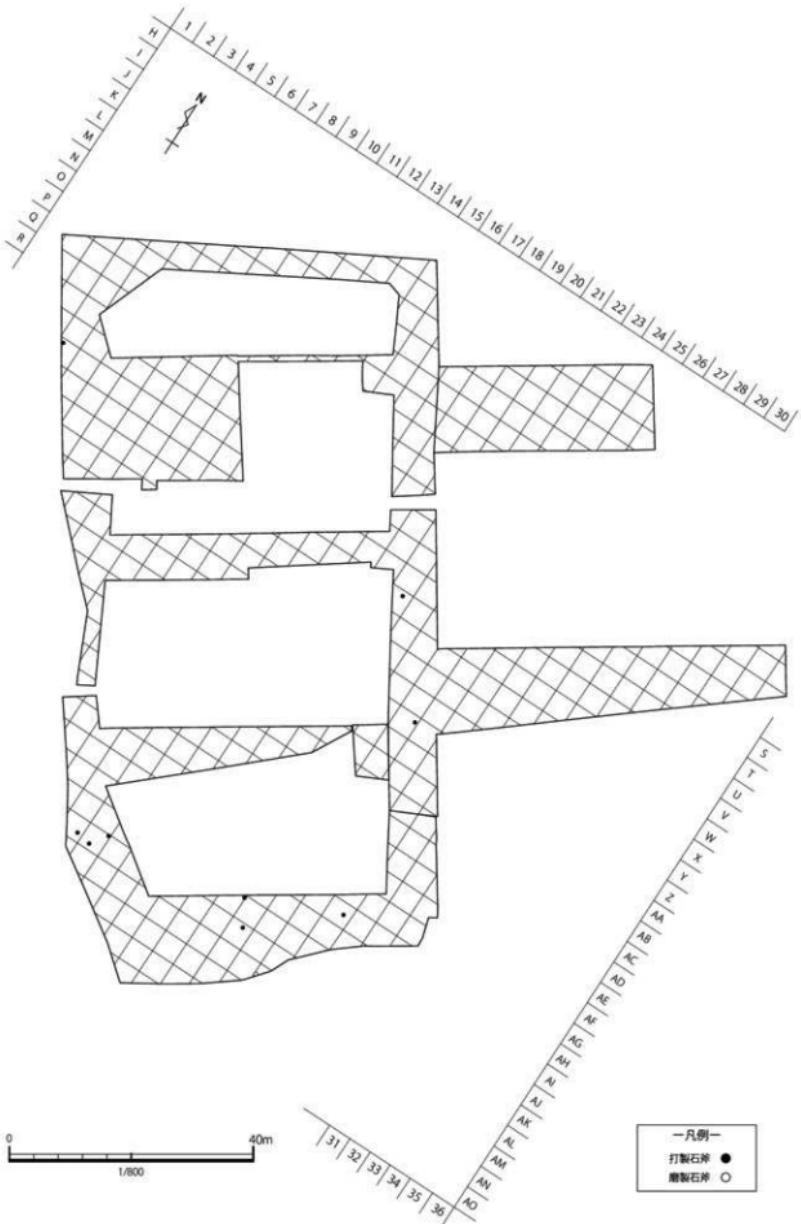
第91図 遺物分布図⑯ [石器 (黒曜石・V層・器種別) 石核, 剥片, 碎片] (S=1/800)



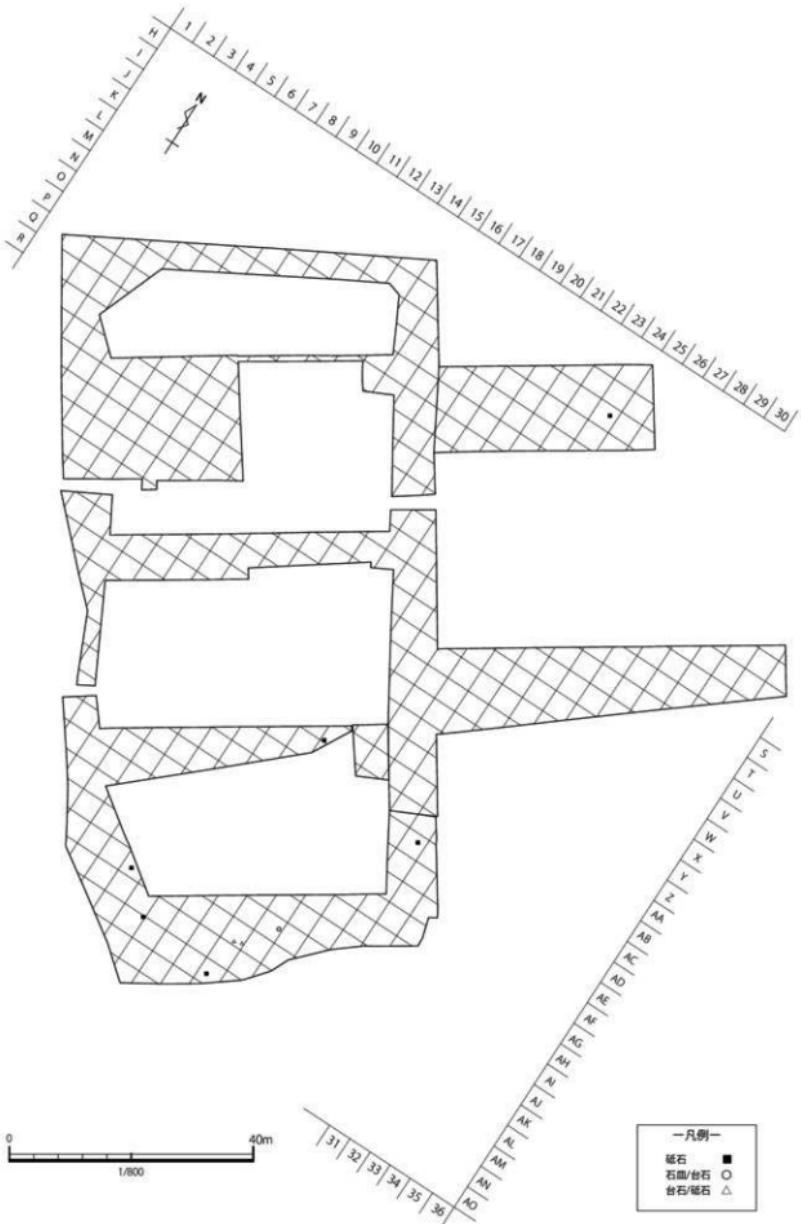
第92図 遺物分布図⑩ [石器 (サヌカイト・V層・器種別) 剥片] (S=1/800)



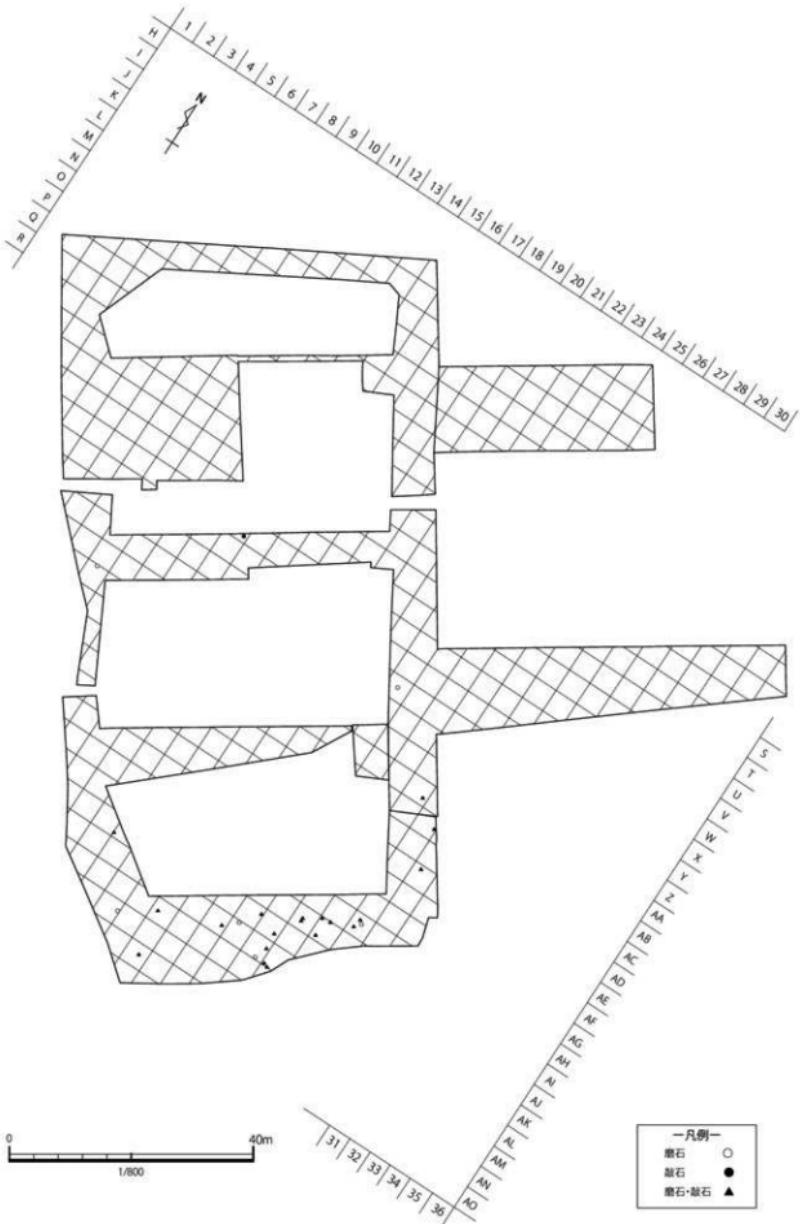
第93図 遺物分布図⑦ [石器 (V層・器種別) スクレイパー, 石鎌, 石鎌未成品, 二次加工剥片・微細剥離剥片] (S=1/800)



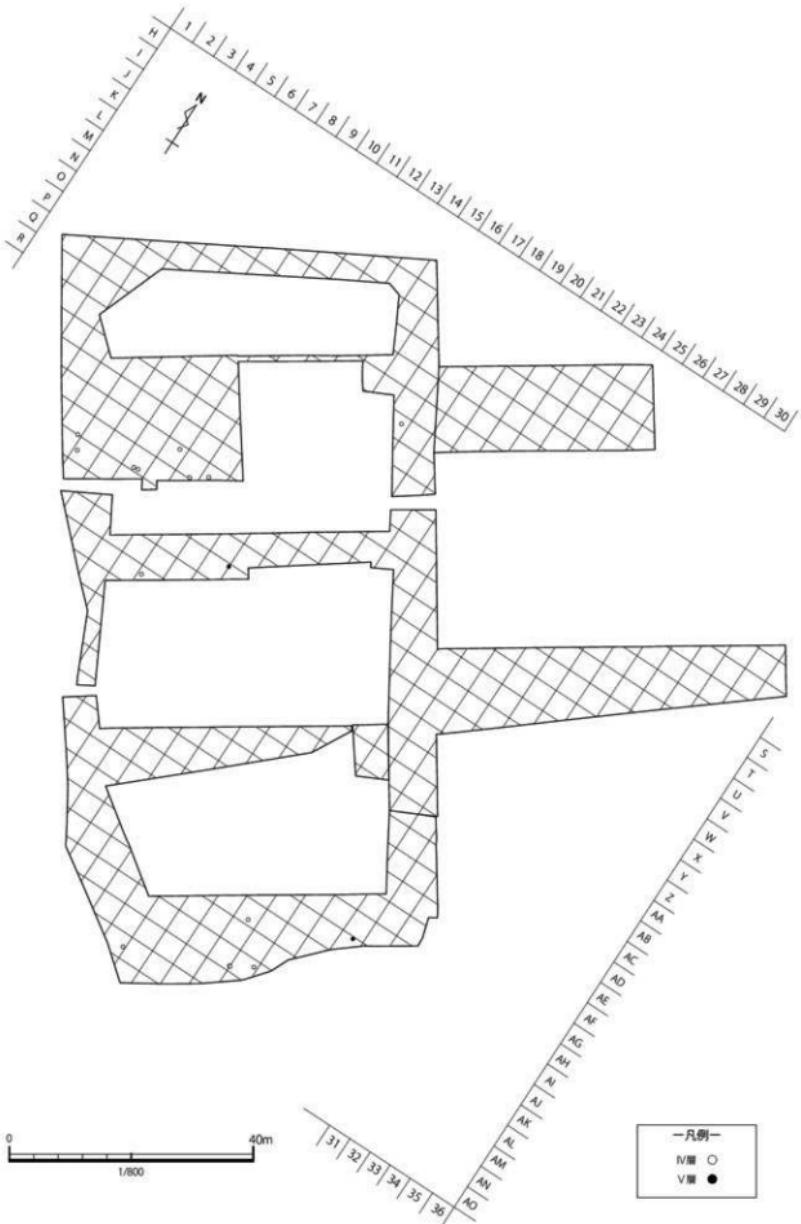
第94図 遺物分布図⑯ [石器 (V層・器種別) 打製石斧, 磨製石斧] (S=1/800)



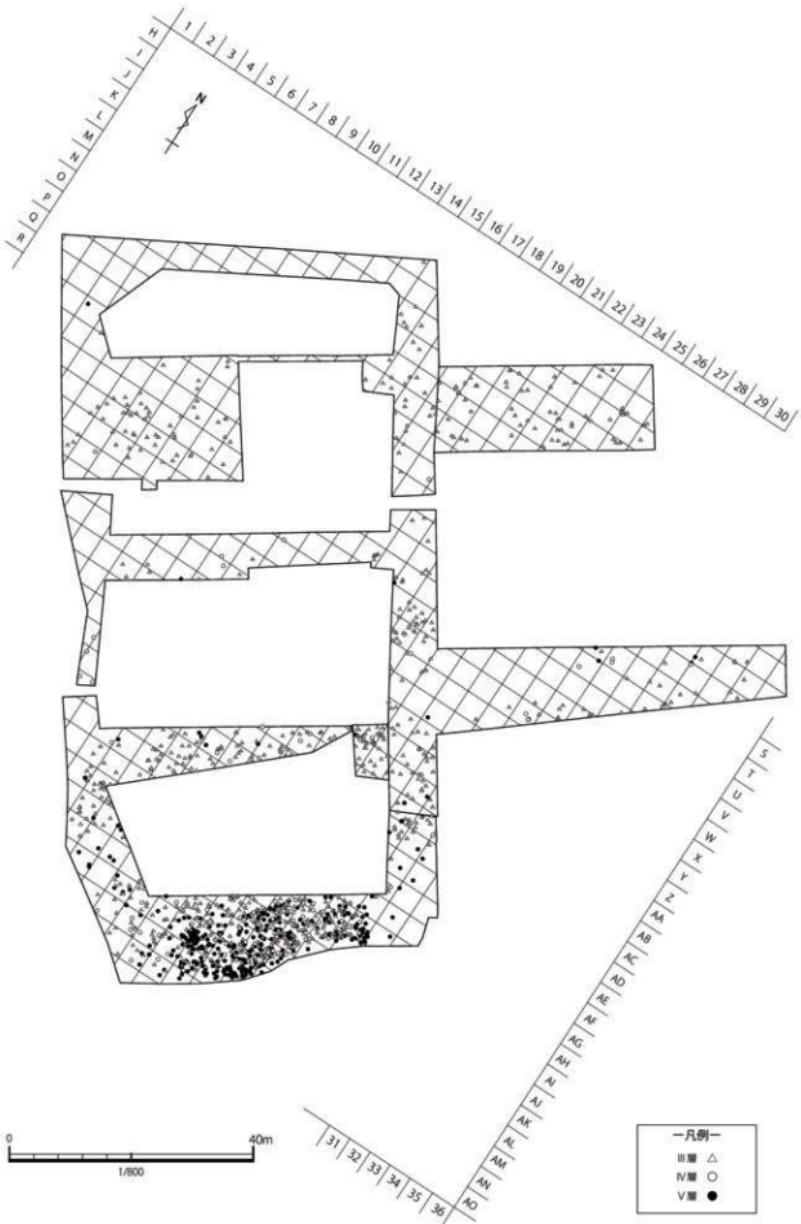
第95図 遺物分布図⑩ [石器 (V層・器種別) 磚石, 石皿/台石, 台石/磚石] (S=1/800)



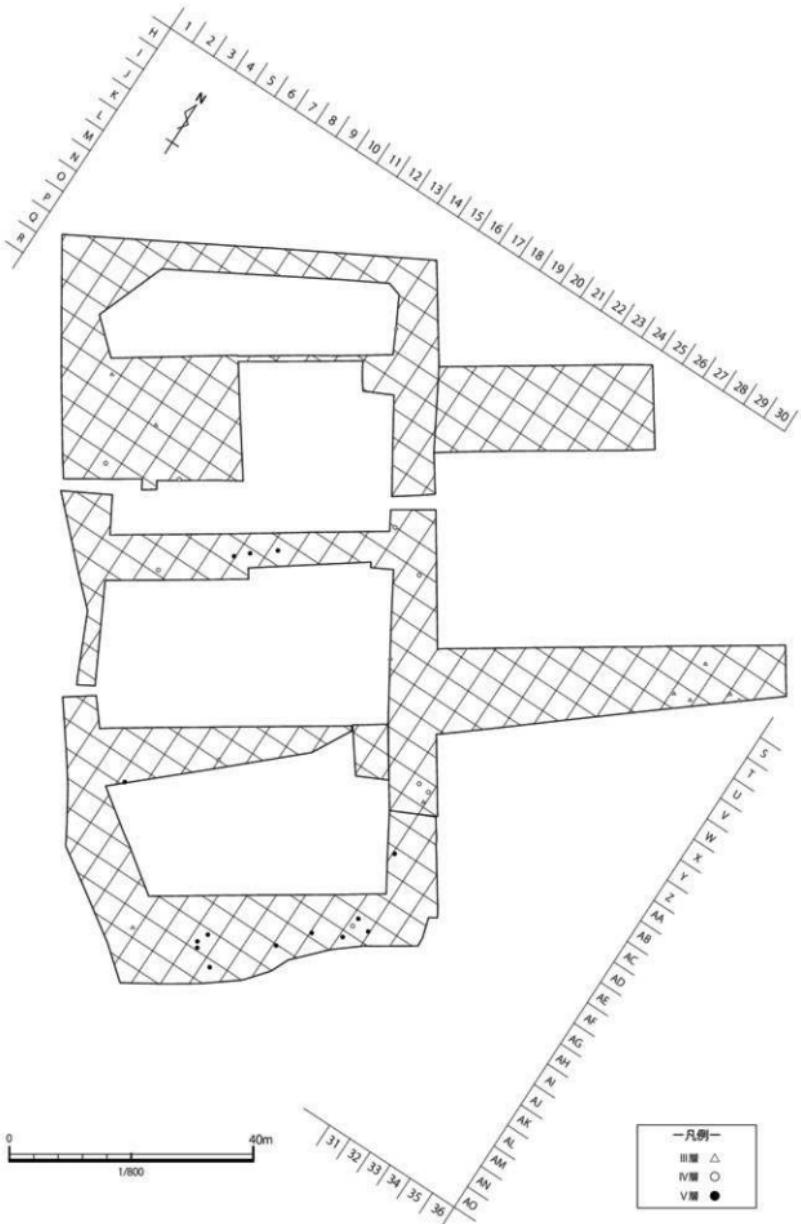
第96図 遺物分布図② [石器 (V層・器種別) 磨石, 敲石] (S=1/800)



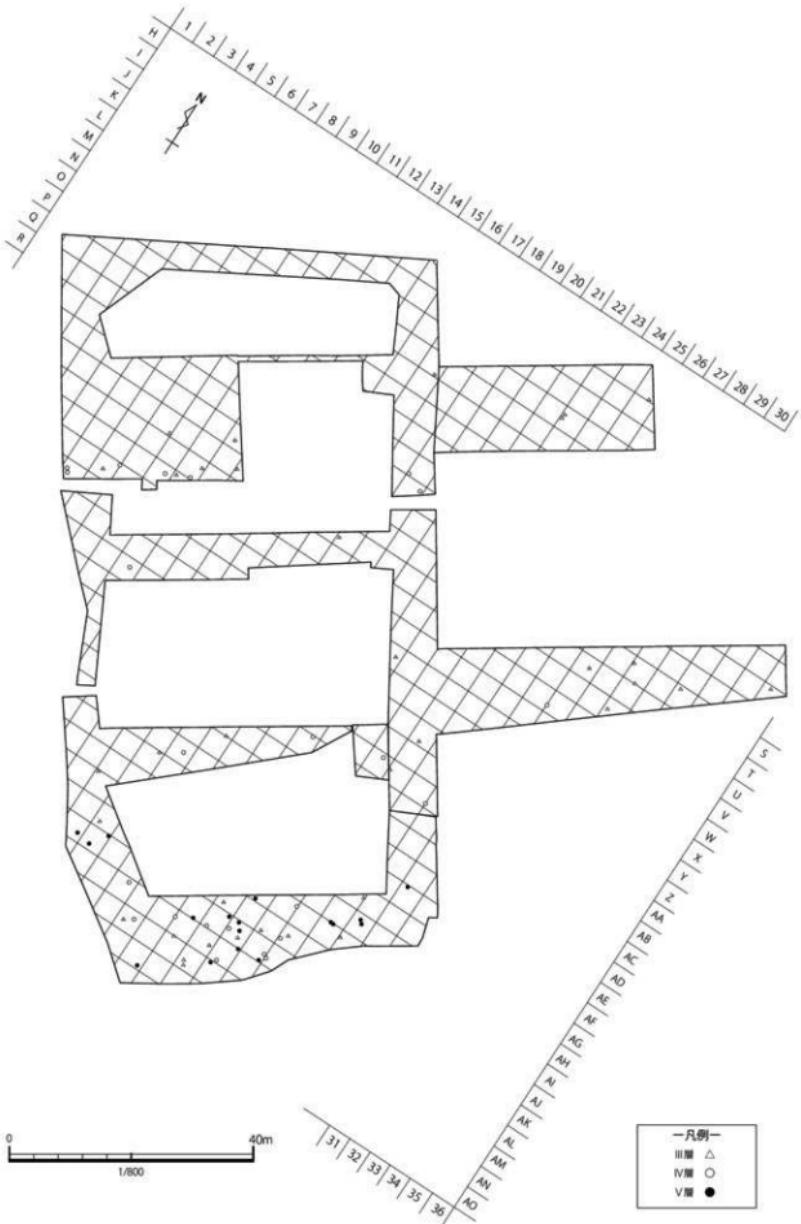
第97図 遺物分布図②) [石器 (器種別) 石鍋] (S=1/800)



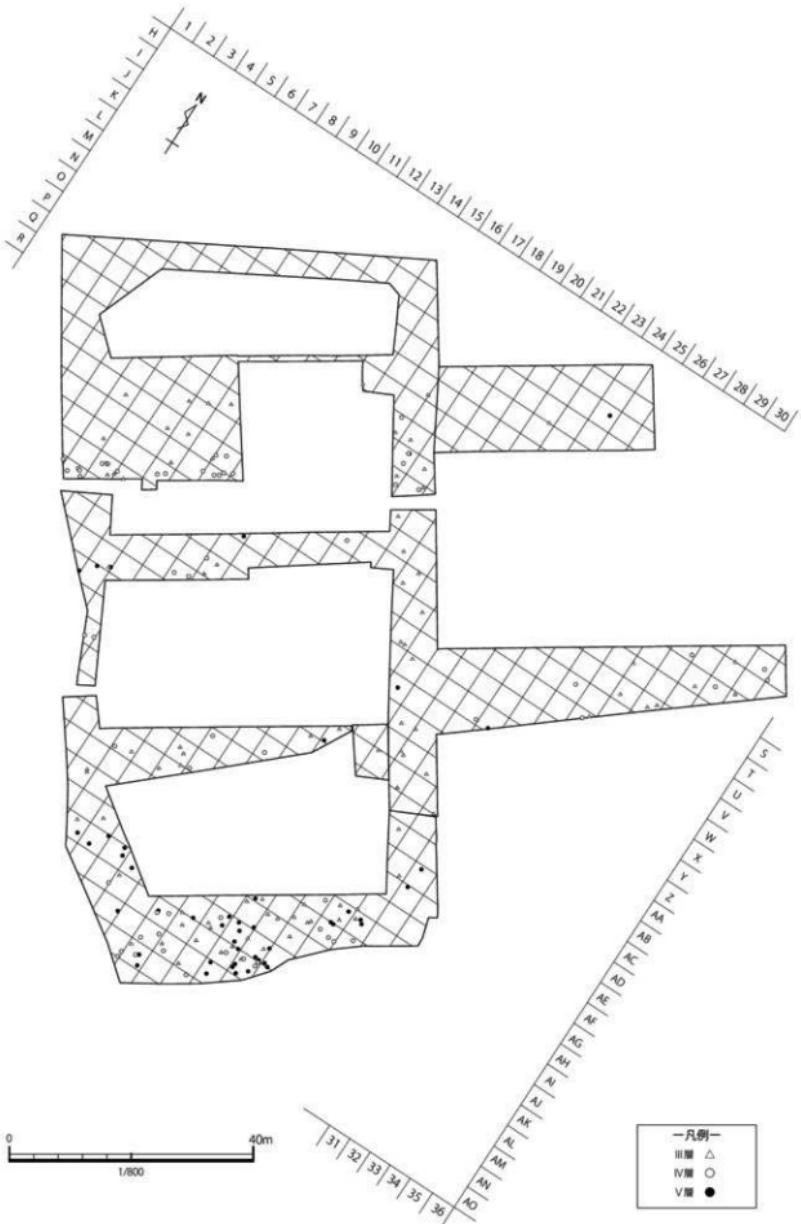
第98図 遺物分布図② [石器 (石材別) 黒曜石] (S=1/800)



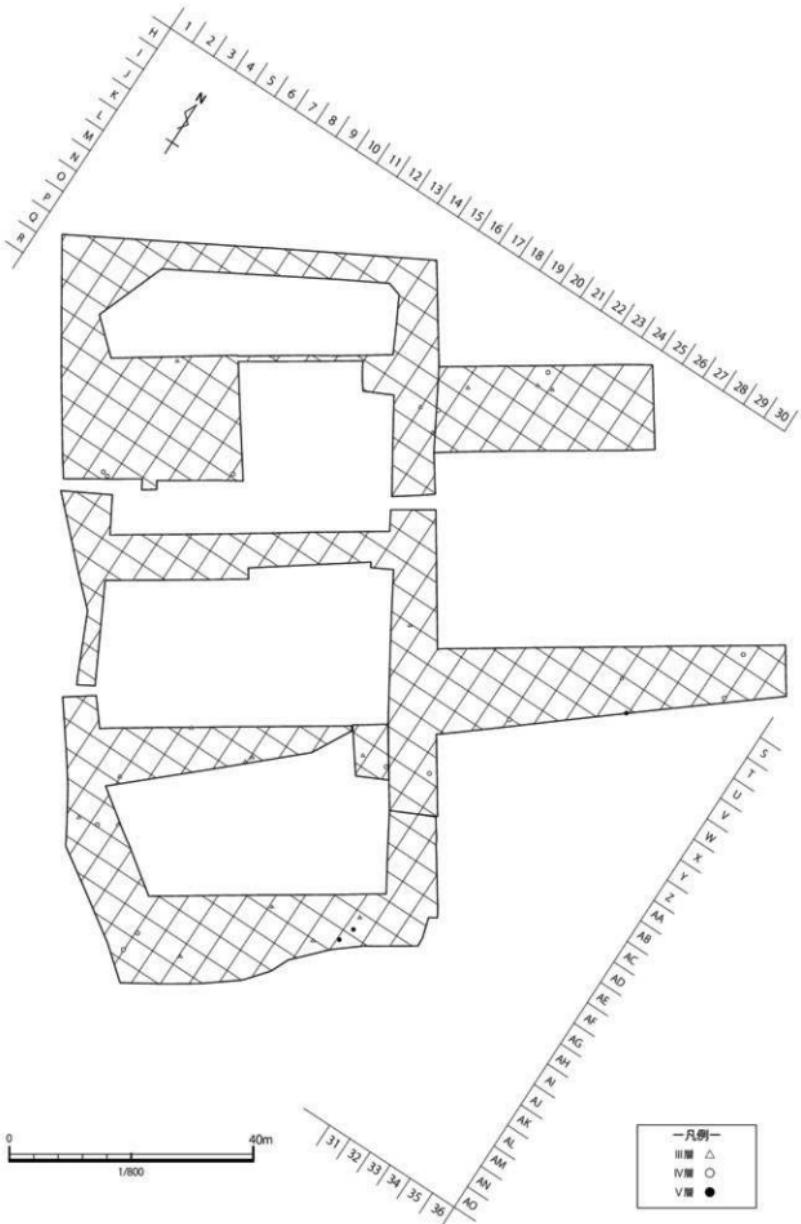
第99図 遺物分布図㉓ [石器（石材別）サヌカイト] (S=1/800)



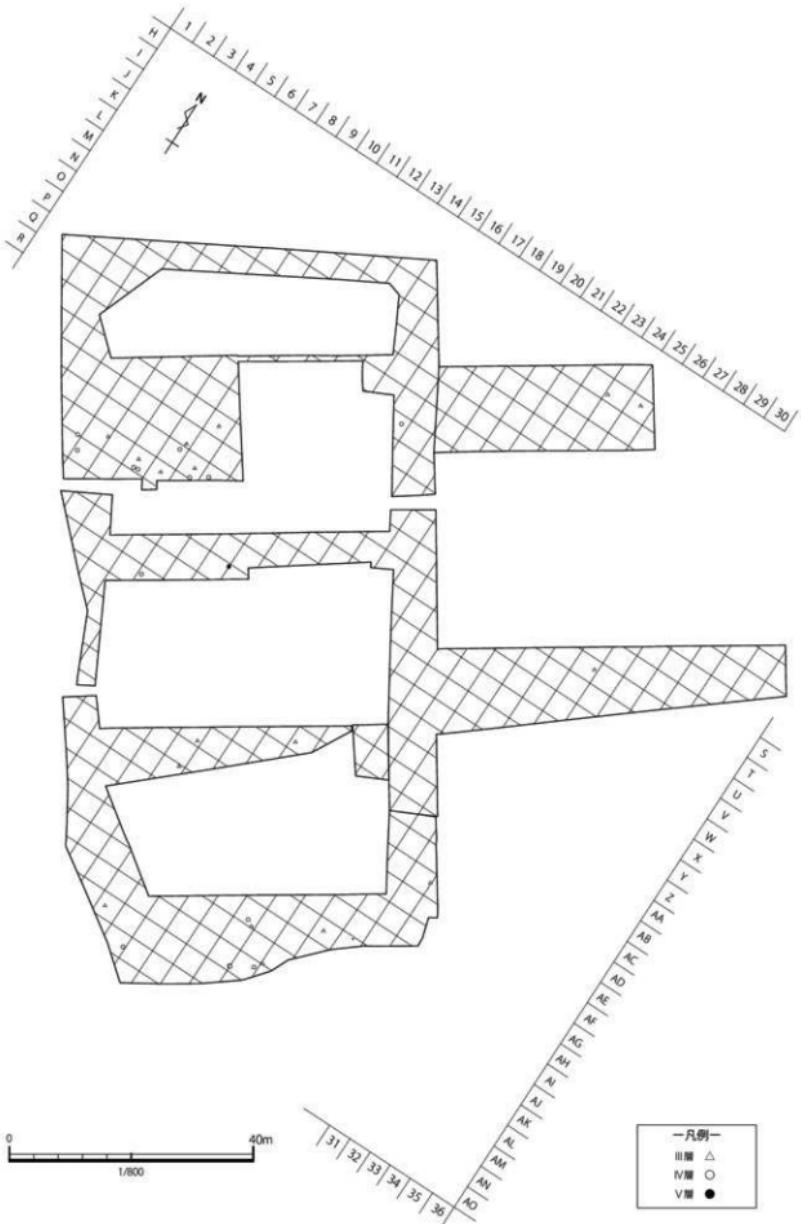
第100図 遺物分布図② [石器 (石材別) 安山岩] (S=1/800)



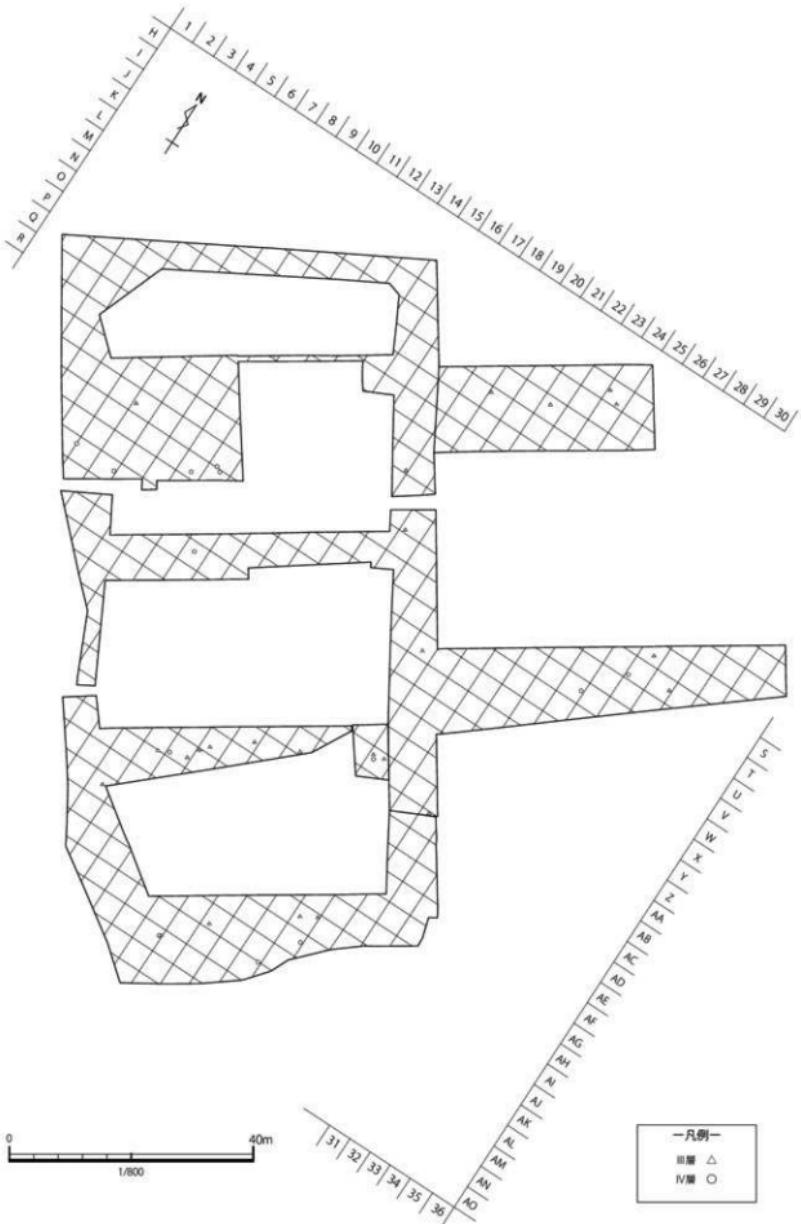
第101図 遺物分布図◎ [石器（石材別）砂岩] (S=1/800)



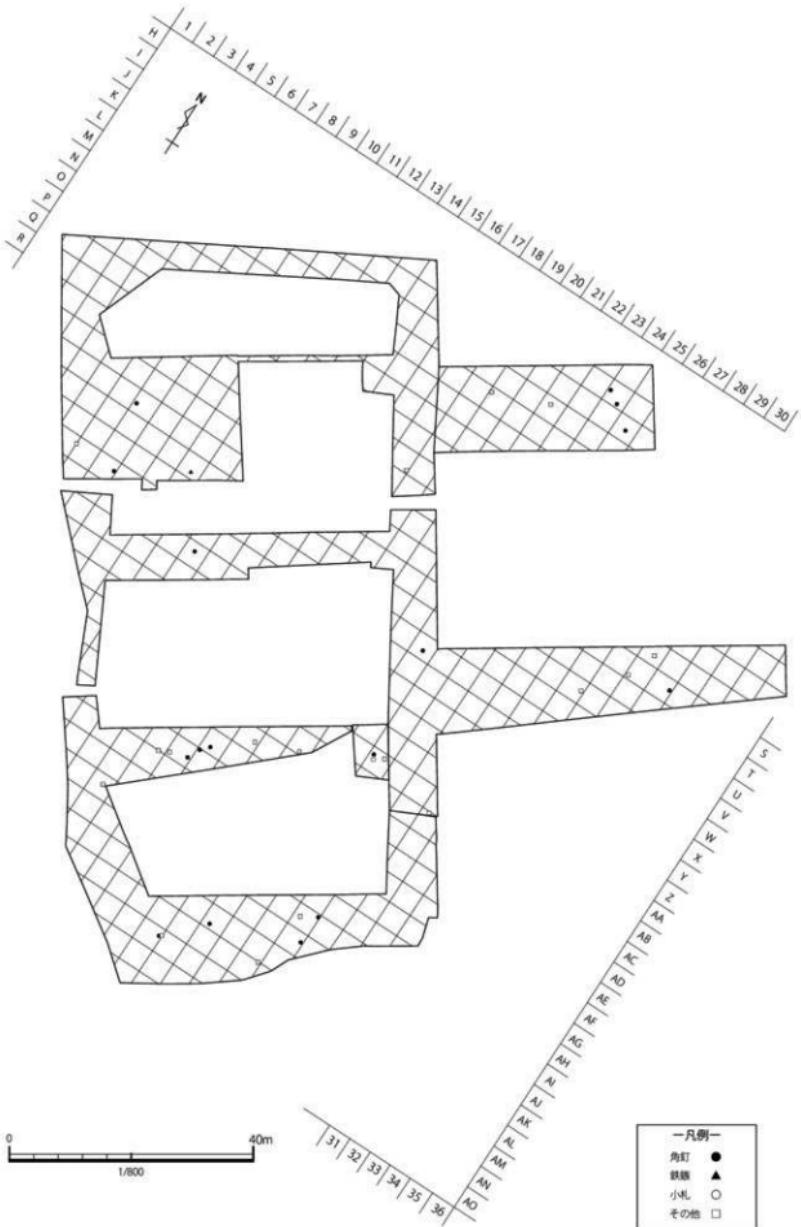
第102図 遺物分布図巻 [石器 (石材別) 結晶片岩] (S=1/800)



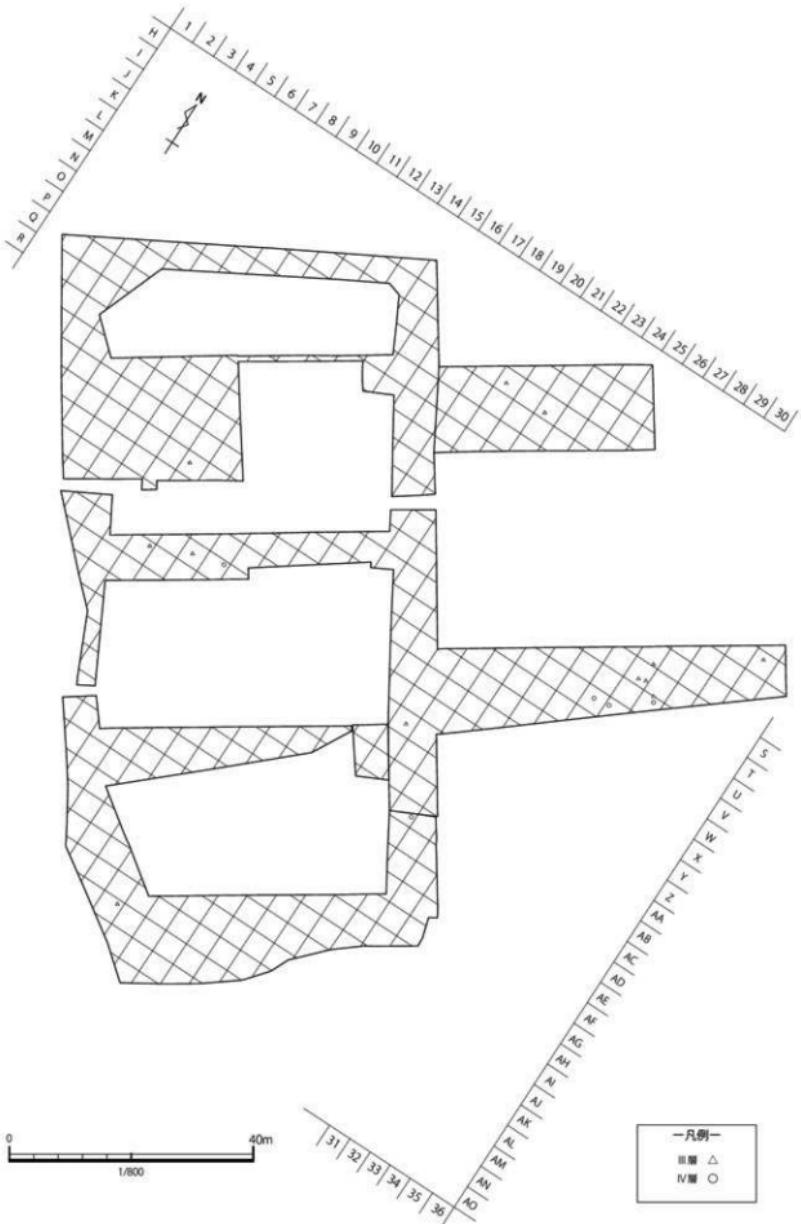
第103図 遺物分布図㉗ [石器（石材別）滑石] (S=1/800)



第104図 遺物分布図㉙ [鉄器 (層位別)] (S=1/800)



第105図 遺物分布図㊂ [鉄器 (器種別)] (S=1/800)



第106図 遺物分布図⑩ [鉄滓 (層位別)] (S=1/800)

図 版



出口遺跡航空写真①

図版 2



出口遺跡航空写真②



出口遺跡航空写真③

図版 4



調査地近景（南から）



調査地近景（東から）



TP.31南西壁土層



TP.32南西壁土層



TP.33南西壁土層



TP.34南西壁土層

調査地区（追加工区）試掘調査①



TP.35南西壁土層



TP.33遺物出土状況



作業状況



埋め戻し状況

諫訪地区（追加工区）試掘調査②

図版 6



E区調査前状況（北東から）



G区調査前状況（南東から）



表土剥ぎ状況①



表土剥ぎ状況②

図版 8



作業状況



埋め戻し状況①



埋め戻し状況②

図版 10



平成30年度本調査区（A～D区）



平成29年度本調査区（E～G 区）

図版 12



平成28年度本調査区（H・I区）



大溝 1・大溝 2 検出状況

図版 14



D区V層上面遺構検出状況



A + B区V層上面遺構検出状況



F·G区V层上面遗构探出状况



E・F区V層上面遺構検出状況

図版 18



A区北西壁土層



D区南東壁土層



G区北西壁土層



G区北東壁土層

図版 20



H区北西壁土層



I区北西壁土層①



I 区北西壁土層②



大溝堆積状況



土坑検出状況①



土坑検出状況②



大満 1・2 検出状況（北から）



大満 1・2 検出状況（西から）



1



3



2



4

土坑内出土遗物



大溝 1・大溝 2 内出土遺物



掘立柱建物 1・2 検出状況（北から）



掘立柱建物 3・4 検出状況（南東から）



掘立柱建物 5・6・7 検出状況（東から）



掘立柱建物 10・柱穴列 1 検出状況（北から）



掘立柱建物 11 検出状況（南から）



掘立柱建物 14・15 検出状況（北から）



掘立柱建物 16・17 検出状況（南東から）



掘立柱建物 18・19 検出状況（北から）



掘立柱建物 20 検出状況（北東から）



掘立柱建物 21・22 検出状況（南東から）



掘立柱建物 23 検出状況（西から）



掘立柱建物 24 検出状況（北東から）

図版 32



掘立柱建物 24・25 検出状況（北から）



A区Ⅲ層遺物検出状況（西から）



D区Ⅲ層遺物検出状況（東から）

図版 34



E区Ⅲ層遺物検出状況（北東から）



E区Ⅳ層遺物検出状況（北東から）



F 区III層遺物検出状況（北から）



F 区IV層遺物検出状況（南東から）



H区Ⅲ層遺物検出状況（北東から）



I区Ⅲ層遺物検出状況（北東から）



H区IV層遺物検出状況（北東から）



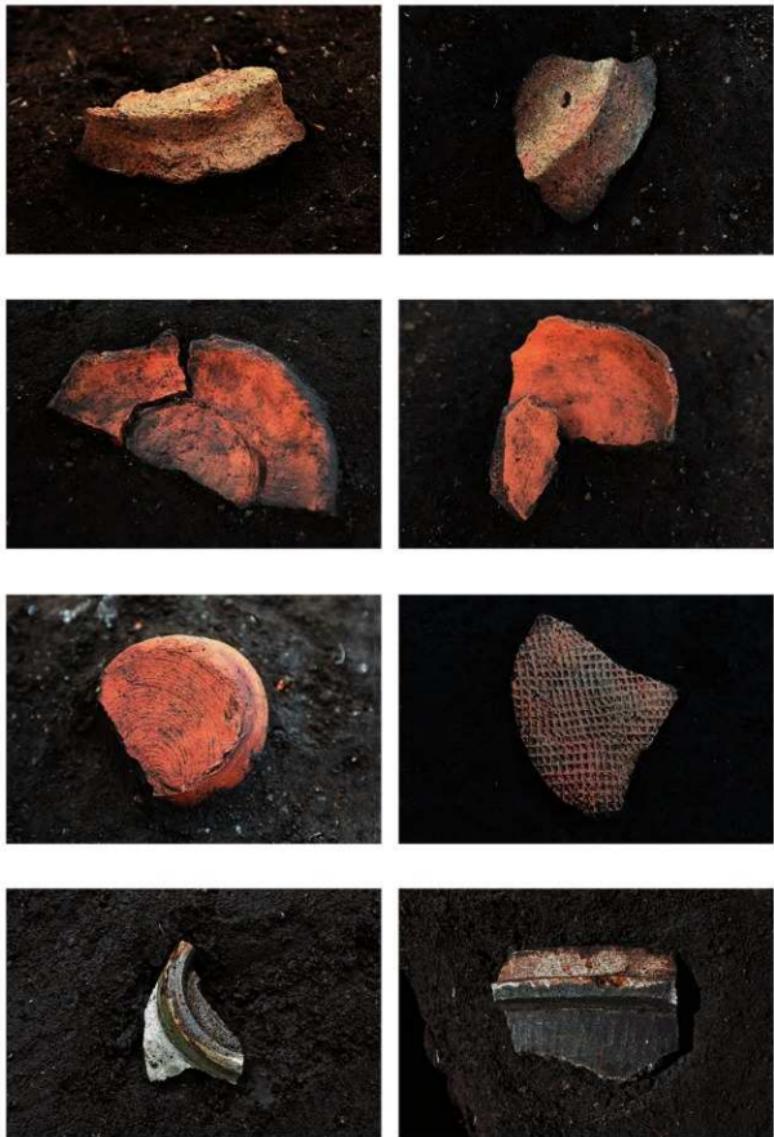
I区IV層遺物検出状況（北東から）



H区V層遺物検出状況（北東から）



I区V層遺物検出状況（東から）



遗物出土状况①



遺物出土状況②

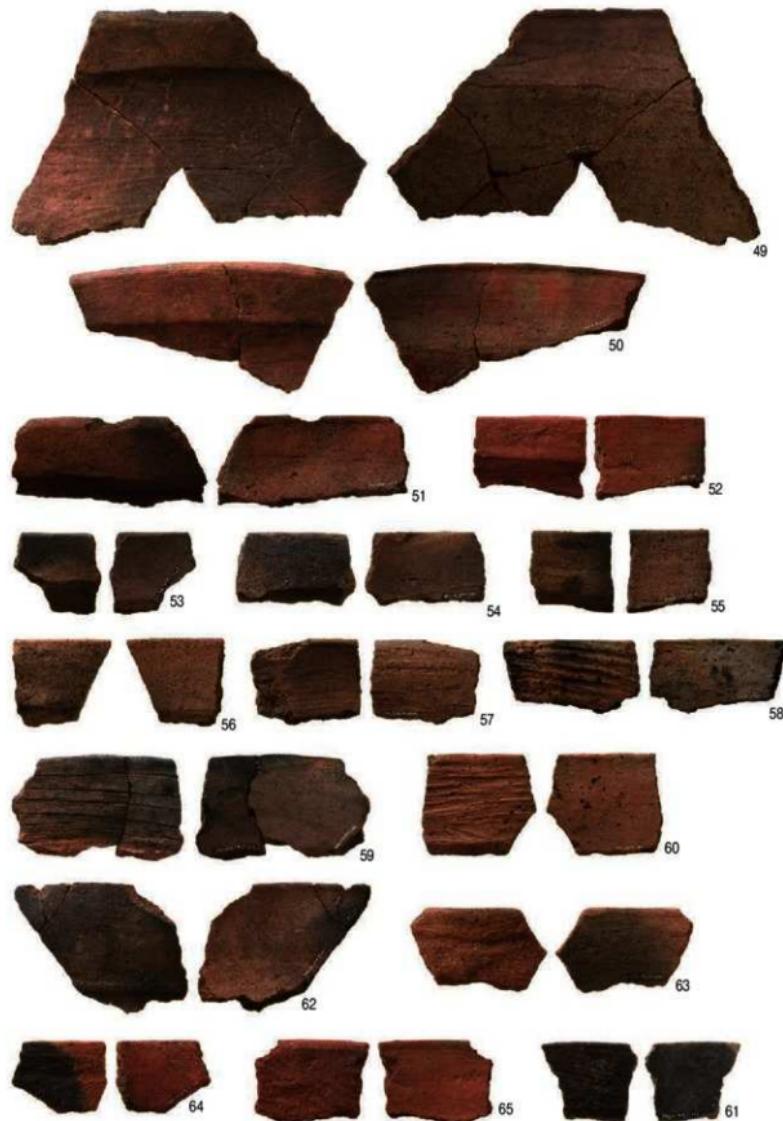


土器・陶磁器ほか①

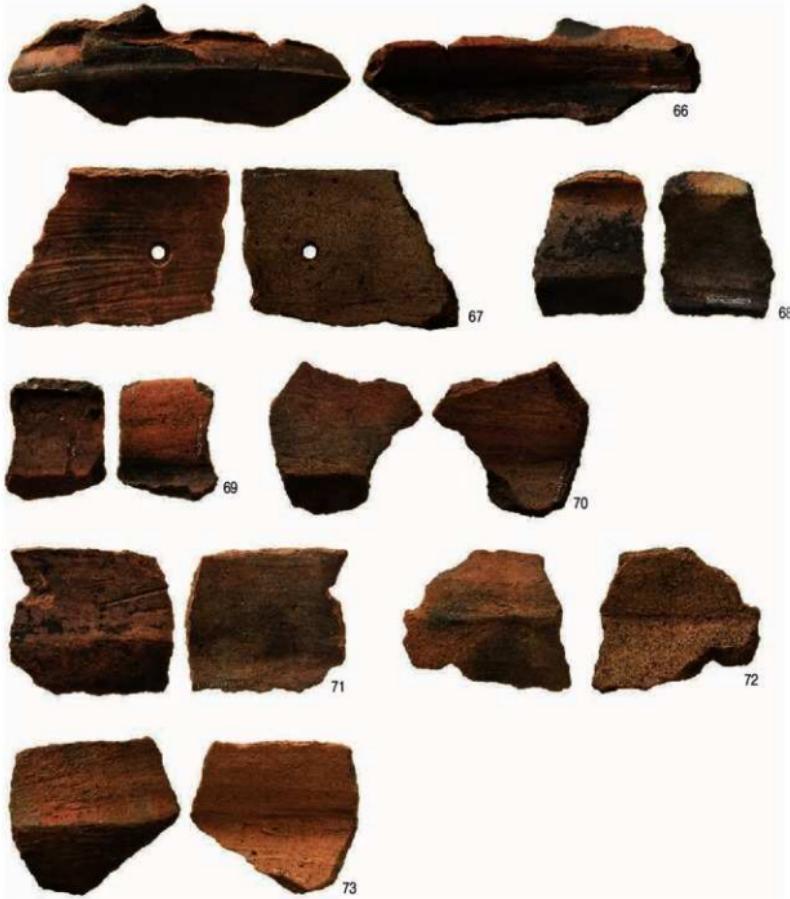
図版 42



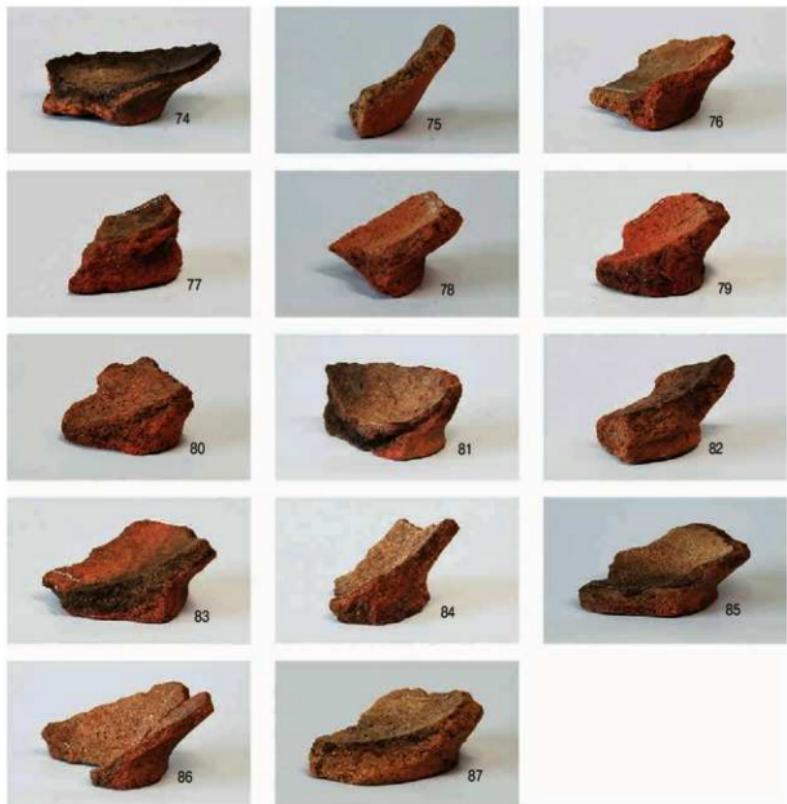
土器・陶磁器ほか②



土器・陶磁器ほか③



土器・陶磁器ほか④



土器・陶磁器ほか⑤

図版 46



土器・陶磁器ほか⑥



土器・陶磁器ほか⑦

図版 48



土器・陶磁器ほか⑧

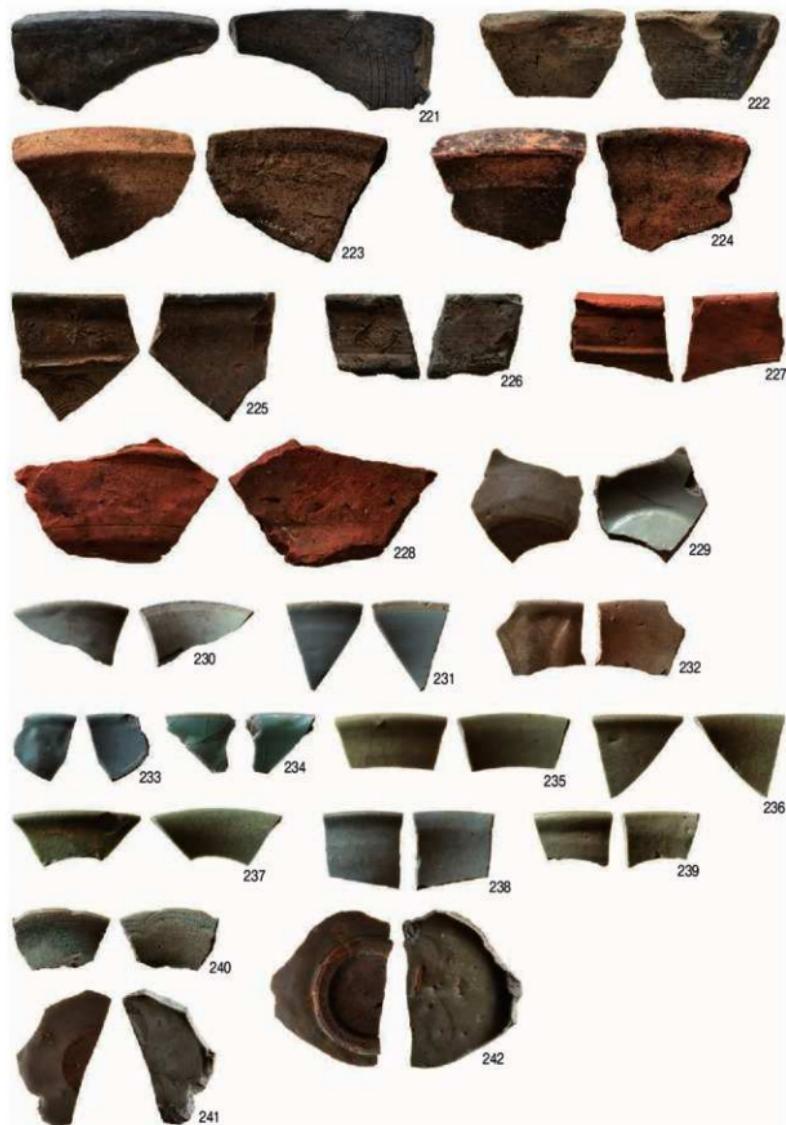


土器・陶磁器ほか⑨

図版 50



土器・陶磁器ほか¹⁰

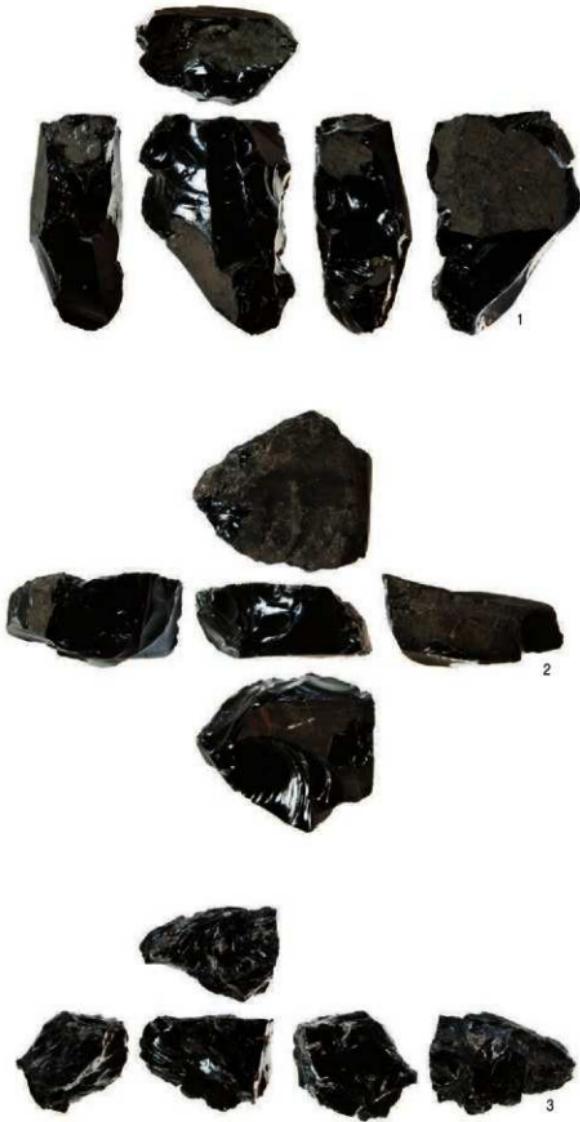


土器・陶磁器ほか⑪

図版 52



土器・陶磁器ほか¹²⁾



石器①



石器②



石器③

図版 56

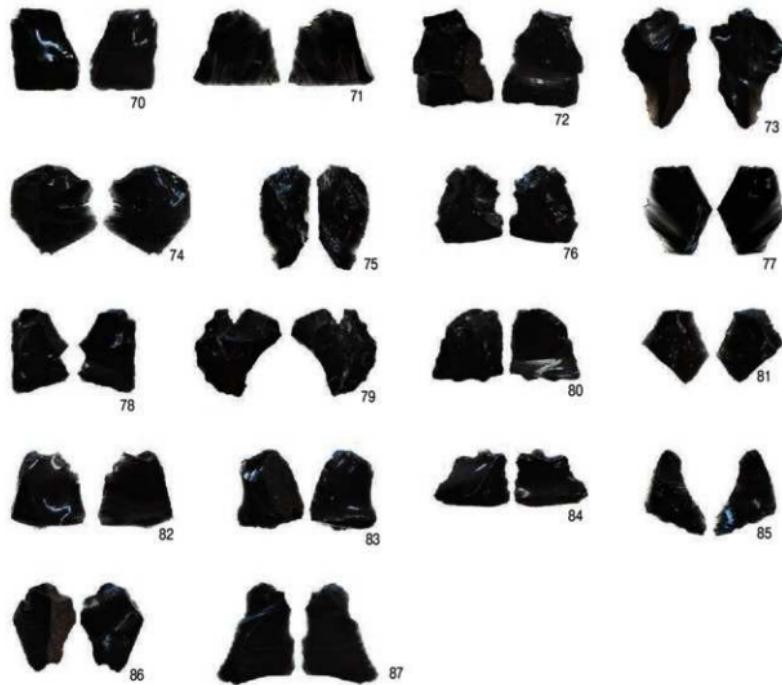


石器④

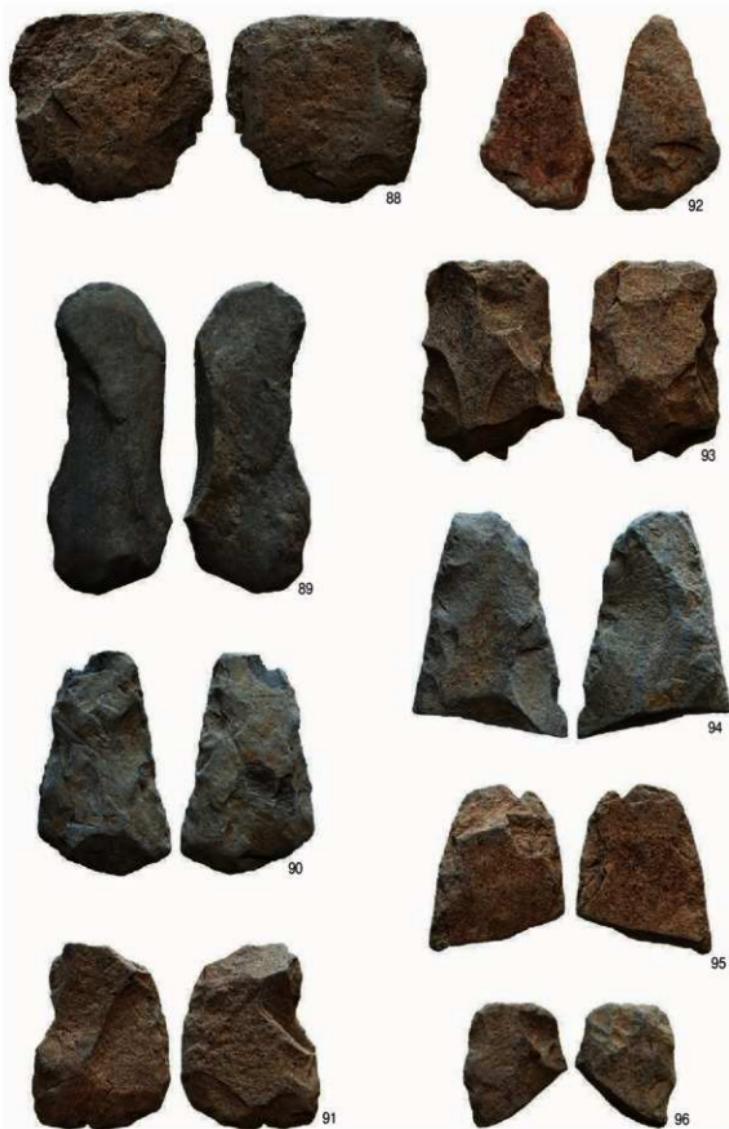


石器⑤

図版 58



石器⑥



石器⑦



石器⑧



109



110



111



112



113



114

石器⑨

図版 62



115



116



117



118



119



120



121



122



123



124

石器⑩



石器⑪



金属器

報告書抄録

ふりがな	でぐちいせき							
書名	出口遺跡							
副書名	県営水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・諏訪地区）に伴う発掘調査							
卷次								
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第27集							
編著者名	本多 和典							
編集機関	長崎県南島原市教育委員会							
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地 TEL 0957-73-6705							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
でぐちいせき 出口遺跡	南島原市 深江町	42214	151	32° 43' 11"	130° 20' 51"	20160801 ～ 20161130 20171024 ～ 20180323 20180820 ～ 20190313 20190821 ～ 20191011	1,334m ² 1,460m ² 1,788m ² 50m ²	県営水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・諏訪地区）
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
出口遺跡	遺物 包含地	縄文 中世		土坑 大溝 掘立柱建物 柱穴列	縄文土器 土師質土器 白磁 青磁 青花 石器			

南島原市文化財調査報告書 第27集

出口遺跡

2021.3.31

発行 長崎県南島原市教育委員会
〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地
印刷 謙早印刷株式会社

